

ラグビーワールドカップ2019™大会報告について【概要版】

令和2年1月31日
オリンピック・パラリンピック
及びラグビーワールドカップ
推進対策特別委員会

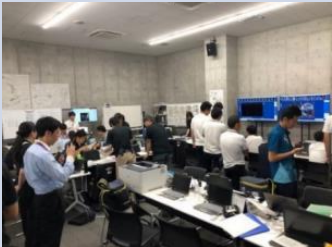
大会概要

- 開催期間 2019（令和元）年9月20日（金）から11月2日（土）まで【44日間】
- 開催都市 12会場19自治体
- 試合数 45試合（うち東京会場8試合）【当初予定48試合、台風19号の影響により3試合中止】
- 入場者数 170万4,443人（うち東京会場 380,502人）【チケット販売率 約99.3%】
- ファンゾーン来場者数 113万7,000人



事 項	主 な 取 組 内 容	
開催の決定から 大会に向けた取組 <第1章>	2009（平成21）年7月、ラグビーワールドカップ(RWC)がアジアで初めて日本で開催されることが決定 2015（平成27）年3月、東京都を含む12都市が開催都市に決定 組織委員会等と連携して着実に準備を進めるとともに、東京スタジアムで行われたラグビートストマッチを大会に向けた準備の一環と位置付け、交通輸送やイベント運営等の検証を実施 ○ ラグビートストマッチで実施した主な取組 ・シャトルバスの運行 ・パブリックビューイングイベントの実施	
気運醸成 <第2章>	RWC2019の認知度向上や、大会開催に向けた気運を醸成するため、大会までの節目に合わせたイベントの開催など、様々なプロモーションを実施 また、大会を盛り上げるとともに、開催都市の魅力・特色を国内外に印象づけるため、街灯フラッグやバス・電車のラッピングなどの都市装飾を都内各地で実施 ○ 組織委員会、関係市、施設管理者等の協力・連携の下、イベントを実施 ・開幕1000日前イベント（東京タワー） ・大会2年前イベント（東京国際フォーラム地上広場） ・大会500日前イベント（秩父宮ラグビー場） ・大会1年前イベント（銀座ソニーパーク） ・ニューイヤーイベント「東京ラグビーキャラバン」（日本青年館前～調布駅前広場） ・100日前イベント（丸ビル マルキューブ） ○ 交通事業者、施設管理者等の協力・連携の下、様々な装飾を実施 ・街灯フラッグ（都内全域の約1,100商店街等） ・バスラッピング（都営バス、小田急バス、関東バス、東急バス等30台） ・電車ラッピング（京王線、西武多摩川線、都営地下鉄新宿線等16編成） ・建物・施設装飾（羽田空港、東京国際フォーラム、京王線飛田給駅等） ・ラグビーウォールギャラリー（新宿スバルビル解体工事仮囲い、旧築地市場解体工事仮囲い等）	

ラグビーワールドカップ2019™大会報告について【概要版】

事 項	主 な 取 組 内 容	
東京都運営本部の設置 <第3章>	交通輸送、セキュリティ、ファンゾーン等の開催都市業務を行う開催都市運営本部を設置 組織委員会の運営本部と連携しながら、一体的に大会を運営 ○ 都と組織委員会が連絡・調整を円滑に実施するため、東京スタジアムでの試合日に、それぞれの本部に職員を相互に配置 ○ 大会期間中（44日間）を通じて本部機能を設け、開催都市業務を実施 ○ 運営本部には、RWC2019担当職員に、東京2020大会の準備に携わる局（関係各局を含む）の職員も加え、経験を共有できる体制とした	
会場整備・会場運営 <第3章>	組織委員会とともに、試合会場における施設・諸室の配置等を定める会場運営計画を策定 計画に基づき、大会に向け、東京スタジアムの改修や仮設、芝フィールドなどの整備を実施 ○ RWC2019と東京2020大会の両大会を見据えて、アクセシビリティの向上や施設老朽化への対応、施設の機能向上を実施 ○ 仮設メディア席の設置等のスタンド改造、インゴール付近の照度を確保するための競技用照明の仮設設置、スペクテータープラザの観客向けの仮設トイレの設置等を実施 ○ スクラム等の負荷に対して高い耐久性を有するハイブリッド芝を整備。全試合会場で最多の8試合が行われたが、大きな損傷なく、大会期間を通じて良好な芝フィールドを提供	
交通輸送 <第3章>	観客の安全かつ円滑な移動を目指し、都、組織委員会、警視庁、交通事業者、地元3市等による「東京スタジアムの会場周辺及びアクセス検討プロジェクトチーム（PT）」を設置 PTによる議論を経て、交通輸送計画を策定して実施 ○ 京王電鉄(株)、西武鉄道(株)による特急の臨時停車や臨時列車の増発等により、円滑な観客輸送を実施 ○ SNS等様々な方法による情報発信や、小田急バス(株)、京王電鉄バス(株)によるシャトルバスの運行などにより、観客の来退場ルートや入退場時間を分散 ○ 多数の外国人観戦者に対応するため、観客向けの広報を日本語及び英語で記載。会場への案内サインについては、日・英・ピクトグラムで表記 ○ 車椅子利用者を対象に、飛田給駅とスタジアムを往復する「おもいやりシャトルバス」と、退場時に利用者の指定先へ輸送する「おもいやり送迎車両」を実施	

ラグビーワールドカップ2019™大会報告について【概要版】

事 項	主 な 取 組 内 容										
試合会場周辺、ラストマイル等の安全・安心の確保 ＜第3章＞	試合会場周辺やラストマイル等の安全・安心を確保するため、組織委員会、警視庁、東京消防庁、地元自治体等の関係機関と協議を重ね、警備計画を策定。試合会場周辺における傷病者への対応、受動喫煙の防止、清掃などを含め、関係機関の協力のもと対応 ○ 外国語翻訳機能付きトランジスタメガホンの活用等により、外国人観戦者を含めた観客の安全かつ円滑な移動を確保するとともに、ラストマイルにウェアラブルカメラを装着した警備員を配置し、混雑エリアの滞留状況や事案発生時の現地状況をリアルタイムに把握 ○ 武蔵野の森総合スポーツプラザ内に救護スペースを設置。医師・看護師が医療機関への移送の判断、応急手当などを迅速・的確に実施 ○ ラストマイル上のごみの投棄に対し、当初予定していた試合終了後の清掃に加え、試合開始前や試合中等もきめ細かく清掃を実施し、良好な環境を維持										
ファンゾーン ＜第4章＞	パブリックビューイングやケータリング、ラグビーの普及活動など、無料で誰もが気軽に訪れることができるファンゾーンを多摩（調布）及び区部（有楽町）の2か所で運営 ステージイベントやラグビーアクティビティ、他自治体PRなども展開 台風19号の影響により中止になった日もあったが、国内外から想定を上回る来場者があった。 ○ 会場に都内区市町村のPRエリアを設けるとともに、区部においては、全ての開催都市のPRコーナーも設置するなど、他自治体と連携 ○ 台風19号への対応として、組織委員会やファンゾーン所在自治体と連携し、気象情報や公共交通機関の状況を踏まえ、中止（多摩2日、区部1日）や開場時間の変更（多摩・区部ともに1日）、内容の変更を行った。 【来場者数】 <table><tr><td>多摩（16日間）</td><td>131,900人（想定18日間</td><td>82,500人）</td></tr><tr><td>区部（25日間）</td><td>178,600人（想定26日間</td><td>102,500人）</td></tr><tr><td>合 計</td><td>310,500人</td><td>185,000人</td></tr></table> ○ 大会の一層の盛り上げを図るため、都内各区市が、独自にパブリックビューイングを実施した。 ※10区10市（港区、新宿区、文京区、台東区、墨田区、中野区、杉並区、北区、練馬区、足立区、武蔵野市、三鷹市、青梅市、府中市、昭島市、町田市、日野市、国分寺市、狛江市、西東京市）	多摩（16日間）	131,900人（想定18日間	82,500人）	区部（25日間）	178,600人（想定26日間	102,500人）	合 計	310,500人	185,000人	 
多摩（16日間）	131,900人（想定18日間	82,500人）									
区部（25日間）	178,600人（想定26日間	102,500人）									
合 計	310,500人	185,000人									

3

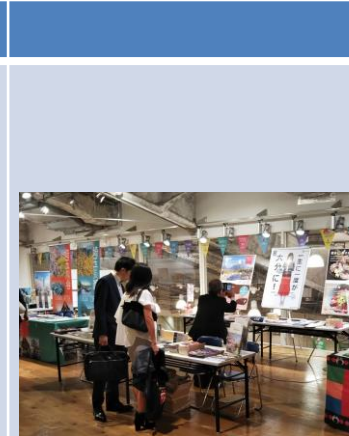
ラグビーワールドカップ2019™大会報告について【概要版】

事 項	主 な 取 組 内 容
ボランティア ＜第5章＞	国内外から訪れる観客を温かいホスピタリティで迎え、おもてなしするボランティアは、大会を大いに盛り上げるとともに、東京・日本の魅力を伝える「大会の顔」として活躍 大会期間中、試合会場内での運営サポートや試合会場周辺における案内、空港・主要駅での観光・交通案内、ファンゾーンの運営サポートなどを行った。 ○ 東京会場では約2,400人が活動 ○ 大会本番に向けて、リーダートレーニング、ロールトレーニング、ベニュートレーニングなどの研修を重ね、障害者や外国人などへの対応方法をはじめ、活動に必要な知識を共有 ○ ボランティア経験や語学スキル、配慮を要する事項等を踏まえボランティアを配置 ○ 対応可能な言語を表示した腕章を着用。また、貸与したスマートフォン搭載の翻訳アプリを活用するなど、多言語対応を実施 ○ 試合会場周辺やファンゾーンでは、観客とのハイタッチ等によるコミュニケーションを通じて盛り上げを実施 ○ 観客の来場状況等や、ボランティアからの意見も踏まえて柔軟な配置変更を実施 ○ 台風19号接近時には、気象情報や公共交通機関の状況等を踏まえ、活動を中止。ボランティアには、実施又は中止を判断する日時を前もって伝え、前日の17時までに決定内容を通知
大会の盛り上げ ＜第6章＞	スタジアム東側補助競技場のスペクテータープラザにおいて、観客に和体験を提供するとともに、スタジアム内において地元3市と連携して和太鼓等のパフォーマンスを実施 また、ラグビー振興と競技力向上を目的として、都内や被災地のラグビーに取り組む子供たちを試合観戦に招待するとともに、交流事業を実施 ○ 日本刀実演や箸体験等の和体験を、試合前後のスペクテータープラザにおいて観客に対して提供するとともに、都内観光案内を実施 ○ 地元3市（三鷹市、府中市、調布市）と連携し、試合開始前にスタジアム内にて地元団体による和太鼓や囃子等の演目を実施し、地域の魅力を発信 ○ 都内及び被災2県（宮城県及び福島県）のラグビーに取り組む子供たちを試合観戦に招待（保護者、引率者等を含め計1,140人）するとともに、子供たちの交流事業を実施（計142人）



ラグビーワールドカップ2019™大会報告について【概要版】

事 項	主 な 取 組 内 容
多様な主体との連携 ＜第7章＞	大会の成功は、他の開催都市や都内区市町村、民間事業者など多様な主体が「ONE TEAM」となって連携することで成し遂げられた。 ○ 各開催都市 ・ 東京で開催されたテストマッチの機会を活用し、各開催都市のPRブースを設置するとともに、他都市で開催されたテストマッチのパブリックビューイングを都内で開催 ・ 大会期間中は、ファンゾーン区部会場に各開催都市のPRコーナーを設置し、国内外からの来場者に各都市の魅力を発信 ○ 都内区市町村 ・ 大会の気運醸成を図るため、各区市町村が独自にRWC2019の関連イベントやPR、都市装飾を実施 ・ 大会期間中はパブリックビューイングを実施 ○ 民間事業者 ・ 大会スポンサーである三菱地所株が丸の内エリアにおいて行うイベントと、ファンゾーン区部会場が連携して大会を盛り上げ ・ 大会スポンサーであるキヤノン株の協力の下、ラグビーの迫力ある大型写真を掲示する「ラグビーウォールギャラリー」を展開 ・ 日本空港ビルデング株や株東京国際フォーラム、都内商店街等の協力による装飾や街灯フラッグの掲出 ・ 東京スタジアムへの円滑な観客輸送を実現するため、京王電鉄株や西武鉄道株は、特急の臨時停車や列車の増発を実施、小田急バス株、京王電鉄バス株はシャトルバスを運行 ○ 庁内各局 ・ 産業労働局によるRWC2019向け観光ガイドブックの作成、交通局による車体ラッピングなど、各局が実施する事業と連携し、気運醸成や大会準備に取り組んだ。 ・ 大会期間中は、交通輸送、セキュリティ、ファンゾーン等の運営について、東京2020大会の運営に関係の深い11局の職員の協力を得て、体制を整えた。



ラグビーワールドカップ2019™大会報告について【概要版】

事 項	主 な 取 組 内 容	
レガシー ＜第8章＞	大会終了後、大会の思い出や感動を共有するための大会写真展やRWC2019の熱気を東京2020大会につなげる記念シンポジウム「From 2019 to 2020」を開催した。 大会を通じて盛り上がったラグビー熱を一過性のものとせず、大会後も東京のラグビー文化の定着を図るとともに、RWC2019を通じて得た様々な経験や知見を東京2020大会の成功につなげる。 ○ 東京のラグビー文化の定着に向けた取組 ・ 競技団体等と連携して、ラグビーに取り組む子供たちが、楽しみながら一層競技力を向上させるとともに、ラグビーに興味を持った人が気軽にラグビーに触れられる機会などを提供していく。 ・ 都内の公立スポーツ施設のうち、ラグビーができる施設について情報を集約し、わかりやすく提供する。 ・ 都立公園の整備の機会等を捉えたラグビーができる場の確保など、庁内各局と連携して取り組む。 ・ RWC2019の盛り上がりを継続させていくため、JRFUや他の開催都市等と連携し、ラグビーの普及に向けて取り組む。 ○ 東京2020大会につながる知見 ・ ラストマイル運営 発生する事案に対して、迅速な状況の把握、適切な意思決定と対応が求められることから、円滑な情報収集・報告ルールを整備するとともに、配置される職員のトレーニングを行うことが重要 ・ ファンゾーン運営 ファンゾーンでは想定を上回る来場者があり、混雑時の誘導や入場規制など緊急に対応した。こうした事態に備え、案内誘導スタッフや警備員の配置、入場時対応等、事前の準備を万全にするとともに、状況に応じた柔軟かつ迅速な対応が必要 ・ ボランティア活動 活動後のミーティングなどで、ボランティアから出された意見を、翌日以降の運営の改善につなげていくことは有用であった。 都内で活動したボランティアのうち1,069人は、RWC2019の知見・経験を活かして東京2020大会のシティキャストとして活動予定	 

< 参考資料 >

ラグビーワールドカップ 2019™ 大会報告について

令和 2 年 1 月
東京都

目 次

ラグビーワールドカップ 2019™大会概要	1
第1章 開催の決定から大会に向けた取組	5
第1部 開催の決定から大会に向けた準備	
第2部 東京スタジアムでのテストマッチにおける検証	
第2章 気運醸成	16
第1部 大会開催に向けた盛り上げ	
第2部 都市装飾	
第3章 安全で円滑な大会運営	49
第1部 東京都運営本部の設置	
第2部 会場整備・会場運営	
第3部 交通輸送	
第4部 試合会場周辺、ラストマイル等の安全・安心の確保	
第5部 公認チームキャンプ地	
第4章 ファンゾーン	86
第5章 ボランティア	104
第6章 大会の盛り上げ	113
第1部 おもてなし	
第2部 観戦招待・交流事業	
第7章 多様な主体との連携	118
第8章 レガシー	129

ラグビーワールドカップ 2019™ 大会概要

○ 大会概要

- ・ 大会名称 ラグビーワールドカップ 2019™ 日本大会（第9回大会）
- ・ 主催 ワールドラグビー
- ・ 開催期間 2019（令和元）年9月20日（金）から11月2日（土）（44日間）
- ・ 開催都市 12会場（19自治体）
〔 札幌市、岩手県・釜石市、埼玉県・熊谷市、東京都、
神奈川県・横浜市、静岡県、愛知県・豊田市、大阪府・東大阪市、
神戸市、福岡県・福岡市、熊本県・熊本市、大分県 〕
- ・ 参加チーム 20チーム
- ・ 試合数 45試合（当初予定48試合、台風19号の影響により3試合中止）
- ・ 入場者数 170万4,443人（チケット販売率 約99.3%）
- ・ ファンゾーン来場者数 113万7,000人
- ・ 特徴 ①アジアで初のワールドカップ
②ラグビー伝統国以外で初のワールドカップ
③ラグビー7人制がオリンピック種目に採用されてから最初のワールドカップ

○ 大会結果

- ・ プール戦
参加全20チームを、5チーム×4プールに分け、プール内総当たり戦、計37試合を実施（台風19号の影響により3試合中止）
各プール上位2チームが決勝トーナメントに進出

【プールA】

チーム	試合数	勝ち	分け	負け	ポイント
日本	4	4	0	0	19
アイルランド	4	3	0	1	16
スコットランド	4	2	0	2	11
サモア	4	1	0	3	5
ロシア	4	0	0	4	0

【プールB】

チーム	試合数	勝ち	分け	負け	ポイント
ニュージーランド	3	3	0	0	16
南アフリカ	4	3	0	1	15
イタリア	3	2	0	1	12
ナミビア	3	0	0	3	2
カナダ	3	0	0	3	2

【プールC】

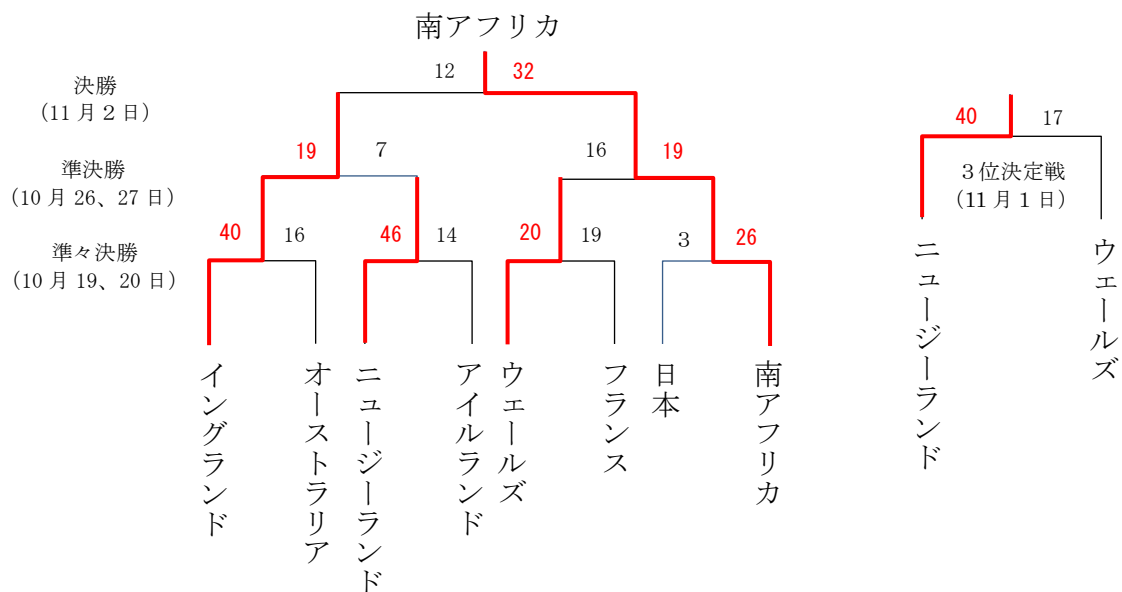
チーム	試合数	勝ち	分け	負け	ポイント
イングランド	3	3	0	0	17
フランス	3	3	0	0	15
アルゼンチン	4	2	0	2	11
トンガ	4	1	0	3	6
アメリカ	4	0	0	4	0

【プールD】

チーム	試合数	勝ち	分け	負け	ポイント
ウェールズ	4	4	0	0	19
オーストラリア	4	3	0	1	16
フィジー	4	1	0	3	7
ジョージア	4	1	0	3	5
ウルグアイ	4	1	0	3	4

・ 決勝トーナメント

準々決勝 4 試合、準決勝 2 試合、3 位決定戦、決勝の全 8 試合実施



優勝：南アフリカ（2007年大会以来3回目）

準優勝：イングランド

3位：ニュージーランド

○ 東京会場の概要

- 試合会場
会 場 名：東京スタジアム
所 在 地：東京都調布市西町 376 番地 3
しゅん工：2000（平成 12）年 10 月
開 業：2001（平成 13）年 3 月
収容人数：49,970 人



※ 開会式及び開幕戦を含め、全会場で最多の 8 試合開催



＜試合結果＞

	日時	対戦及び試合結果			入場者数
プール戦	9 月 20 日 (金)	日本	30－10	ロシア	45,745 人
	9 月 21 日 (土)	フランス	23－21	アルゼンチン	44,004 人
	9 月 29 日 (日)	オーストラリア	25－29	ウェールズ	47,885 人
	10 月 5 日 (土)	イングランド	39－10	アルゼンチン	48,185 人
	10 月 6 日 (日)	ニュージーランド	71－ 9	ナミビア	48,354 人
準々決勝	10 月 19 日 (土)	ニュージーランド	46－14	アイルランド	48,656 人
	10 月 20 日 (日)	日本	3－26	南アフリカ	48,831 人
3 位決定戦	11 月 1 日 (金)	ニュージーランド	40－17	ウェールズ	48,842 人
計	8 試合				380,502 人

- ・ ファンゾーン会場

ファンゾーンとは、大会期間中に開催都市に設置され、大型スクリーンによるパブリックビューイングや飲食の提供等、試合チケットの有無に関わらず、無料で誰もが気軽に訪れることができる場のことをいう。

都内では、多摩地域と区部の２か所に設置した。

＜ファンゾーン会場の概要＞

	多摩会場	区部会場
会 場 名	調布駅前広場、 調布市グリーンホール等	東京スポーツスクエア
所 在 地	東京都調布市小島町２－４７－１ほか （京王線調布駅徒歩１分）	東京都千代田区丸の内３－８－３ （JR 有楽町駅徒歩１分）
総来場者数	131,900 人	178,600 人
会場外観		

第1章 開催の決定から大会に向けた取組

第1部 開催の決定から大会に向けた準備

- ラグビーワールドカップがアジアで初めて2019（令和元）年に日本で開催されることが、2009（平成21）年7月に決定した。また、2015（平成27）年3月には、東京都が全国12の開催都市の一つに決定した。
- 都は、大会開催に向け、（公財）ラグビーワールドカップ2019組織委員会等と連携し、着実に準備を進めた。

1 日本での開催決定

ラグビーワールドカップ（以下「RWC」という。）は、15人制ラグビーの世界王者を決定する世界的なスポーツ大会であり、1987（昭和62）年の第1回大会以降、4年に一度開催されている。

2006（平成18）年11月、（公財）日本ラグビーフットボール協会（以下「JRFU」という。）は、RWCの招致活動を行うことを発表した。

2009（平成21）年7月、ラグビーの国際統括団体である国際ラグビーボード（現ワールドラグビー。以下「WR」という。）の理事会において、第9回RWCをアジアで初となる日本で開催することが決定された。

2 開催都市への立候補

JRFUは、2010（平成22）年11月、大会の準備・運営（開催業務）を専門に行う機関として（一財）ラグビーワールドカップ2019組織委員会（以下「組織委員会」という。2013（平成25）年4月に公益財団法人に移行）（会長 御手洗富士夫）を立ち上げた。

組織委員会は、2013（平成25）年10月に「開催都市ガイドライン」を発表し、日本全国の自治体から開催都市の希望申請を受け付けた。

都は、2014（平成26）年10月、新国立競技場を試合会場として開催希望申請書を組織委員会に提出し、RWC2019の開催都市に立候補した。

（立候補の主な理由）

- ・ RWCは、世界的なスポーツの祭典であり、東京での開催は、スポーツ都市東京を世界へアピールするとともに、都民のスポーツへの関心を高める絶好の機会となること
- ・ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」という。）に向けて大会運営ノウハウを蓄積できること
- ・ 多くの外国人観光客の来日による都内の経済波及効果は約866億円と見込まれること
- ・ 東京を起点として、全国の各都市で行われるRWCをPRし、盛り上げることができること

3 開催都市の決定

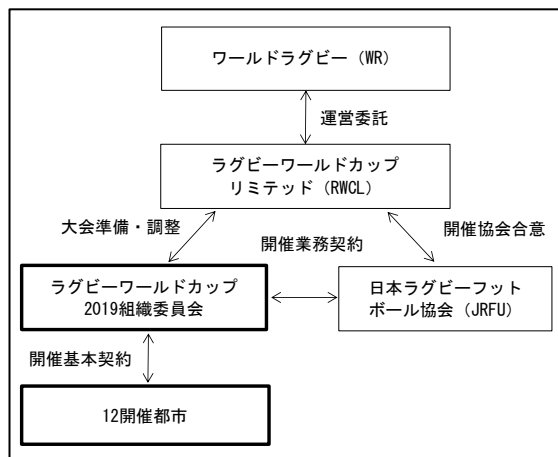
2015（平成 27）年 1 月、開催都市選定プロセスの一環として、WR から RWC2019 の運営を委託されたラグビーワールドカップリミテッド（以下「RWCL」という。）及び組織委員会が候補都市を訪問し、東京の視察も行った。

都は、視察時に実施したプレゼンテーションにおいて、東京開催により世界が注目する RWC とオリンピック・パラリンピック競技大会を 2 年連続で開催する世界で初めての都市となり、東京 2020 大会との相乗効果が期待されることや、都市としての東京の魅力、東京におけるラグビーの実績など、開催のメリットを強くアピールした。

その後の同年 3 月、アイルランドのダブリンで行われた RWCL 理事会において、東京都を含む 12 都市が開催都市に決定した。

なお、東京の試合会場については、新国立競技場の建設計画見直しに伴い、同年 9 月に同競技場から東京スタジアムに変更された。試合会場の変更に伴い、2016（平成 28）年 1 月、大会開催に伴う都内の経済波及効果を約 824 億円に修正した。

＜ラグビーワールドカップ関係組織図＞



4 イングランド大会（2015 年）視察

都は、大会準備の一環として、2015（平成 27）年 10 月、イングランドで開催された RWC2015 を視察した。現地では、試合会場や会場周辺、ファンゾーンの運営状況などについて情報収集するとともに、WR 関係者との意見交換を行った。

5 試合日程等の決定

2017（平成 29）年 5 月、京都迎賓館において、プール組分け抽選会が行われ、決勝トーナメントに進むためのプール戦を行う 4 つのグループ（プール）が決定された。



プール組分け抽選会

＜プール組分け抽選会結果＞

※抽選会時点

プール A	プール B	プール C	プール D
・アイルランド ・スコットランド ・日本 ・ヨーロッパ地区 1 ・ヨーロッパ・オセアニアプレーオフ 1	・ニュージーランド ・南アフリカ ・イタリア ・アフリカ地区 1 ・敗者復活予選優勝チーム	・イングランド ・フランス ・アルゼンチン ・アメリカ地区 1 ・オセアニア地区 2	・オーストラリア ・ウェールズ ・ジョージア ・オセアニア地区 1 ・アメリカ地区 2

同年 11 月には、グランドプリンスホテル新高輪において、試合日程及びチケット概要が発表された。東京スタジアムでは、開会式・開幕戦を含め、開催都市の中で最も多い 8 試合が開催されることとなった。

＜東京スタジアムにおける試合日程＞

※発表時点

日程	試合
9 月 20 日（金）	日本 対 ヨーロッパ地区代表
9 月 21 日（土）	フランス 対 アルゼンチン
9 月 29 日（日）	オーストラリア 対 ウェールズ
10 月 5 日（土）	イングランド 対 アルゼンチン
10 月 6 日（日）	ニュージーランド 対 アフリカ地区代表
10 月 19 日（土）	準々決勝 2（プール B 1 位 対 プール A 2 位）
10 月 20 日（日）	準々決勝 4（プール A 1 位 対 プール B 2 位）
11 月 1 日（金）	3 位決定戦

東京スタジアムで開催される開幕戦において、日本と対戦するヨーロッパ地区代表は、2018（平成 30）年 3 月、ルーマニアに決定した。その後、ルーマニアの選手が代表資格要件に違反していたとして、同年 6 月、ヨーロッパ地区代表がロシアに変更となり、開幕戦は、日本対ロシアの試合となった。

なお、同年 11 月、大会へ出場する全 20 チームが確定した（全出場チーム名は、大会概要を参照）。

6 チケット販売

組織委員会は、2018（平成 30）年 1 月からチケットの先行抽選販売を開始し、同年 9 月からは一般抽選販売、2019（平成 31）年 1 月からは一般先着販売を開始した。

チケット販売状況が好調な中、2019（令和元）年 9 月 20 日（金）の開幕戦を迎え、東京スタジアムでは、全 8 試合で、試合会場での当日券販売は行われなかった。

＜チケット販売スケジュール＞

日程	種類
2018（平成 30）年 1 月～	先行抽選販売（ラグビーファミリー、開催都市住民、ラグビーフレンズ、サポーターズクラブ等）
2018（平成 30）年 9 月～	第一次一般販売（抽選）
2019（平成 31）年 1 月～	第二次一般販売（先着）
2019（令和元）年 5 月～	第三次一般販売（先着）、公式リセールサービス
2019（令和元）年 8 月～	第四次一般販売（先着）

7 都議会における活動

都議会では、2014（平成 26）年 10 月、超党派で構成された「東京都議会ラグビーワールドカップ 2019 日本大会成功議員連盟」が設立され、大会開催までに総会を 8 回開催した。

【議連総会における主な議事・報告事項】

- ・ RWC2015 の運営状況について
- ・ ラグビーテストマッチについて
- ・ 東京スタジアム改修整備計画について
- ・ 大会の準備状況について

その他、次の活動を行うなど、大会の盛り上げと準備を後押しした。

- ・ 2016（平成 28）年 6 月 ラグビーテストマッチ（日本代表 対 スコットランド代表）を視察し、運営状況を確認
- ・ 2017（平成 29）年 6 月 ラグビーテストマッチ（日本代表 対 アイルランド代表）を視察し、運営状況を確認
- ・ 2018（平成 30）年 11 月 ラグビーテストマッチ（日本代表 対 ニュージーランド代表）を視察し、運営状況を確認
- ・ 2019（令和元）年 9 月～ 大会開催に先立ち開催されたファンゾーン区部会場の内覧会に参加し、準備状況を確認
RWC2019 において、全国の試合会場を視察し、各都市における大会の成功を応援

2015（平成 27）年 12 月には、RWC2019 の開催に向けた調査・検討及び必要な活動を行うため、オリンピック・パラリンピック推進対策特別委員会にラグビーワールドカップ特別対策委員会が設置された。また、2017（平成 29）年 8 月には、オリンピック・パラリンピック及びラグビーワールドカップ推進対策特別委員会が改めて設置された。

また、都議会として、RWC2015 に調査団を派遣し、大会の運営状況等を視察し、その後の都議会における調査等に活かした。

＜特別委員会への報告事項＞

年	月日	報告事項
2015（平成 27）年	12 月 16 日（水）	・ RWC2019 の概要について
2016（平成 28）年	1 月 29 日（金）	・ RWC2019 の東京都における経済波及効果について
	7 月 12 日（火）	・ 開催都市マークについて ・ 公認チームキャンプ地について ・ RWCL による会場視察について ・ ラグビーテストマッチについて
2017（平成 29）年	2 月 21 日（火）	・ 東京スタジアムの会場運営計画案について ・ 交通アクセス対策について
	5 月 26 日（金）	・ RWC2019 プール組分け抽選会 ・ 東京スタジアムの改修整備計画について
	9 月 13 日（水）	・ ラグビーテストマッチについて
	11 月 6 日（月）	・ RWC2019 試合日程及びチケット販売概要について

2018（平成 30）年	1 月 30 日（火）	・ RWC2019 のボランティア募集について
	3 月 9 日（金）	・ 東京都交通輸送基本計画について
	5 月 7 日（月）	・ RWC2019 公式ボランティアプログラムについて
	5 月 24 日（木）	・ 都内の公認チームキャンプ地内定について ・ 大会 500 日前イベントについて
	7 月 31 日（火）	・ ファンゾーン会場候補地に関する都の考え方について
	10 月 4 日（木）	・ 東京スタジアムの会場運営計画の更新案について
	12 月 25 日（火）	・ ラグビーテストマッチ（11 月 3 日開催）について
2019（平成 31・令和元）年	1 月 31 日（木）	・ ファンゾーン運営計画（素案）について
	3 月 22 日（金）	・ 東京都交通輸送実施計画について ・ 都内の公認チームキャンプ地決定について
	4 月 23 日（火）	・ ファンゾーン運営計画（案）について
	6 月 26 日（水）	・ 都のセキュリティ・医療対策について ・ RWC2019 に関わる都の主な取組について
	11 月 11 日（月）	・ RWC2019 開催結果（速報）について
2020（令和 2）年	1 月 31 日（金）	・ RWC2019 大会報告について

（予定）

8 組織委員会等との連携

（１）組織委員会の概要

組織委員会は、試合の運営、各チームへのサービス、チケット販売等、大会を運営する役割を担う。

一方、各開催都市は、試合会場等の提供、試合会場への観客誘導等の交通輸送・セキュリティ対策、気運醸成のためのイベント開催、ファンゾーン運営、ボランティアプログラムの支援などの役割を担うとともに、組織委員会の大会運営を支援するため、各開催都市が分担金（都は 8 億円）を拠出したほか、職員の派遣を行った。

また、各試合会場で効果的・効率的に業務を行い、開催自治体及び地元ラグビー協会などと連携して開催準備を進めていくため、組織委員会は、2018（平成 30）年 4 月に、各開催都市に地域支部（LOC）を設置した。東京には、東京スタジアム敷地内に東京地域支部が設置された。

（２）組織委員会理事会

組織委員会は、年 2～4 回開催される理事会において、予算・決算、大会に向けたスケジュール、組織委員会の運営等を決定した。なお、2016（平成 28）年度からは、各開催都市の副知事、副市長が理事として出席した。

また、2017（平成 29）年以降、理事会に先立ち、組織委員会と開催自治体による調整会議が開催され、大会の準備状況等について、情報共有や意見交換が行われた。

（３）開催都市合同会議及び開催都市連携会議

開催都市と組織委員会間の実務的な連絡・調整・協議を行うため、2015（平成 27）年 3 月から 2017（平成 29）年 8 月にかけて 12 開催都市と組織委員会による開催都市合同会議が 6 回開催され、各種計画策定や大会の気運醸成等について意見交換を行った。

<開催都市合同会議>

	日時	場所	主な内容
第 1 回	2015（平成 27）年 3 月 24 日（火）～ 25 日（水）	大阪	・基本契約に関する業務分担について ・RWC2015 視察について ・開催都市ロゴデータ使用ガイドライン、ジャパンパビリオンについて
第 2 回	2015（平成 27）年 8 月 21 日（金）～ 22 日（土）	福岡	・2015（平成 27）年度の活動（協賛宝くじ及び開催都市分担金等、職員の派遣等について） ・大会開催事業の概要（組織委員会の体制、地域活性化について） ・大会開催に必要な業務について
第 3 回	2016（平成 28）年 3 月 15 日（火）～ 16 日（水）	神戸	・気運醸成施策等について ・大会予算、開催都市分担金等について ・LOC の立ち上げについて
第 4 回	2016（平成 28）年 9 月 15 日（木）～ 16 日（金）	静岡	・マーケティング・コミュニケーション戦略について ・ファンゾーンポリシーについて ・RWCL の知的財産について
第 5 回	2017（平成 29）年 3 月 14 日（火）～ 15 日（水）	大分	・広報関連のガイドラインについて ・チケット販売計画の進捗について ・交通輸送・警備の今後のスケジュール
第 6 回	2017（平成 29）年 8 月 29 日（火）～ 30 日（水）	札幌	・交通輸送計画及び警備基本ガイドラインについて ・テストイベントについて ・チケット販売のスケジュール

2018（平成 30）年度からは、準備が具体化する段階に対応するため、開催都市合同会議に代えて、開催都市ごとに組織委員会と調整・協議を行う開催都市連携会議が開催された。東京では、2018（平成 30）年 6 月から 2019（令和元）年 8 月にかけて、4 回実施され、組織委員会との連携体制等について議論した。

<開催都市連携会議>

	日時	主な内容
第 1 回	2018（平成 30）年 6 月 29 日（金）	・観客輸送基本計画、警備、危機管理ガイドラインについて ・喫煙所設置について ・清掃について
第 2 回	2019（平成 31）年 2 月 6 日（水）	・大会本番時における体制や、開催都市と組織委員会の連携について ・一般観客輸送について ・大会時の配布物等について
第 3 回	2019（令和元）年 5 月 9 日（木）	・大会当日の体制について ・危機事象発生時における対応及び開催都市との連携について ・チケットホルダー等への情報発信について
第 4 回	2019（令和元）年 8 月 6 日（火）	・危機事象におけるシミュレーション ・大会当日の運営について ・チケットホルダー等への情報発信について

(4) 大会関係者の訪問

大会の気運醸成や準備への協力などを目的に、WR 等大会関係者が都庁を訪問した。

- ・ RWC2019 アンバサダー及びラグビー日本代表選手等来訪
日 時：2016（平成 28）年 10 月 3 日（月）
訪問者：RWC2019 アンバサダー 大畑 大介氏
（ラグビー日本代表選手）大野 均氏、小瀧 尚弘氏
（組織委員会）嶋津 昭 事務総長
- ・ ビル・ボーモント WR 会長等来訪
日 時：2017（平成 29）年 11 月 2 日（木）
訪問者：(WR) ビル・ボーモント会長、ブレット・ゴスパーCEO、
アラン・ギルピン RWC 統括責任者
(JRFU) 岡村 正 会長、坂本 典幸 専務理事
(組織委員会) 嶋津 昭 事務総長、河野 一郎 事務総長代行
- ・ ジェイミー・ジョセフ日本代表ヘッドコーチ等来訪
日 時：2018（平成 30）年 11 月 2 日（金）
訪問者：日本代表ヘッドコーチ ジェイミー・ジョセフ氏
(JRFU) 坂本 典幸 専務理事、薫田 真広 日本代表強化委員長
- ・ ブレット・ゴスパーWR CEO 等来訪
日 時：2019（令和元）年 6 月 13 日（木）
訪問者：(WR) ブレット・ゴスパー CEO
(組織委員会) 嶋津 昭 事務総長
- ・ 森 重隆 JRFU 会長来訪
日 時：2019（令和元）年 9 月 12 日（木）
訪問者：(JRFU) 森 重隆 会長
- ・ 嶋津 昭 組織委員会事務総長等来訪
日 時：2019（令和元）年 11 月 25 日（月）
訪問者：(組織委員会) 嶋津 昭 事務総長
(JRFU) 岩淵 健輔 専務理事

第2部 東京スタジアムでのテストマッチにおける検証

- 都は、大会開催までに東京スタジアムで3回実施されたラグビーテストマッチ（ナショナルチーム同士の公式国際試合）を大会に向けた準備の一環と位置付け、交通輸送やボランティア、イベント運営などの検証を行った。
- 検証結果をRWC2019の交通輸送やファンゾーンの計画等に反映した。

1 2016（平成28）年6月25日（土）

（1）テストマッチ

ア 概要

対戦カード：日本代表 対 スコットランド代表
試合開始時間：19時20分
主 催：JRFU
入 場 者 数：34,073人

イ 都の主な取組

【交通輸送】

- ・ シャトルバスを3系統運行（復路のみ）（調布駅、武蔵境駅、狛江駅）
- ・ 飛田給駅における特急・準特急の臨時停車

【会場動線】

- ・ 招待者用の駐車場として北側駐車場を使用
- ・ 駐車場等から試合会場への誘導員配置

【試合会場内のアクセシビリティ】

- ・ 車椅子利用者のための駐車場や観戦スペースを確保

（2）関連イベント「ラグビーフェスティバル 2016&TOKYO」

ア 概要

開催時間：12時～22時30分
会 場：東京スタジアム南側広場、東側補助競技場（調布市）
主 催：東京都、
（公財）東京都スポーツ文化事業団
内 容：パブリックビューイング、トークショー、ウィルチェアーラグビー体験、ストリートラグビー大会等
来場者数：約19,000人



パブリックビューイング

イ 都の主な取組

【イベント会場へのアクセス等】

- ・ 動線上でのボランティア等による誘導、看板設置等
- ・ 入退場口（1か所）での簡易手荷物検査の実施

【ボランティア】

- ・ 試合会場周辺自治体（三鷹市、府中市、調布市）（以下「地元3市」という。）、大学等のボランティアによる協力
- ・ 観客誘導、ラグビー体験補助等に従事



トークショー

2 2017（平成29）年6月24日（土）

（1）テストマッチ

ア 概要

対戦カード：日本代表 対 アイルランド代表

試合開始時間：14時40分

主 催：JRFU

入 場 者 数：29,354人



ボランティアによる案内誘導

イ 都の主な取組

【交通輸送・会場動線】

- ・ シャトルバスの往復運行・系統の多様化（調布駅、多磨駅、武蔵境駅、狛江駅、武蔵小金井駅（復路のみ））
- ・ HPや印刷物等による複数来場ルートのお知らせ
- ・ イベント会場周辺のサイン表示の工夫や、入退場口を複数設置するなど、円滑な動線を確保

【ボランティア】

- ・ （一財）東京マラソン財団や東京スタジアムをホームとするJリーグチームなどの試合でスポーツボランティアの実績のある団体等と連携し、ボランティアを募集
- ・ イベント運営や観客誘導等に加え、駅・会場周辺での案内誘導、語学対応等に従事し、活動内容を拡充

（2）関連イベント「東京ラグビーファンゾーン2017」

ア 概要

開催時間：11時～18時

会 場：東京スタジアム西競技場（調布市）

主 催：東京都、（公財）東京都スポーツ文化事業団

内 容：パブリックビューイング、トークショー、ラグビー体験、ウィルチェアーラグビー体験、人文字ラグビーボール、開催都市PR



イベント会場の様子

ブース、アイルランド音楽ステージ、地元 3 市パフォーマンスステージ等
来場者数：約 21,000 人

イ 都の主な取組

【イベント運営】

- ・ 競技体験等の参加型コンテンツ充実
- ・ 地元 3 市・開催都市等によるブース出展及びステージ出演
- ・ アイルランド音楽等、試合後も楽しめるプログラムの工夫

【気運醸成・観戦促進】

- ・ SNS 等を活用した広報活動
- ・ 京王線への中刷り広告の掲出等、交通機関における周知の強化

3 2018（平成 30）年 11 月 3 日（土・祝）

（1）テストマッチ

ア 概要

対戦カード：日本代表 対 ニュージーランド代表

試合開始時間：14 時 45 分

主 催：JRFU

入 場 者 数：43,751 人

イ 都の主な取組

【交通輸送】

- ・ 飛田給駅における特急・準特急の臨時停車本数の増加
(2017 年：36 本 ⇒ 2018 年：46 本)
- ・ シャトルバス運行ルートの事前案内及び積極的な観客誘導、運行本数の増加
(2017 年：70 本 ⇒ 2018 年：121 本)
- ・ 中央自動車道及び国道 20 号（甲州街道）の混雑緩和のための横断幕掲出等による事前周知
- ・ 甲州街道における高柵等の設置や巡回警備による乱横断や路上駐停車の防止

【ボランティア】

- ・ RWC2019 のボランティアのうち、東京都観光ボランティア及び（一財）東京マラソン財団オフィシャルボランティアクラブから推薦されたボランティアを活用
- ・ 試合会場周辺エリア、会場周辺駅（飛田給駅、多磨駅、西調布駅）、新宿駅及びイベント会場で、アクセスやイベント内容の案内等を実施

（2）関連イベント「東京ラグビーファンゾーン 2018」

ア 概要

開催時間：11 時～17 時

会 場：東京スポーツスクエア（千代田区）

主 催：東京都

内 容：パブリックビューイング、トークショー、ミニライブ、ラグビー体験、大会優勝トロフィー展示等

来場者数：約 3,000 人



パブリックビューイング

イ 都の主な取組

【イベント運営】

- ・ 大型モニターを 3 台設置し、熱気と歓声に包まれる立ち見スタイルや、フードも楽しむカフェスタイル等、多様なスタイルで観戦できるパブリックビューイングの実施
- ・ ラグビー選手等によるトークショーの実施
- ・ 対戦国や RWC2019 出場国等にちなんだ飲食ブースの設置



トークショー

【気運醸成・観戦促進】

- ・ SNS 等を活用した広報活動
- ・ テストマッチに合わせた京王線・小田急線新宿駅での集中広告による気運醸成

(3) 調布スクラムフェスティバルとの連携

調布駅前広場において開催された、パブリックビューイングイベント「調布スクラムフェスティバル vol. 3」(主催：調布市、共催：東京都)と連携し、試合後のトークショーについて、シャトルバスの運行状況と連動させ、開始時間を前倒しして実施するなど、本番時のファンゾーンを想定した運営状況の確認を行った。

4 大会運営計画等への反映

テストマッチにおける取組を踏まえ、各種計画等に反映した。

【主な事項】

- ・ テストマッチ時における入退場の状況を考慮し、観客の交通分担率や入退場分布を設定するとともに、一層の入退場時間の分散化を図るため、飛田給駅の臨時停車時間の設定や案内チラシの作成等の事前広報などを交通輸送実施計画に反映(第3章第3部を参照)
- ・ テストマッチ時の甲州街道における歩行者の混雑や乱横断の状況等を踏まえ、警備員配置やスタジアム前交差点付近におけるパイプ柵等設置を警備計画に反映(第3章第4部を参照)
- ・ ファンゾーンについては、テストマッチ時における東京スタジアムでの入退場の状況を踏まえ、開催時間を試合前後も含めて設定した。また、有楽町で実施したイベントに周辺施設の買い物客の来場も多く見られたことや、調布のイベントにおいて家族連れ来場者が多くあったことなど、来場者の傾向を踏まえ、周辺施設との連携やラグビー体験等のコンテンツに反映(第4章を参照)
- ・ ボランティアの活動に当たっては、活動に必要な情報の提供など、配置場所に応じた研修を充実。また、対応可能言語を示した腕章の作成や、翻訳アプリの活用など、外国人への多言語対応を充実(第5章を参照)

第1部 大会開催に向けた盛り上げ

- RWC2019 の認知度向上や、大会開催に向けた気運醸成を図るため、ラグビーに親しみのない層をはじめ、多くの都民・国民に興味・関心を持ってもらうための取組を行った。
- ラグビー日本代表のテストマッチの機会を捉えたパブリックビューイングイベントや大会までの節目などに合わせたイベントの実施、開催都市特別サポーターの就任・活動、東京スポーツスクエアを活用した PR、SNS 等による情報発信、カウンターボールやレンジの活用など、多様な主体とも連携して様々なプロモーションを実施し、盛り上げを図った。

1 各種イベントの開催

RWC2019 の認知度向上や、大会開催に向けた気運醸成を図るため、ラグビーに親しみのない層をはじめ、多くの都民・国民に興味・関心を持ってもらえるよう、国内で開催されたラグビー日本代表のテストマッチや大会までの節目となる機会などを捉えて、各種イベントを開催した。

(1) パブリックビューイングイベント（日本代表 対 スコットランド代表）

豊田スタジアム（愛知県）で開催された日本代表のラグビーテストマッチに合わせ、気運醸成イベントを実施した。

日 程：2016（平成 28）年 6 月 18 日（土）
場 所：汐留シオサイト地下歩道（港区）
主 催：東京都、（公財）東京都スポーツ文化事業団
内 容：パブリックビューイング
来場者：約 200 人

(2) ラグビーフェスティバル 2016 & TOKYO（再掲）

東京スタジアムにおけるラグビーテストマッチ（日本代表 対 スコットランド代表）において、本番時のファンゾーンの検証も兼ね、気運醸成イベントを実施した。

日 程：2016（平成 28）年 6 月 25 日（土）
場 所：東京スタジアム南側広場、東側補助競技場（調布市）
主 催：東京都、（公財）東京都スポーツ文化事業団
内 容：パブリックビューイング、トークショー、ウィルチェアーラグビー体験、ストリートラグビー大会等
来場者：約 19,000 人

(3) 大会開幕 3 年前パネル展

大会開催 3 年前の節目を捉え、気運醸成イベントを実施した。

日 程：2016（平成 28）年 9 月 23 日（金）～29 日（木）
場 所：都庁第一本庁舎南展望室

主 催：東京都

内 容：RWC2015 写真展示、RWC2019 大会情報展示、RWC2019 告知動画放映等

その他：大会開催3年前に合わせ、都庁舎等のライトアップを実施

（４）パブリックビューイングイベント（日本代表 対 アルゼンチン代表）

秩父宮ラグビー場（港区）で開催された日本代表のラグビーテストマッチに合わせ、気運醸成イベントを実施した。

日 程：2016（平成28）年11月5日（土）

場 所：フォーリス前けやき広場（府中市）

主 催：東京都、（公財）東京都スポーツ文化事業団

内 容：パブリックビューイング、トークショー等

来場者：約400人

（５）開幕1000日前イベント

大会開催1000日前の節目を捉え、気運醸成イベントを実施した。

日 程：2016（平成28）年12月24日（土）

場 所：東京タワー（港区）

主 催：東京都

内 容：トークショー、ステージイベント、メッセージ企画、ミニコンサート等

来場者：約1,300人

その他：大会開催1,000日前に合わせ、東京タワーのライトアップを実施



ステージイベント



メッセージ企画



ライトアップ

（６）プール組分け抽選会パブリックビューイング

京都迎賓館におけるプール組分け抽選会の様子のパブリックビューイングを実施した。

日 程：2017（平成29）年5月10日（水）

場 所：都庁第一本庁舎2階中央

主 催：東京都

（７）東京ラグビーファンゾーン2017（再掲）

東京スタジアムにおけるラグビーテストマッチ（日本代表 対 アイルランド代表）において、本番時のファンゾーンの検証も兼ね、気運醸成イベントを実施した。

日 程：2017（平成29）年6月24日（土）



人文字ラグビーボール

場 所：東京スタジアム西競技場（調布市）
主 催：東京都、（公財）東京都スポーツ文化事業団
内 容：パブリックビューイング、トークショー、ラグビー体験、ウィルチェアーラグビー体験、人文字ラグビーボール、開催都市 PR ブース、アイルランド音楽ステージ、地元 3 市パフォーマンスステージ等

来場者：約 21,000 人

その他：テストマッチ開催に合わせ、広報 PR を実施（協力：JRFU、京王電鉄（株））

- ・ 飛田給駅コンコースへのフラッグ掲出や駅階段へのポスター連貼り展開による集中 PR
- ・ 京王線において、ヘッドマークを付けた車両を運行



車両ヘッドマーク

（８）大会 2 年前イベント

大会開催 2 年前の節目を捉え、気運醸成イベントを実施した。

日 程：2017（平成 29）年 9 月 18 日（月・祝）

場 所：東京国際フォーラム地上広場（千代田区）

主 催：東京都

内 容：トークショー、RWC2019 出場国紹介パフォーマンス、ラグビー体験、RWC2019 出場国紹介、大会優勝トロフィー「ウェブ・エリス・カップ」展示等

来場者：約 10,100 人

その他：大会開催 2 年前に合わせ、都庁舎等のライトアップを実施



ニュージーランド伝統舞踊（ハカ）



ジェイミー・ジョセフ氏（日本代表ヘッドコーチ）等によるトークショー

（９）パブリックビューイングイベント（日本代表 対 世界選抜）

東平尾公園博多の森球技場（福岡県）で開催された日本代表の試合に合わせ、気運醸成イベントを実施した。

日 程：2017（平成 29）年 10 月 28 日（土）

場 所：町田ターミナルプラザ 2 階市民広場（町田市）

主 催：東京都、町田市

内 容：パブリックビューイング

（10）試合日程発表会パブリックビューイング

グランドプリンス新高輪における試合日程発表会の様子のパブリックビューイングを実施した。

日 程：2017（平成 29）年 11 月 2 日（木）
場 所：都庁第一本庁舎 2 階中央
主 催：東京都



パブリックビューイング

(11) 東京ラグビーファンゾーン 2017 in 日比谷（日本代表 対 オーストラリア代表）

横浜国際総合競技場（神奈川県）で開催された日本代表のラグビーテストマッチに合わせ、気運醸成イベントを実施した。

日 程：2017（平成 29）年 11 月 4 日（土）
場 所：日比谷公園にれの木広場（千代田区）
主 催：東京都、（公財）東京都スポーツ文化事業団
内 容：パブリックビューイング（国内で初めて屋外での大画面 350 インチ最先端 4K 方式での放映を実施）、トークショー、オーストラリア伝統音楽演奏、ふれあい動物園、ラグビー体験等



パブリックビューイング

来場者：約 7,200 人

(12) 大会 500 日前イベント

大会開催 500 日前の節目を捉え、気運醸成イベントを実施した。

日 程：2018（平成 30）年 5 月 6 日（日）
場 所：秩父宮ラグビー場（港区）
※関東学生春季大会及びニュージーランド学生代表来日戦に合わせて実施

主 催：東京都
内 容：トークショー、RWC2019 デイカウ
ンターお披露目、RWC2019PR コー
ナー（ラグビー体験、グッズ配布
等）、東京都ラグビー情報(Twitter
及び Facebook) でイベントを生中
継等

来場者：約 5,800 人



デイカウunterお披露目

(13) ラグビーパブリックビューイング 2018 in TOKYO 第 1 弾（日本代表 対 イタリア代表）

神戸市御崎公園球技場（兵庫県）で開催された日本代表のラグビーテストマッチに合わせ、気運醸成イベントを実施した。

日 程：2018（平成 30）年 6 月 16 日（土）
場 所：ベルサール秋葉原（千代田区）
主 催：東京都

内 容：パブリックビューイング、トークショー、ラグビーVR体験、イタリア紹介コーナー等

来場者：約 3,000 人



得点シーンに盛り上がる会場



ラグビーVR体験

(14) ラグビーパブリックビューイング 2018 in TOKYO 第2弾（日本代表 対 ジョージア代表）

豊田スタジアム（愛知県）で開催された日本代表のラグビーテストマッチに合わせ、ファンゾーン多摩会場の検証も兼ね、気運醸成イベントを実施した。

日 程：2018（平成 30）年 6 月 23 日（土）

場 所：調布駅前広場、イオンシネマシアタス調布（調布市）

主 催：東京都

内 容：パブリックビューイング、トークショー、墨絵パフォーマンス、ラグビー体験等

来場者：約 3,500 人



パブリックビューイング



墨絵パフォーマンス

(15) 大会 1 年前イベント「1 YEAR TO GO FESTIVAL」

大会開催 1 年前の節目を捉え、気運醸成イベントを実施した。

日 程：2018（平成 30）年 9 月 23 日（日・祝）

場 所：Ginza Sony Park（銀座ソニーパーク）（中央区）

主 催：東京都

内 容：RWC2019 開催都市特別サポーター（東京）就任セレモニー、トークショー、ラグビー体験、プロラグビー選手と記念撮影等

来場者：約 30,000 人

その他：大会開催 1 年前に合わせ、都庁舎等のライトアップを実施



開催都市特別サポーター就任セレモニー



会場（地上階）

(16) 東京ラグビーファンゾーン 2018（再掲）

東京スタジアムにおけるラグビーテストマッチ（日本代表 対 ニュージーランド代表）において、本番時のファンゾーン区部会場の検証も兼ね、気運醸成イベントを実施した。

日 程：2018（平成 30）年 11 月 3 日（土・祝）

場 所：東京スポーツスクエア（千代田区）

主 催：東京都

内 容：パブリックビューイング、トークショー、ミニライブ、ラグビー体験、大会優勝トロフィー展示等

来場者：約 3,000 人

その他：テストマッチ開催に合わせ、新宿駅に集中広告を掲出

〔京王線新宿駅改札階のデジタルサイネージへの集中広告、ホーム階でのポスター連貼り、小田急線新宿駅西口改札前のデジタルサイネージへの集中広告〕



ラグビー体験



会場内（3 台の大型モニター）



京王線新宿駅への集中広告

(17) ニューイヤーイベント「東京ラグビーキャラバン」

チケット一般先着販売開始に合わせ、大会を PR するラッピングバスで大会に関連の深い都内 6 か所を巡る気運醸成イベントを実施した。

日 程：2019（平成 31）年 1 月 19 日（土）

場 所：日本青年館前（新宿区）～町田東急ツインズ前（町田市）～府中駅南口フォーリス前けやき広場（府中市）～三鷹駅南口（三鷹市）～吉祥寺駅北口（武蔵野市）～調布駅前広場（調布市）

主 催：東京都、組織委員会

内 容：トークショー等

来場者：全会場で約 1,800 人



バスで巡回



日本青年館前（スタート）



調布駅前（ゴール）

(18) 100 日前イベント

大会開催 100 日前の節目を捉え、気運醸成イベントを実施した。

日 程：2019（令和元）年 6 月 16 日（日）

場 所：丸ビル マルキューブ（千代田区）

主 催：東京都（協力：三菱地所（株））

内 容：トークショー、「カウンターボール」お披露目等

来場者：約 2,600 人



会場内



フォトセッション

その他：大会開催 100 日前に合わせ、都内各施設をレンジーをイメージした「白」、「赤」にライトアップ
（実施施設：都庁第一本庁舎、東京スタジアム、駒沢オリンピック公園ほか）



東京スタジアム



都庁第一本庁舎

(19) ラグビーパブリックビューイング 2019 in TOKYO 第 1 弾（日本代表 対 フィジー代表）

釜石鵜住居復興スタジアム（岩手県）で開催された日本代表のラグビーテストマッチに合わせ、気運醸成イベントを実施した。

日 程：2019（令和元）年 7 月 27 日（土）

場 所：町田シバヒロ（町田市）

主 催：東京都（協力：町田市）

内 容：パブリックビューイング、ゲストによる試合解説、ラグビー体験等
来場者：約 2,500 人



パブリックビューイング



ゲストによる試合解説

(20) ラグビーパブリックビューイング 2019 in TOKYO 第2弾（日本代表 対 トンガ代表）

東大阪市花園ラグビー場（大阪府）で開催された日本代表のラグビーテストマッチに合わせ、気運醸成イベントを実施した。

日 程：2019（令和元）年8月3日（土）
場 所：歌舞伎町シネシティ広場（新宿区）
主 催：東京都（協力：新宿区）
内 容：パブリックビューイング、ラグビー体験等
来場者：約 1,500 人



パブリックビューイング



(21) ラグビーパブリックビューイング 2019 in TOKYO 第3弾（日本代表 対 南アフリカ代表）

熊谷ラグビー場（埼玉県）で開催された日本代表のラグビーテストマッチに合わせ、大会本番を見据えて、多摩地域（調布会場）と区部（日比谷会場）の2か所で気運醸成イベントを実施した。

日 程：2019（令和元）年9月6日（金）
場 所：調布駅前広場（調布市）、日比谷公園にれのき広場（千代田区）
主 催：東京都（協力：調布市（調布会場））
内 容：パブリックビューイング、ラグビー体験、調布会場でのカウンターボール企画「100 万人の応援」の達成、バックステージスタジアムツアー（ハイネケン社協力）の参加券（1組2名）をめぐり、両会場を中継でつないでの当選者決定等

来場者：約 5,500 人（調布会場約 2,500 人、日比谷会場約 3,000 人）



調布会場



日比谷会場

2 年間 PR ブース出展

RWC2019 年間プロモーションとして、様々な事業（イベント）に PR ブースを出展した。

<2017（平成 29）年度：34 事業>

事業（イベント）名	日程	会場
スーパーラグビー 2017 シーズン （サンウルブズ 対 ブルズ）	4 月 8 日（土）	秩父宮ラグビー場（港区）
2017 年世界フィギュアスケート国別対抗戦	4 月 22 日（土）～ 23 日（日）	国立代々木競技場 第一体育館（渋谷区）
有明の森スポーツフェスタ 2017	4 月 29 日（土）	有明テニスの森公園（江東区）
NO LIMITS SPECIAL 2017 上野	5 月 6 日（土）～ 7 日（日）	上野恩賜公園（台東区）
スーパーラグビー 2017 シーズン （サンウルブズ 対 チーターズ）	5 月 27 日（土）	秩父宮ラグビー場（港区）
第 10 回味の素スタジアム感謝デー	6 月 3 日（土）	東京スタジアム（調布市）
秩父宮みなとラグビーまつり 2017	6 月 11 日（日）	秩父宮ラグビー場、スタジアム通り、い ちょう並木（港区）
東京ラグビーファンゾーン 2017	6 月 24 日（土）	東京スタジアム西競技場（調布市）
府中・調布・三鷹ラグビーフェスティバル 2017	7 月 1 日（土）	東京スタジアム西競技場（調布市）
第 2 回 TOKYO ウオーク 2017	7 月 8 日（土）	柴又公園（葛飾区）
スーパーラグビー 2017 シーズン （サンウルブズ 対 ブルーズ）	7 月 15 日（土）	秩父宮ラグビー場（港区）
ジャパンラグビートップリーグ（開幕戦）	8 月 18 日（金）	秩父宮ラグビー場（港区）
第 36 回 浅草サンパカーニバルパレードコ ンテスト	8 月 26 日（土）	馬道通り～雷門通り（台東区）
第 3 回 TOKYO ウオーク 2017	9 月 9 日（土）	青梅市総合体育館前（青梅市）
チャレスポ！ TOKYO	9 月 18 日（月）	東京国際フォーラム（千代田区）
スポーツ博覧会・東京 2017	10 月 7 日（土）～ 8 日（日）	井の頭恩賜公園（三鷹市）、駒沢オリン ピック公園（世田谷区）
第 4 回 TOKYO ウオーク 2017	10 月 21 日（土）	ガス橋緑地（大田区）

(一財) 東京都人材支援事業団公益事業 「ぼくをさがしに」	10月22日(日)	よみうりホール(千代田区)
ヘブンアーティスト TOKYO	10月28日(土) ～29日(日)	上野恩賜公園(台東区)
2017 味の素スタジアム6時間耐久リレーマ ラソン	11月4日(土)	東京スタジアム(調布市)
東京ラグビーファンゾーン 2017 in 日比谷	11月4日(土)	日比谷公園にれの木広場(千代田区)
武蔵野の森総合スポーツプラザ オープニングイベント	11月25日(土)	武蔵野の森総合スポーツプラザ(調布 市)
第5回 TOKYO ウオーク 2017	12月2日(土)	井の頭恩賜公園(三鷹市)
ジャパンラグビートップリーグ(サントリー サンゴリアス 対 東芝ブレイブルーパス)	12月24日(日)	東京スタジアム(調布市)
第54回全国大学ラグビーフットボール選手 権大会 決勝	1月7日(日)	秩父宮ラグビー場(港区)
日本選手権大会(兼トップリーグ総合順位決 定トーナメント)	1月13日(土)	秩父宮ラグビー場(港区)
東京 2020 ライブサイト in 2018 (有明会場)	2月22日(木)～ 24日(土)	有明イーストプロムナード(江東区)
スーパーラグビー 2018 シーズン (サンウルブス 対 ブランビーズ)	2月24日(土)	秩父宮ラグビー場(港区)
東京マラソン 2018 ランナー応援イベント マラソン祭り	2月25日(日)	芝公園(港区)
スーパーラグビー 2018 シーズン (サンウルブス 対 レベルズ)	3月3日(土)	秩父宮ラグビー場(港区)
ニュースポーツ EXPO in 多摩	3月10日(土)	国営昭和記念公園(立川市)
RWC2019 都民向けチケット販売開始 PR	3月12日(月)～ 16日(金)、19日 (月)～20日(火)	都庁第一本庁舎(新宿区)
スーパーラグビー 2018 シーズン (サンウルブス 対 チーフス)	3月24日(土)	秩父宮ラグビー場(港区)
晴海 晴っ呼まつり	3月24日(土)～ 25日(日)	桜の散歩道、晴海トリトングランドロ ビー(中央区)



スーパーラグビー



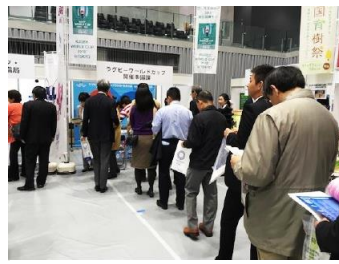
チャレスポ! TOKYO

<2018（平成 30）年度：22 事業>

事業（イベント）名	日程	会場
第 1 回 ラテンアメリカへの道フェスティバル	5 月 3 日（木） ～ 4 日（金）	台場ウエストプロムナード（港区）
NO LIMITS SPECIAL 2018 東京丸の内	5 月 5 日（土） ～ 6 日（日）	東京駅前 丸の内中央広場、行幸通り （千代田区）
Sports for All ラグビー	5 月 20 日（日）	武蔵野陸上競技場（武蔵野市）
平成 30 年関東スポーツ推進委員研究大会東京大会	6 月 8 日（金）	墨田区総合体育館（墨田区）
第 1 回 TOKYO ウオーク 2018	6 月 9 日（土）	駒沢オリンピック公園（世田谷区）
秩父宮みなとラグビーまつり 2018	6 月 17 日（日）	秩父宮ラグビー場・スタジアム通り・い ちよう並木（港区）
第 11 回味の素スタジアム感謝デー	6 月 24 日（日）	東京スタジアム、東側補助競技場、武蔵 野の森総合スポーツプラザ（調布市）
府中・調布・三鷹ラグビーフェスティバル 2018	7 月 7 日（土）	東京スタジアム西競技場（調布市）
東京 2020 オリンピック 2 年前イベント	7 月 24 日（水）	東京スカイツリータウン（墨田区）
未来（あした）への道 1000 km横断リレー 2018	8 月 7 日（火）	駒沢オリンピック公園（世田谷区）
ファミリーコンサート オーケストラで楽し むスポーツの祭典	8 月 19 日（日）	東京オペラシティ（新宿区）
新宿ラグビーまつり 2018	8 月 24 日（金） ～ 25 日（土）	新宿中央公園（新宿区）
東京 2020 パラリンピック 2 年前イベント	8 月 25 日（土）	MEGA WEB ほかに臨海副都心エリア（江東 区）
第 32 回フェスタまちだ 2018	9 月 9 日（日）	原町田大通りレミィ会場（町田市）
スポーツ博覧会・東京 2018	10 月 6 日（土） ～ 7 日（日）	国営昭和記念公園（立川市）、駒沢オリ ンピック公園（世田谷区）
2018 味の素スタジアム 6 時間耐久リレーマ ラソン	10 月 27 日（土）	東京スタジアム（調布市）
京王駅伝フェスティバル 2018	11 月 17 日（土）	東京スタジアム、武蔵野の森公園（三鷹 市、府中市、調布市）
第 42 回全国育樹祭	11 月 18 日（日）	武蔵野の森総合スポーツプラザ（調布 市）
チャレスポ！TOKYO	12 月 24 日（月）	東京国際フォーラム（千代田区）
第 55 回全国大学ラグビーフットボール選手 権大会 決勝	1 月 12 日（土）	秩父宮ラグビー場（港区）
（一財）東京都人材支援事業団公益事業 歌 劇魔笛	1 月 16 日（水）	文京シビックホール（文京区）
東京マラソン 2019 ランナー応援イベントマ ラソン祭り	3 月 3 日（日）	芝公園（港区）



ラテンアメリカへの道フェスティバル



全国育樹祭

<2019（令和元）年度：16事業>

事業（イベント）名	日程	会場
とうきょうフェスタ in 豊洲	5月18日（土） ～19日（日）	豊洲市場6街区（江東区）
第37回調布市民スポーツまつり	5月26日（日）	東京スタジアム（調布市）
秩父宮みなとラグビーまつり 2019	6月1日（土）	秩父宮ラグビー場、スタジアム通り（港区）
Sports for All 吉祥寺×ラグビー	6月2日（日）	吉祥寺駅北口駅前ロータリー（武蔵野市）
第1回 TOKYO ウォーク 2019	6月8日（土）	新宿中央公園（新宿区）
西多摩フェア 2019	6月15日（土）	イオンモール日の出（日の出町）
第42回「みたか商工まつり」	7月14日（日）	三鷹市役所（三鷹市）
第34回文京朝顔・ほおずき市	7月20日（土）	伝通院（文京区）
ファミリーコンサート「ファンタジー・オーケストラ」	8月12日（月）	東京オペラシティ（新宿区）
「モーツァルトで、おぺらくご!？」	8月20日（火）	東京文化会館（台東区）
第2回目「街の安全みまもり」街頭イベント in ヴィーナスフォート	8月24日（土）	ヴィーナスフォート1（江東区）
けやきフェスタ 2019「よさこい in 府中」	8月25日（日）	府中けやき並木の専門店街フォーリス（府中市）
エビフェス!「海老の日®」祭り in 豊洲	9月14日（土）	豊洲市場6街区屋外スペース（江東区）
第33回フェスタまちだ 2019	9月15日（日）	原町田大通りレミィ町田前（町田市）
全国各地の特産品がずらり! ご当地アンテナショップフェア	9月16日（月）	KITTE（千代田区）
みなとラグビーまつり 2019 芝公園	11月2日（土）	芝公園（港区）



エビフェス!



ご当地アンテナショップフェア

3 その他気運醸成の取組・情報発信

(1) RWC2019 開催都市特別サポーター（東京）

RWC2019 開催都市特別サポーターとは、各開催都市における応援団であり、開催都市ごとに著名人等が就任し、大会の認知度向上や盛り上げに向けて活動した。

都では、2018（平成 30）年 9 月、次の 3 人が就任した。

- ・ 畠山健介氏（プロラグビー選手、RWC2011、2015 日本代表）
- ・ 渡部建氏（お笑い芸人）
- ・ 山崎紘菜氏（女優）



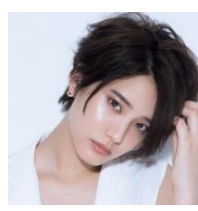
ポスター



畠山 健介



渡部 建



山崎 紘菜



大会 1 年前イベントでの
トークショーの様子

(2) 東京スポーツスクエア（ファンゾーン区部会場）を活用した PR

大会開催に向け、ファンゾーン区部会場となる施設を活用し、PR を実施した。

ア 東京開催応援フェアの実施

大会開催 1 年前及び 200 日前の節目を捉え、大会 PR を実施した。

期 間：2018（平成 30）年 11 月 5 日（月）～12 月 10 日（月）

2019（平成 31）年 3 月 3 日（日）～31 日（日）

主 催：東京都

内 容：大会 PR パネル展示・PR 動画の放映、大型ラグビーボールモニュメントの展示等

来場者：約 12,300 人



会場外観

イ ラグビー情報発信拠点

大会が目前に迫った機会を捉え、いつでもラグビー情報に触れられる「ラグビー情報発信拠点」を設置し、大会 PR を実施した。

期 間：2019（平成 31）年 4 月 13 日（土）～8 月 31 日（土）

主 催：東京都、組織委員会



フォトスポット

内 容：フォトスポットやインフォメーションコーナーの設置、大会 PR パネル展示・PR 動画の放映、ラグビー選手サイングッズ展示、応援メッセージ記入コーナー等

来場者：約 52,000 人

（３）東京都ラグビー情報

ラグビーの魅力や情報に、都民が気軽にアクセスできるようにするとともに、イベント情報などを継続的に発信するため、「東京都ラグビー情報」として HP や SNS を活用した情報提供を行った。

ア HP

2015（平成 27）年 3 月に、都のスポーツ情報ポータルサイト「スポーツ Tokyo インフォメーション」内に RWC2019 の情報を掲載した。2017（平成 29）年 1 月には、ラグビー関連情報によりアクセスし易くするため、新たに HP「東京都ラグビー情報」を開設した。

【掲載内容】

- ・ RWC2019 やラグビーの基礎知識、都内のラグビー情報の紹介
 - ・ 動画コンテンツ（大会 PR 動画やラグビールール動画（JRFU 作成）等）
- ※英語対応ページも作成

イ SNS

2017（平成 29）年 9 月に Twitter、2018（平成 30）年 8 月に Facebook 及び Instagram の SNS アカウントを取得し、情報発信を行った。

フォロワー数は、Twitter は約 5,500、Facebook は約 1,700、Instagram は約 4,000 となっている（大会開催時点）。

また、「東京都ラグビー情報」内に特設ページを作り、オリジナルフォトフレームを用意するほか、「#tokyo」、「#rwc2019」を付けて投稿された写真を紹介する SNS キャンペーンを 2018（平成 30）年 9 月から大会終了まで行った。

（４）絵本「はじめてのラグビー教室」

より多くの人々がラグビーに興味・関心を持ってもらえるよう、2017（平成 29）年 2 月、絵本を作成し、配布・掲載を行った。

内容：子供たちにもラグビーの面白さを身近に感じてもらうよう、分かりやすいイラスト入りの物語の中で、ラグビーのポジションやルール等の説明をはじめ、タグラグビーやウィルチェアーラグビーなど様々なラグビーを紹介

配布・掲載：都内の公立・私立小学校、公立図書館等に配布（16 万部）、HP「東京都ラグビー情報」に掲載



表紙



ルール説明ページ

(5)「カウンターボール」を活用した PR

ラグビーボールにカウントアップするボタン付きのカウンターが埋め込まれた「カウンターボール」を活用し、大会への期待や想いをボタンを押すことでつなぎ、大会開催までに 100 万人の応援を目指すキャンペーンを、大会 100 日前イベント（2019（令和元）年 6 月 16 日（日））から展開した。

ア PR ポスターの掲出

場所：都庁第一本庁舎 1 階正面玄関北側仮囲い、JR 新宿駅及び京王線渋谷駅、都営地下鉄 101 駅

期間：2019（令和元）年 7 月 17 日（水）～ 9 月中旬

※期間及び内容は、場所によって異なる



PR ポスター

イ PR 動画「100 万人でボールをつなごう」の放映

場所：新宿駅西口広場大型デジタルサイネージ、都営地下鉄チカッ都ビジョン、京王電鉄、K-DG チャンネルほか

期間：2019（令和元）年 7 月下旬～ 9 月中旬

※期間は、場所によって異なる



PR 動画「100 万人でボールをつなごう」

ウ イベント等への巡回

都内で実施されたトップリーグカップ 2019、「超☆汐留パラダイス！-2019 SUMMER-」、
「ホップ！ ステップ！！ 2020!!! 東京国際フォーラムで夏休み 丸の内キッズジャンボ

リー スペシャル版～」などのイベントのほか、次の都内各所を巡回した。

- ・ 都内公認チームキャンプ地自治体（武蔵野市、府中市、町田市）
- ・ RWC2019 出場国の在日大使館（仏、豪、米、英等）
- ・ 都内大学（日本大学、慶應義塾大学、東海大学、早稲田大学等）
- ・ 京王線新宿駅、飛田給駅
- ・ 都庁舎内、ラグビー情報発信拠点 等

キャンペーン開始から 82 日後の 2019(令和元)年 9 月 6 日（金）、「ラグビーパブリックビューイング 2019 in TOKYO 第 3 弾」の調布会場において、100 万人の応援を達成した。



イベント巡回時の様子



パブリックビューイング調布会場ステージ

（６）レンジーの活用

組織委員会が 2018（平成 30）年 1 月に発表した大会公式マスコット「レンジー」を活用し、年間 PR ブースや PR イベントへの出演、ラグビー情報発信拠点等でのグリーティングに加え、関係自治体や保育園等に出張し、大会を PR した。

＜レンジーの出演（2019（令和元）年 5 月～9 月＞

出演先	回数
年間 PR ブース、PR イベント、ラグビー情報発信拠点等	43 回
関係自治体 （武蔵野市役所、府中市役所、町田市役所）	8 回
保育園 （府中市立小柳保育園、調布市立神代保育園、町田市立金森保育園等）	10 回
その他 （都庁、丸の内キッズジャンボリー）	8 回
合計	69 回



町田市立金森保育園



都庁第一本庁舎 1 階南側

（７）広報東京都特集号の発行（生活文化局と連携）

大会開催の直前となる 2019（令和元）年 9 月号に、試合情報やファンゾーンの開催スケジュールなど、大会の特集記事を掲載し、発行した（配布部数：370 万部）。



(8) グッズの作成

大会の周知を図るため、オリジナルグッズ等を作成し、各種イベント等で配布

＜主な配布グッズ一覧＞

品目	用途	参考図（イメージ）
ピンバッジ	主にイベント来場者に配布	
レジャーシート	主に SNS キャンペーン参加者に配布	
うちわ	主にイベント来場者に配布	
トートバッグ	主にイベント来場者に配布	
ラグビージャージ風折り紙	主に SNS キャンペーン参加者に配布	

モバイルリングスタンド	主に SNS キャンペーン参加者に配布	
冷却タオル	主にイベント（パブリックビューイング）来場者に配布	
100 日前イベントステッカー	100 日前イベント来場者に配布	
カウンターボールステッカー	主に SNS キャンペーン参加者に配布	

4 多様な主体との連携

（１）組織委員会との連携

ア ポップアップミュージアム

組織委員会による移動式展示ミュージアム「ラグビーワールドカップ 2019™日本大会ポップアップミュージアム〜1 YEAR TO GO FESTIVAL〜」を都内で開催した。

期 間：2018（平成 30）年 11 月 9 日（金）～10 日（土）

場 所：東京スポーツスクエア（千代田区）

主 催：組織委員会（共催：東京都）

内 容：過去大会のメダル、ジャージなどのグッズ展示、RWC2019 出場全チームの紹介パネル展示、

PR 映像放映、フォトスポットエリア、ラグビーアトラクション、チケットインフォメーションカウンター、グッズショップ等

来場者：約 1,200 人



会場内装飾

イ GINZA RUGBY STREET

チケット一般先着販売に合わせた大会の盛り上げを目的として、組織委員会と都が共催してイベントを開催した。

日 程：2019（令和元）年 5 月 12 日（日）

場 所：銀座みゆき通り（中央区）

主 催：組織委員会（共催：東京都）

内 容：メディアイベント、ストリートラグビー、スポンサーブース等

来場者：約 25,000 人



レンジー



フォトセッション

ウ 大会優勝トロフィー「ウェブ・エリス・カップ」の展示

RWC の優勝チームに贈られるトロフィー「ウェブ・エリス・カップ」の巡回展示を、組織委員会が全国各地で実施し、東京では都庁内で展示した。

日 程：2019（令和元）年 7 月 31 日（水）

場 所：都庁第一本庁舎 2 階正面奥

主 催：東京都、組織委員会

内 容：優勝トロフィー展示、ハカパフォーマンス

来場者：約 3,000 人



ウェブ・エリス・カップ



記念撮影の様子



ハカパフォーマンス

エ 開幕 50 日前「ラグビーワールドカップ 2019™日本大会展」への PR コーナー設置

組織委員会が大会開幕 50 日前（2019（令和元）年 8 月 1 日（木））を記念して開催した「ラグビーワールドカップ 2019™日本大会展」に、都の PR コーナーを設置した。

期間：2019（令和元）年 8 月 1 日（木）～20 日（火）

場所：東京駅八重洲地下街センタースポット A（中央区）

主催：組織委員会（協力：東京都）

内容：PR ポスターの掲出、カウンターボールの設置等

（2）JRFU との連携

都内在住又は在学の小中高生を対象に、ラグビーテストマッチやトップリーグの観戦招待を実施した。

- ・ ラグビーテストマッチ（日本代表 対 スコットランド代表）

日程：2016（平成 28）年 6 月 25 日（土）

人数：300 人

- ・ ジャパンラグビートップリーグ 2016-2017 第 14 節（サントリーサンゴリアス 対 東芝ブレイブルーパス）
日程：2017（平成 29）年 1 月 7 日（土）
人数：800 人
- ・ ラグビーテストマッチ（日本代表 対 アイルランド代表）
日程：2017（平成 29）年 6 月 24 日（土）
人数：300 人
- ・ ジャパンラグビートップリーグ 2017-2018 第 13 節（サントリーサンゴリアス 対 東芝ブレイブルーパス）
日程：2017（平成 29）年 12 月 24 日（日）
人数：600 人
- ・ ラグビーテストマッチ（日本代表 対 ニュージーランド代表）
日程：2018（平成 30）年 11 月 3 日（土・祝）
人数：200 人

（３）東京観光情報センター（産業労働局）との連携

東京観光情報センターにおける大会に関するイベント開催に協力した。

- ・ 大会 PR イベント
日時：2019（令和元）年 8 月 18 日（日）、9 月 8 日（日）、21 日（土）
場所：東京観光情報センター多摩、エキュート立川 3 階タマリバ（立川市）
内容：レンジー等との写真撮影会、グッズ抽選会、ラグビージャージ風折り紙ワークショップ、大会関係及び試合会場周辺観光情報のパネル展示やパンフレット配布等



東京観光情報センター多摩



エキュート立川 3 階タマリバ

- ・ 大会 PR 展示
期間：2019（令和元）年 9 月 2 日（月）～11 月 5 日（火）
場所：東京観光情報センター（バスタ新宿・都庁・多摩）
内容：大会に関するパネル、ポスター、パンフレットの展示等

（４）各区市町村との連携

区市町村が RWC2019 の関連イベントや PR を実施することにより、都内全体で一層の気運醸成が図れるよう、区市町村と連携した取組を実施した。

＜区市町村による主な取組＞

※RWC2019 の名称やロゴを活用した事業

区市町村名	取組内容
文京区	カウントダウンイベント、クリアファイルの作成、広報紙への掲載等
墨田区	100 日前イベント、東京スカイツリーライトアップ
目黒区	RWC2019 啓発イベント
練馬区	広報紙への掲載
武蔵野市	武蔵境ラグビーボールモニュメント完成披露セレモニー
府中市	500 日前・100 日前記念フォーラム、「ラグビーのまち府中デー」での PR
昭島市	広報紙への掲載
調布市	ラグビースクラムフェスティバル、広報紙への掲載、カウントダウンボードの制作等
町田市	講演会「RWC2019 に向けて」
狛江市	大畑大介さんの親子ラグビー教室
稲城市	稲城市ラグビー祭り
西東京市	広報紙への掲載
奥多摩町	ウォーキングイベントでの PR

（５）多摩観光推進協議会との連携

地元 3 市及び公認チームキャンプ地自治体である 5 市において、スタンプラリーを実施した。

期間：2018（平成 30）年 11 月 2 日（金）～30 日（金）

内容：大会をデザインした台紙に、色を重ね押しする版画形式のスタンプラリーを実施。

関係 5 市 10 施設にスタンプ台を設置（全施設を巡ると 1 枚の絵葉書が完成）。



完成イメージ

＜スタンプ台設置場所＞

自治体名	設置場所
武蔵野市	（一社）武蔵野市観光機構
	吉祥寺まち案内所（アトレ吉祥寺はなびの広場内）
三鷹市	三鷹市大沢の里古民家
	三鷹中央防災公園・元気創造プラザ
府中市	府中市観光情報センター
	府中市郷土の森観光物産館
調布市	調布市文化会館たづくり
	武蔵野の森総合スポーツプラザ
町田市	小野路宿里山交流館
	町田ツーリストギャラリー

（６）読売新聞社との連携

大会スポンサーである読売新聞社と連携し、RWC2019 特集号を発行した。

配布部数：日本語版 15 万部、英語版 2 万部

配布時期：2019（令和元）年 7 月下旬から

配布場所：都庁、ラグビー情報発信拠点、イベント「超☆汐留パラダイス」等



RWC2019 特集号

（７）日本テレビ放送網（株）との連携

大会オフィシャルブロードキャスターの日本テレビ放送網（株）が実施する各種イベントと連携した。

- ・ 「ゴールデンまなびウィーク」と連携した特別企画
期間：2019（平成 31）年 4 月 27 日（土）～5 月 6 日（月・祝）
内容：「ラグビー情報発信拠点」との連携等
- ・ 「超☆汐留パラダイス-2019 SUMMER-」と連携した特別企画
期間：2019（令和元）年 7 月 26 日（金）～8 月 25 日（日）
内容：「カウンターボール」企画との連携等

- RWC2019 を盛り上げるとともに、開催都市の魅力・特色を国内外に印象づけるため、チケット販売期間やボランティア募集期間、大会期間中に、街灯フラッグ等の都市装飾を実施した。
- 都は、組織委員会提供の装飾アイテムを都内全区市町村、試合会場及びファンゾーン会場周辺などに設置するだけでなく、独自に街灯フラッグやバス・電車のラッピング、建物・施設装飾、レンジーモニュメントなどの都市装飾を実施し、大会気運を醸成した。

1 全体概要及びスケジュール

開催都市は、RWC2019 を盛り上げるとともに、開催都市の魅力・特色を国内外に印象づけるため、チケット販売期間、ボランティア募集期間、大会期間中に、街灯フラッグ等の組織委員会が提供する装飾アイテムを活用し、都市装飾を実施した。さらに、都は、組織委員会のシティ・ドレッシング・ガイドラインを踏まえた都市装飾を実施するとともに、都独自の都市装飾も合わせて実施した。

<都市装飾実施期間>

- ・ 2018（平成30）年3月～6月：チケット先行抽選販売期間、ボランティア募集期間
- ・ 2018（平成30）年9月～11月：チケット第一次一般販売期間
- ・ 2019（令和元）年8月～11月：大会期間

【組織委員会と開催都市の役割分担】

- ・ 組織委員会：装飾アイテムの製作、輸送
- ・ 開催都市：装飾アイテムの設置場所提供、設置、管理、撤去、処分及び製作※
※組織委員会から提供されるアイテムが不足する場合

2 組織委員会提供装飾アイテム

（1）チケット販売期間、ボランティア募集期間

- ・ アイテム
街灯フラッグ（4種類）、多目的バナー（5種類）
- ・ 設置場所
街灯フラッグ：三鷹市内、府中市内、調布市内、新宿エリア、青山エリア、銀座エリア
多目的バナー：都内全区市町村、都立体育施設等



街灯フラッグ



多目的バナー

(2) 大会期間

- ・ アイテム

街灯フラッグ（5種類）、多目的バナー（5種類）、フェンスバナー（5種類）、のぼり旗（5種類）、連続旗（5種類）、ペーパードレッシングシート（B1：3種類、B2：3種類）

- ・ 設置場所

試合会場周辺（ラストマイル（飛田給駅・西調布駅・多磨駅から東京スタジアムまでの間）を含む）、シャトルバス発着駅（調布駅・多磨駅・武蔵境駅・武蔵小金井駅・狛江駅）周辺、ファンゾーン会場周辺、東京駅周辺、都庁前駅周辺



街灯フラッグ



フェンスバナー

3 都が独自で実施した都市装飾

(1) 街灯フラッグ

産業労働局や東京都商店街振興組合連合会、東京都商店街連合会等の協力を得て、都内の商店街にフラッグを掲出した。

- ・ 期間①：2018（平成30）年10月～2019（平成31）年2月

枚数：約4,000枚

場所：都内22エリアの商店街（新宿、銀座、青山、渋谷、東京、品川、秋葉原、上野、明大前、千歳烏山、六本木、調布、府中、三鷹、吉祥寺、町田、狛江、多磨、武蔵境、武蔵小金井、飛田給、東小金井）



期間①



期間②

- ・ 期間②：2019（令和元）年8月～大会終了時
枚数：約43,000枚
場所：都内全域の商店街（約1,100商店街）

(2) バス・電車への装飾

交通局や交通事業者と連携し、大会をPRするラッピング等の装飾をバスや電車に行った（バス計7社30台、電車計4社16編成）。

<バス・電車への装飾実績>

	交通事業者	掲出期間	台数
バス	都営バス	2018（平成 30）年 9 月～	11 台
	小田急バス	2019（平成 31）年 1 月～	5 台
	関東バス	2019（令和元）年 6 月～	5 台
	東急バス	2019（令和元）年 6 月～	5 台
	神奈川中央交通	2019（令和元）年 7 月～	1 台
	京王電鉄バス	2019（令和元）年 7 月～	2 台
	西東京バス	2019（令和元）年 7 月～	1 台
電車	京王線	2018（平成 30）年 9 月～ （2019（令和元）年 8 月までは 1 編成のみ）	3 編成
	都営新宿線	2019（平成 31）年 2 月～ （2019（令和元）年 6 月までは 1 編成のみ）	10 編成
	西武多摩川線	2019（平成 31）年 3 月～	1 編成
	西武新宿・拝島線	2019（平成 31）年 3 月～	1 編成
	多摩モノレール	2019（令和元）年 6 月～	1 編成

※提出期間の終期は、すべて大会終了時まで



都営バス



京王線



西武多摩川線



西武新宿・拝島線



多摩モノレール

また、都営バスの車両、都営地下鉄、日暮里・舎人ライナー各編成の先頭車両、多摩モノレールへの PR ステッカーの掲出、東京さくらトラムへの PR ヘッドマークの掲出のほか、都営地下鉄（浅草線を除く）、日暮里・舎人ライナー各駅のホームドアへの PR ステッカーの掲出を行った。

期間：2019（平成 31）年 1 月～大会終了時



東京さくらトラム

(3) 建物・施設等への装飾

日本空港ビルデング（株）や、（株）東京国際フォーラム、京王電鉄（株）等の協力を得て、様々な建物・施設等に装飾を施した。

ア 東京駅前

期間：2018（平成 30）年 2 月～大会終了時

場所：東京駅八重洲中央口前交差点付近



大型看板表面（駅側）



大型看板裏面

イ 都庁第一本庁舎

期間①：2018（平成 30）年 2 月～ 5 月

場所：1 階南側展示コーナー



1 階南側展示コーナー

期間②：2019（令和元）年 8 月～大会終了時

場所：正面入口工事囲い、

2 階設置の熊手（レンジーの装飾）

※組織委員会及び産業労働局との連携



正面入口工事囲い



熊手

ウ 東京スポーツスクエア（千代田区）

期間：2019（平成 31）年 3 月～大会終了時

場所：本館外壁、別館上部



本館外壁



別館上部

- エ 東京国際空港（羽田空港）（大田区） ※日本空港ビルデング（株）と連携
 期間：2019（令和元）年5月～大会終了時
 場所：国内線第1・第2ターミナル 10か所



国内線第1ターミナル



国内線第2ターミナル

- オ 東京国際フォーラム（千代田区） ※（株）東京国際フォーラムと連携
 期間：2019（令和元）年8月～大会終了時
 場所：地上広場、地下1階東京メトロ有楽町線連絡口、地下1階コンコース



地上広場



地下1階東京メトロ有楽町線連絡口

- カ 飛田給駅等 ※京王電鉄（株）、調布市と連携
 期間：2019（令和元）年8月～11月
 場所：改札外、北口ロータリー、スタジアムデッキ階段等



改札外



北口ロータリー



スタジアムデッキ階段

- キ 新宿駅（京王線）
 ※京王電鉄（株）と連携
 期間：2019（令和元）年8月～10月
 場所：改札内外、ホーム 61面



改札内



ホーム

- ク 新宿駅（京王新線） ※京王電鉄（株）と連携
 期間：2019（令和元）年9月～大会終了時
 場所：工事囲い 4面



京王新線工事囲い

- ケ 有楽町駅（東京メトロ） ※東京地下鉄（株）と連携
 期間：2019（令和元）年9月～大会終了時
 場所：D9出入口階段踊り場、出口壁面 4面



D9 出入口階段踊り場



出口壁面

（４）ラグビーウォールギャラリーの設置（キャノン（株）と連携）

大会スポンサーであるキャノン（株）の協力の下、ラグビーの迫力ある大型写真を印刷・掲示するプロジェクト「ラグビーウォールギャラリー」を実施した。

- ・ 飛田給駅コンコース内の壁面
期 間：2017（平成 29）年 6 月～7 月
サイズ：高さ約 4 m×幅約 13. 5m



飛田給駅コンコース

- ・ 下北沢駅（小田急線）旧南口付近の工事仮囲い（3 面） ※小田急電鉄（株）と連携
期 間：2018（平成 30）年 9 月～大会終了時
サイズ：高さ約 3. 2m（最大）×幅約 20m
（3 面合計）



下北沢駅旧南口付近

- ・ 調布駅前の工事仮囲い ※調布市と連携
期 間：2018（平成 30）年 9 月～大会終了時
サイズ：高さ約 3. 2m×幅約 26m



調布駅前

- ・ 代々木駅（都営地下鉄大江戸線）通路
期 間：2018（平成 30）年 10 月～大会終了時
サイズ：高さ約 2. 4m×幅約 5. 8m、
高さ約 2. 4m×幅約 10m



代々木駅通路

- ・ 日本青年館・日本スポーツ振興センタービル外壁（新宿区）
期 間：2018（平成 30）年 11 月～大会終了時
サイズ：高さ約 4. 4m×幅約 7. 1m、
高さ約 4. 4m×幅約 7. 6m



日本青年館・日本スポーツ振興
センタービル外壁

- ・ 新宿スバルビル解体工事仮囲い（新宿駅西口）
※小田急電鉄（株）と連携
期 間：2018（平成 30）年 12 月～2019（令和元）
年 7 月
サイズ：高さ約 3 m×幅約 65m
※RWC2019 出場全 20 か国の選手の写真を掲出



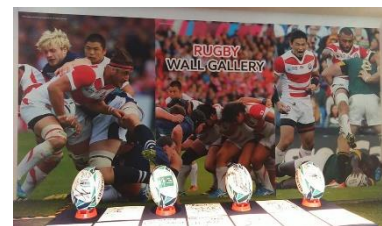
スバルビル解体工事仮囲い

- ・ 都庁第一本庁舎 1 階南側展示コーナー
期 間：2019（平成 31）年 1 月～大会終了時
サイズ：高さ約 3.6m×幅約 8 m



都庁 1 階南側展示コーナー

- ・ 東京スポーツスクエア別館（千代田区）
期 間：2019（平成 31）年 3 月～大会終了時
サイズ：高さ約 2.5m×幅 5m、ほか 3 種



別館内正面

- ・ 旧築地市場解体工事仮囲い（中央区）
期 間：2019（平成 31）年 3 月～大会終了時
サイズ：高さ約 3 m×幅約 31m



旧築地市場解体工事仮囲い

- ・ ファンゾーン区部会場（1 階）
期 間：2019（令和元）年 9 月～大会終了時
サイズ：高さ約 2.7m×幅約 20m



ファンゾーン区部会場 1 階

(5) レンジーモニュメントの設置

レンジーのモニュメントを、各施設管理者等の協力の下、都内16か所に設置した。

期間：2019（令和元）年8月～大会終了時

場所：

- ・ 東京スタジアム
- ・ ファンゾーン（調布駅前広場、東京スポーツスクエア）
- ・ 地元3市（三鷹駅南口、府中駅南口、調布駅前広場※）
- ・ 公認チームキャンプ地自治体（武蔵境駅南口、町田市役所、府中駅南口※）
- ・ シャトルバス発着所（多磨駅改札口、狛江駅北口、武蔵小金井駅南口（小金井市民交流センター）、武蔵境駅南口※、調布駅前広場※）
- ・ 交通ターミナル等（羽田空港第1・第2ターミナル、東京駅丸の内北口、JR品川駅構内、東京国際フォーラム、都庁第一本庁舎）

※は再掲



府中駅南口



武蔵境駅南口

(6) その他の装飾

ア 電線類地中化の地上機器装飾

期間：

- ・ 区部5エリア（東京駅・大手町、銀座・新橋・虎ノ門、渋谷・表参道、恵比寿・代官山、二子玉川） 2018（平成30）年9月～大会終了時
- ・ 多摩地域5エリア（武蔵野、三鷹、府中、調布、町田） 2019（令和元）年7月～大会終了時

規模：

- ・ 区部5エリア 120基
- ・ 多摩地域5エリア 70基



銀座・新橋・虎ノ門エリア



町田エリア

イ 区市町村庁舎への懸垂幕及び壁面シート

期間：2018（平成30）年12月～大会終了時

規模：懸垂幕 28区市町村、壁面シート 3区市



台東区役所



三鷹市役所

- ウ 下水道公共汚水ます蓋 ※下水道局と連携
期間：2019（平成 31）年 4 月～大会終了時
規模：13 か所
（秩父宮ラグビー場及び東京スポーツスクエア周辺）



秩父宮ラグビー場周辺

- エ 大会期間中のライトアップ
大会の開幕を記念して、都内の施設をレンジーをイメージした「白」、「赤」にライトアップした。
期間：2019（令和元）年 9 月～
※実施期間は、施設により異なる
場所：都庁第一本庁舎、東京スタジアム、駒沢オリンピック公園 ほか 15 か所



駒沢オリンピック公園

- オ 新宿副都心 4 号線光壁への PR ポスター掲出
※（公財）東京都道路整備保全公社と連携
期間：2019（令和元）年 9 月～大会終了時
場所：都道新宿副都心 4 号線地下歩道部光壁
（北側 8 枚、南側 10 枚）



新宿副都心 4 号線地下歩道

4 台風 19 号への対応

台風 19 号は、影響が広範囲に及ぶことが予想された。特に、街灯フラッグについては、都内の広い範囲で数多く掲出されていたことから、損傷を防ぐため、フラッグを取り付けているバーなどに巻き付け、結束バンドで止めることとした。

同年 10 月 12 日（土）から 13 日（日）にかけて、台風 19 号の影響を大きく受けると予想されたことから、同月 9 日（水）から 11 日（金）に巻き付け等を行い、損傷を未然に防止するとともに、14 日（月）以降、順次、原状回復を行った。

5 区市町村との連携

大会の一層の盛り上げを図るため、各区市町村においても、RWC2019 の都市装飾を実施した。なお、各区市町村による取組の促進を目的に、都は補助金による支援を実施した。

<区市町村による主な都市装飾>

※RWC2019 の名称やロゴを活用した事業

区市町村名	取組内容	装飾場所
港区	のぼり旗等	パブリックビューイング会場
台東区	街灯フラッグ、のぼり旗、横断幕	パブリックビューイング会場
墨田区	のぼり旗	東京スカイツリータウン
中野区	のぼり旗、横断幕等	中野駅東西連絡路、パブリックビューイング会場
北区	のぼり旗	パブリックビューイング会場
練馬区	壁面シート	区役所
武蔵野市	横断幕、地上機器ラッピング	市内駅
青梅市	地上機器ラッピング	市役所、青梅駅前
府中市	ラッピングバス、地上機器の装飾	府中市内、けやき並木通り
昭島市	街灯フラッグ	パブリックビューイング会場、主要幹線道路、市役所
調布市	駅装飾、懸垂幕、横断幕、ウォールギャラリー、調布駅装飾	調布駅、市有施設等
町田市	街灯フラッグ、横断幕	町田駅周辺等
日野市	街灯フラッグ、のぼり旗、横断幕	パブリックビューイング会場、市有施設
狛江市	のぼり旗、ボールモニュメント	パブリックビューイング会場、市役所、狛江駅
西東京市	懸垂幕	パブリックビューイング会場



東京スカイツリータウン（墨田区）



中野駅東西連絡路（中野区）

第1部 東京都運営本部の設置

- 組織委員会は大会運営本部及び会場運営本部を設置し、各開催都市は観客の交通輸送、セキュリティ、ファンゾーン等の開催都市業務を実施するため、開催都市運営本部を設置し、互いに連携して一体的に大会を運営した。
- 東京都運営本部には、開催都市業務を担う各運営担当に加え、全体調整等を行う開催都市統括担当を設置し、組織委員会や関係機関等と連携しながら、開催都市業務を実施するとともに、組織委員会の大会運営を支援した。
- 東京都運営本部では、平常時において各運営担当が確実かつ迅速に業務を行うとともに、事案発生時においても適時適切に対応した。
- 大会期間中の職員体制は、RWC 担当職員に加え、東京 2020 大会に運営ノウハウを継承していくため、オリンピック・パラリンピック準備局を中心に、関係各局も含めた体制とし、経験を共有できる体制とした。

1 組織委員会と各開催都市との一体的な体制の構築

RWC2019 において、組織委員会は、試合の運営、選手の輸送、各チームへのサービス等の大会を運営する役割を担う。一方、各開催都市は、試合会場への観客誘導等の交通・セキュリティ対策等を担う。運営に当たっては、組織委員会と各開催都市が連携し、一体的に大会を運営していくことが不可欠である。

そこで、各試合会場で統一した運営体制を構築するため、組織委員会と各開催都市とが協議し、全試合会場共通の基本的な運営体制が構築された。

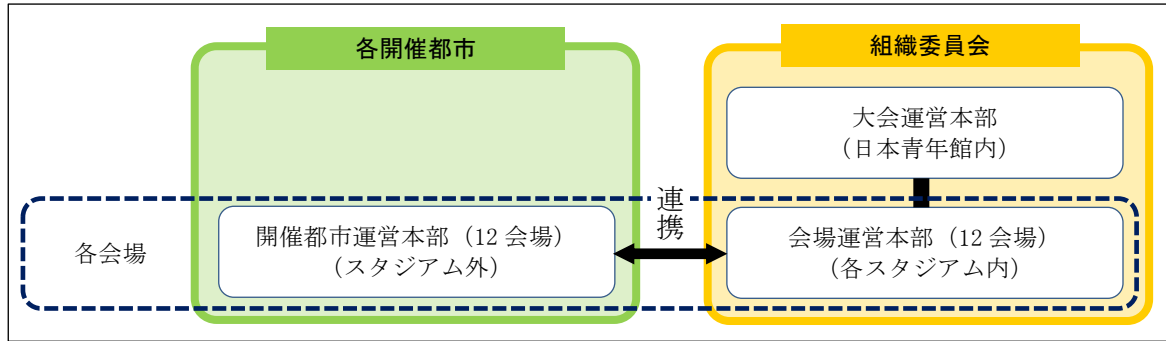
(組織委員会と各開催都市の体制)

- ・ 組織委員会は、試合の中止や延期等、大会運営上の重要事項を決定する「大会運営本部（トーナメントヘッドクォーター）」を組織委員会内（日本青年館）に、各試合会場の管理運営を担う「会場運営本部」を各スタジアム内に設置
- ・ 各開催都市は、開催都市業務を実施するため、「開催都市運営本部」をスタジアム外に設置

(各試合会場統一の体制)

- ・ 各試合会場では、組織委員会が「会場運営本部」にイベントデリバリーマネージャーを、各開催都市が「開催都市運営本部」に開催都市統括を設置し、相互に連携
- ・ 両者間の連絡・調整を円滑に実施するため、「開催都市運営本部」に組織委員会職員（開催都市運営マネージャー）を配置
- ・ 加えて、特に交通輸送、セキュリティについては、密に連携を図る必要があることから、組織委員会の「会場運営本部」に開催都市職員をそれぞれ配置

＜組織委員会と各開催都市の体制図＞



2 訓練等による運営体制の検証

会場ごとの固有の状況に応じた体制を構築するため、東京会場においては、検討してきた運営体制を検証することを目的に、組織委員会とともに、輸送及び警備に関する突発事案（荒天、鉄道の運転見合わせ）に関し、2回の図上訓練を実施した。

また、東京消防庁が、RWC2019などの国際的なスポーツイベントにおけるテロ災害を想定して東京スタジアムで実施した「東京消防庁大規模テロ総合訓練」に組織委員会とともに参画し、情報連絡体制の検証を行った。

図上訓練：2019（令和元）年6月17日（月）（第1回）、7月1日（月）（第2回）

東京消防庁大規模テロ総合訓練：同年7月4日（木）



東京消防庁大規模テロ総合訓練



訓練時における東京都運営本部

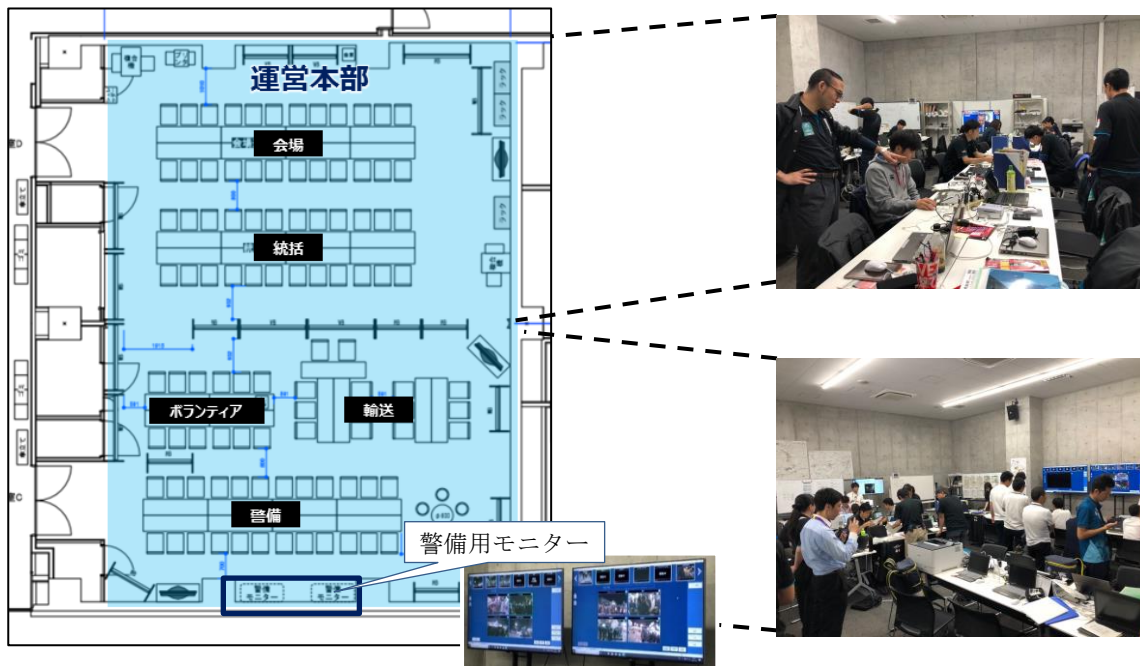
3 都の運営体制

都は、各開催都市が設置する開催都市運営本部として、東京都運営本部を設置した。東京都運営本部は、交通輸送、セキュリティ、ファンゾーン等の開催都市業務を直接担う各運営担当と、組織委員会との連絡・調整や運営担当間の情報共有等の全体調整を行う開催都市統括担当による構成とした。

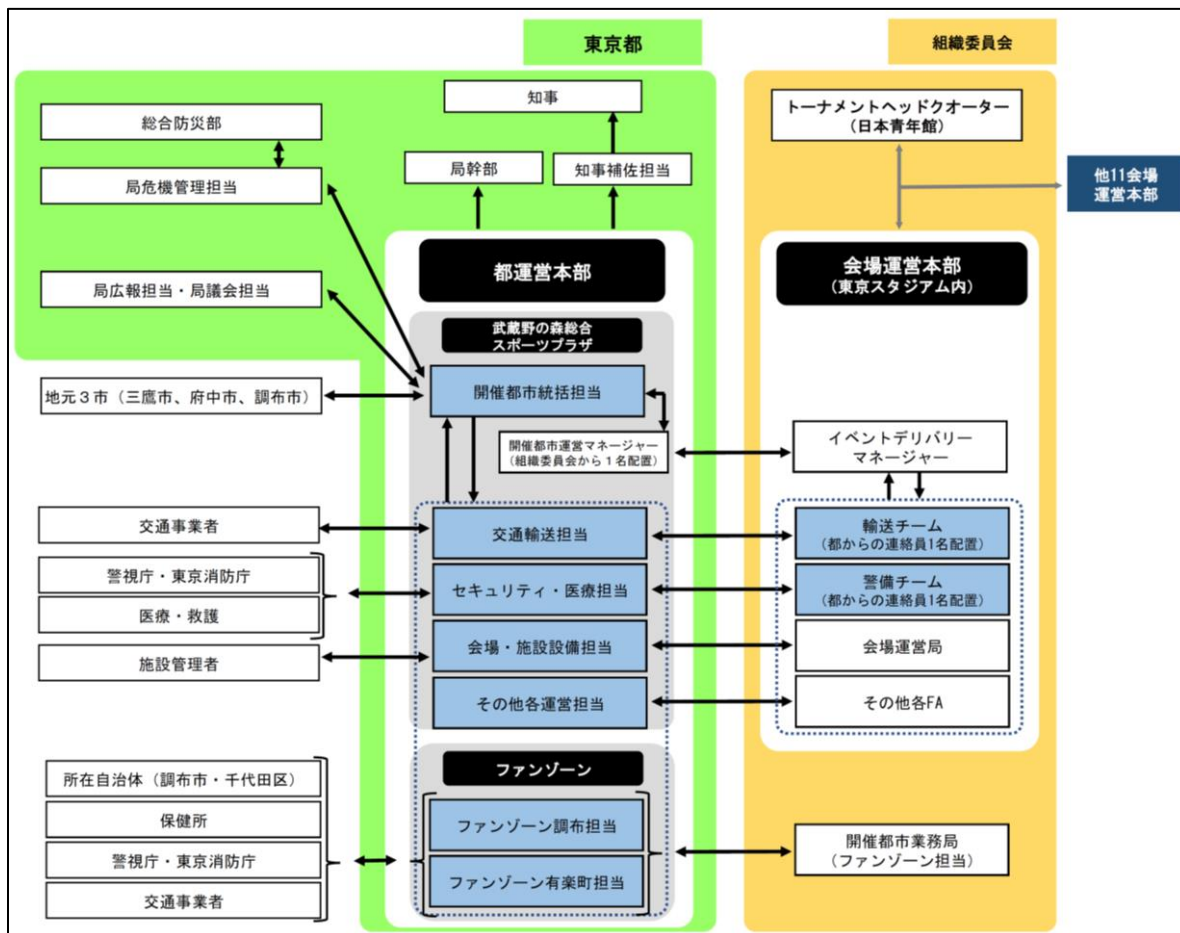
また、地震や台風などの緊急時等に円滑な対応ができるよう、組織委員会に加え、警視庁、東京消防庁等の関係機関や地元3市、都の防災担当部署（総務局総合防災部）等と事前に連絡手段、対応方法等を調整し、事案発生時に速やかに連携が取れる体制とした。

東京スタジアムでの試合日（8日間）については、試合会場及びラストマイルに近接する武蔵野の森総合スポーツプラザ内や、各ファンゾーン内に執務スペースを設け、開催都市業務に対応した。さらに、東京スタジアムで試合が行われていない日も含め、大会期間（44日間）を通じて、本部機能を設け、開催都市業務を実施するとともに、組織委員会の大会運営を支援した。

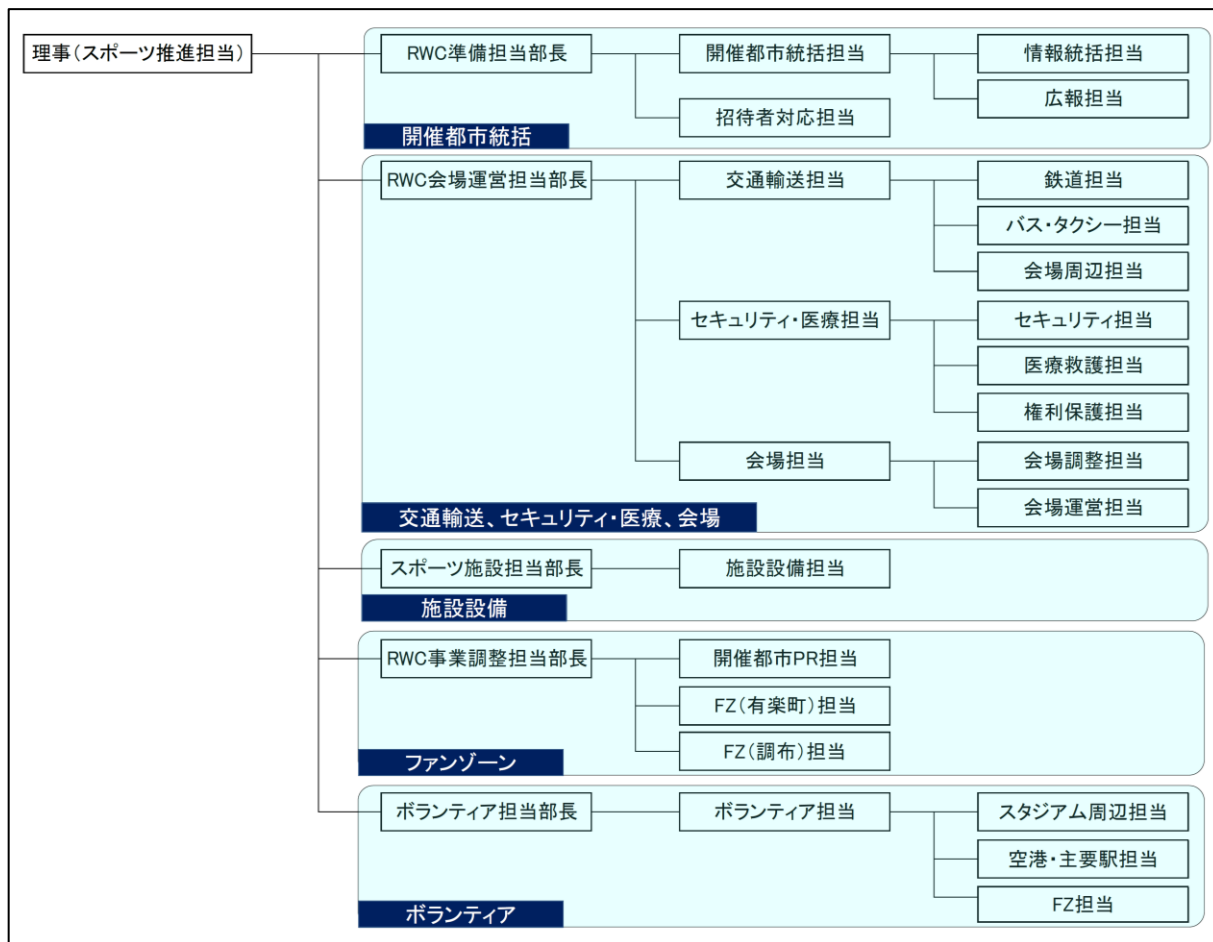
<武蔵野の森総合スポーツプラザ内運営本部>



<大会期間中における運営体制（東京スタジアムでの試合日の体制）>



＜大会期間中における組織体制＞



＜大会期間中における各運営担当と主な業務内容＞

運営担当	業務内容
開催都市統括担当	- 各運営担当からの情報収集 - 各運営担当への情報提供 - メディアからの問合せ対応 等
招待者対応担当	都内及び被災地観戦招待対応 等
交通輸送担当	- 鉄道、バス等の交通事業者との連絡調整 - ラストマイル、試合会場周辺の状況把握 - おもいやりシャトル・送迎車両の運行対応 等
セキュリティ・医療担当	- ラストマイル等における雑踏警備、交通誘導等の自主警備 - 傷病者等への対応 - 組織委員会と連携したアンブッシュ（権利保護）対応 等
会場担当	- 大会において使用する施設等の利用に係る施設管理者等との調整 - ラストマイル及びその周辺の清掃・衛生業務 - 託児サービス及び授乳・おむつ交換スペースの運営 等
施設設備担当	試合会場内に整備した仮設物（仮設トイレ等）の保守管理 等

開催都市 PR 担当	・ スペクテータープラザ内における“和”のおもてなし体験 ・ ペDESTリアンデッキ上の総合インフォメーションセンターの設置 ・ ホストシティパフォーマンスの調整 等
ファンゾーン担当	・ ファンゾーン（多摩会場、区部会場）の運営 ・ 出展者（区市町村、大使館、スポンサー、開催都市等）との調整 等
ボランティア担当	・ ボランティアの管理・運営業務 ・ ボランティアの出欠、活動指示、問合せ対応等 等

4 東京都運営本部におけるオペレーション

交通輸送、セキュリティ、ファンゾーン等の各運営担当が確実かつ迅速に業務を行うことができるよう、事案に応じて、次のとおり対応した。

（１）平常時

- ・ 各運営担当が、開催都市の役割分担に応じて、交通輸送、セキュリティ、ファンゾーン等の運営を実施した。
- ・ 開催都市統括担当は、各運営担当内で使用するトランシーバーや、業務用情報共有スマートフォンアプリ等を活用し、音声や文字、写真等による情報の収集を行い、全体の運営状況を把握した。
- ・ また、開催都市統括担当は、収集した情報を各運営担当に速やかに共有するため、業務用情報共有アプリを活用し、情報を発信した。発信に当たっては、情報の内容に応じて、全担当者又は一部の担当者など必要な範囲を設定した。加えて、各運営担当が全体の運営状況も把握できるように、収集した情報を東京都運営本部内のホワイトボードに記載した。
- ・ 組織委員会の会場運営本部と東京都運営本部が相互に状況を把握できるように、事前に計画した以下の事項について情報共有した。



ホワイトボード

【組織委員会 ⇒ 都】

開場、試合開始、来場者数、閉場等

【都 ⇒ 組織委員会】

会場周辺駅やラストマイル、ファンゾーンの混雑状況等

（２）事案発生時

- ・ 観客や試合運営への影響等、事案の軽重に応じて、組織委員会等とも連携して対応した。
- ・ 「試合日における事案発生時の主な事例とオペレーションの考え方」を基本とし、事案の状況に応じ、適宜、柔軟に対応した。

＜試合日における事案発生時の主な事例とオペレーションの考え方＞

主な事例		オペレーションの考え方
1-1	ラストマイルにおける迷子の発生	・ 現場判断による対応 ・ 開催都市統括は、各運営担当内のトランシーバーや業務用情報共有アプリにより情報収集 ※理事（スポーツ推進担当）に共有 ・ 発生した事案の大きさに応じて、開催都市統括から各運営担当へ業務用情報共有アプリで情報共有
1-2	負傷者・急病人等の発生	
1-3	都市装飾の破損	
1-4	観客の滞留発生	
1-5	近隣住民からの要望・苦情等 (ラストマイルにおけるゴミ散乱等)	
2-1	人身事故による最寄駅での電車運休	・ 開催都市統括、理事（スポーツ推進担当）に報告の上、対応 ※原則、局幹部に報告 ・ 開催都市統括から各運営担当へ業務用情報共有アプリで情報共有
2-2	倒木等によるラストマイル通行障害	
2-3	ラストマイル周辺でのぼや・火災の発生	
3-1	雷雨に伴う試合スケジュール変更	・ 組織委員会の判断等を踏まえ、局幹部へ報告の上、対応 ※発生した事案の大きさに応じて、知事に報告 ・ 開催都市統括から各運営担当へ業務用情報共有アプリで情報共有 ・ 必要に応じて広報対応
3-2	大型台風の上陸予報に伴う試合スケジュールの変更	
4-1	首都直下地震発生（震度 6 以上）	・ 大会関係者や観客の避難等、必要な対応を組織委員会と実施するとともに、都災害対策本部等と連携し、適切に対応 ・ 必要に応じて広報対応
4-2	大規模テロの発生	
4-3	群衆事故による死傷者の発生	

【具体的対応事例】

- ・ 傷病者発生時には、必要に応じて組織委員会や警視庁、東京消防庁等の関係機関と連携し、速やかに情報伝達等を行うことで、迅速に対応した。
- ・ 台風 19 号の発生に伴うボランティアの活動内容やファンゾーンの実施について、最新の気象情報や公共交通機関の状況を把握し、関係自治体とも調整の上、対応した。

5 台風 19 号への対応

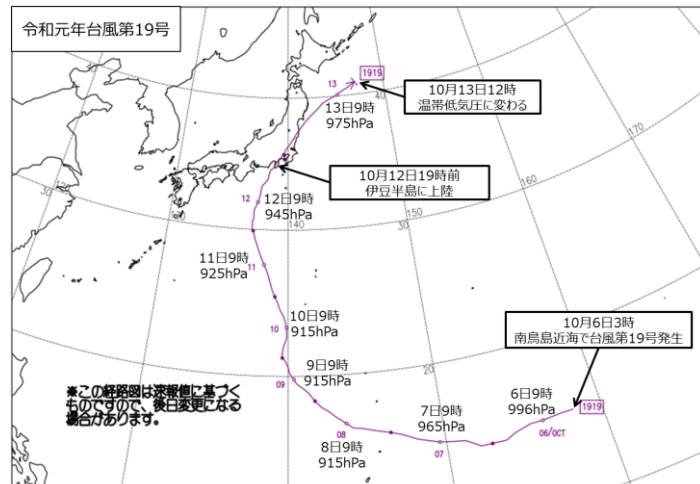
台風 19 号は、2019（令和元）年 10 月 6 日（日）に発生し、12 日（土）に関東甲信越・東北地方に直撃し、広い範囲で大雨、暴風、高波、高潮となった。大雨の影響で、各地で河川の氾濫が相次いだほか、土砂災害や浸水害、これらによる人的被害や住家被害、ライフラインへの被害等、各地に甚大な被害をもたらした。

都は、10 日（木）に東京都応急対策本部を、12 日（土）には東京都災害対策本部を設置し、非常配備態勢で対応を行った。

RWC2019 では、台風 19 号の影響により、12 日（土）及び 13 日（日）に予定されていた 3 試合が中止となった。

台風の上陸が東京スタジアムの試合日と重ならなかったため、東京会場においては試合スケジュールへの影響はなかったが、同日にはファンゾーン開催やボランティア活動が予定されていた。

特に、13 日（日）には、日本代表の決勝トーナメント進出がかかる試合が予定されており、都民・国民の関心が高まっていたため、迅速な対応や情報発信が求められていた。東京都運営本部においては、次の表のとおり、組織委員会の試合開催の判断や、最新の気象情報、公共交通機関の状況の把握、関係自治体との調整状況等も踏まえ、対応した。



気象庁発表資料「台風第 19 号による大雨、暴風等」

＜主な対応＞

	台風 19 号の状況 (気象庁の発表等)	都及び組織委員会の対応等
10 月 6 日(日)	台風 19 号が南鳥島近海で発生	
10 月 7 日(月)	大型で非常に強い台風は、12 日(土)から 13 日(日)にかけて本州、四国、九州にかなり接近するおそれがあり、全国的に広い範囲で暴風や警報級の高波や大雨となる可能性あり	【都】 台風の動向を注視し、西日本で開催される 12 日(土)の福岡、13 日(日)の東大阪、熊本の試合開催判断が及ぼす影響等について検討
10 月 8 日(火)	大型で猛烈な勢力の台風は、12 日(土)から 13 日(日)にかけて西日本から東日本にかなり接近し、その後、北東に進路を変えて、速度を上げながら北日本に進むおそれがあり、全国的に広い範囲で暴風や警報級の高波や大雨となる可能性あり	【都】 台風 19 号進路予測の変更（東日本への接近見込み）を受け、ファンゾーン及びボランティア活動への直接的影響や、東日本で開催される 12 日(土)の横浜、豊田、13 日(日)の横浜（日本 対 スコットランド）の試合開催判断が及ぼす影響等についても検討
10 月 9 日(水)	大型で猛烈な台風は、非常に強い勢力を保ったまま、12 日(土)から 13 日(日)にかけて西日本から東日本に接近または上陸するおそれがあり、その後、速度を上げながら北日本に進む見込み。台風が接近する地域では、暴風や高波、大雨、高潮のおそれあり	【都】 11 日(金)から 13 日(日)までのファンゾーンの開催可否について、気象予報や交通機関の運行状況等を踏まえ、各開催日前日の 22 時までに判断し、HP、SNS で公表することをプレス発表

10月10日(木)	大型で猛烈な台風は、非常に強い勢力を維持し、<u>12日(土)から13日(日)にかけて西日本から東日本にかなり接近し、上陸するおそれ</u>。12日(土)から13日(日)にかけて西日本や東日本、北日本で猛烈な風が吹き、大雨となる見込み	【組織委員会】12:00頃、以下を発表 ・<u>12日(土)の横浜、豊田の試合を中止</u> ・13日(日)の釜石、横浜、東大阪、熊本の試合については、台風通過後の安全性を調査の上、試合開催可否を判断し、原則キックオフ6時間前までに観客に案内 【都】14:00、以下を発表 組織委員会の試合中止の発表や、交通機関が計画運休を実施する可能性があることから、 ・<u>11日(金)のファンゾーン多摩会場を中止</u> ・<u>12日(土)のファンゾーン両会場を中止</u>
10月11日(金)	大型で非常に強い台風は、非常に強い勢力を保ったまま、<u>12日(土)の夕方から夜にかけて、東海地方または関東地方に上陸し、その後、東日本から東北地方を北東に進む見込み</u>。12日(土)から13日(日)にかけて東日本を中心に、西日本から東北地方の広い範囲で猛烈な風が吹き、広い範囲で記録的な大雨となる見込みで、状況によっては、大雨特別警報を発表する可能性あり JR東日本は、台風19号の接近に伴い、<u>12日(土)から13日(日)にかけて首都圏エリアで計画運休を実施</u>すると発表。13日(日)の計画については、12日(土)10:30頃に案内	【都】 ・ファンゾーン多摩会場の中止 ・ボランティアの一部を除く活動の中止 【都】以下を発表 13日(日)のファンゾーンについて、 ・両会場とも開場時間を12時から18時に変更することを検討 ・多摩会場は調布市グリーンホールのみで開催することを検討 ・<u>13日(日)正午までに公共交通機関の運行状況や台風による被害状況等を踏まえ、判断</u>
10月12日(土)	台風は19時前に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸し、その後、<u>関東地方を通過</u>	【都】 ・ファンゾーン両会場の中止 ・ボランティアの全ての活動の中止 【組織委員会】以下を発表 13日(日)の4試合の実施可否について、13日(日)早朝に判断
10月13日(日)	台風は、未明に東北地方の東海上に抜け、12時に日本の東で温帯低気圧に変わった	【組織委員会】6:30頃、以下を発表 ・<u>13日(日)の釜石の試合を中止</u> ・横浜、東大阪、熊本の試合については、遅くともキックオフ6時間前までに可否を判断 【組織委員会】7:15頃、以下を発表 ・<u>13日(日)の東大阪の試合を開催</u> ・<u>13日(日)の熊本の試合を開催</u> ・横浜の試合については、現在行っている会場の検査が完了次第発表 【組織委員会】10:45頃、以下を発表 ・<u>13日(日)の横浜(日本 対 スコットランド)の試合を開催</u> 【都】 ファンゾーン両会場の被害状況を確認(多摩会場については、調布市グリーンホールが市民の避難所として開設されていたが、13日(日)早朝には避難所閉所)

		【都】12:00 頃 ファンゾーン両会場に大きな被害が生じていなかったことなどから、13 日(日)のファンゾーンについて、以下を発表 なお、ボランティアは一部を除く活動を中止 ・<u>両会場とも18:00に開場(パブリックビューイングは日本対スコットランドのみ)</u> ※会場の準備状況や来場者の待機状況などから、両会場とも 16:30 過ぎには開場 ・多摩会場は調布市グリーンホールのみで開催
--	--	--

6 大会期間中の職員体制

東京都運営本部においては、RWC 担当職員に加え、東京 2020 大会に運営ノウハウを継承していくため、オリンピック・パラリンピック準備局を中心に、東京 2020 大会の都市運営等に関係する各局（総務局、都市整備局、環境局、福祉保健局、病院経営本部、産業労働局、建設局、港湾局、交通局、水道局、下水道局）も含めた体制を組み、経験を共有できる体制とした。

東京スタジアムでの試合日は、試合会場やファンゾーン等に約 100 人、東京スタジアムで試合がない日のファンゾーン開催日は約 50 人体制とし、大会期間中に運営に携わった都職員は、延べ 1,362 人（うち、関係局から延べ 90 人）となった。

職員体制については、大会期間中の運営の状況に合わせ、日本代表戦や決勝トーナメントなど、来場者が集中する日のファンゾーンの運営体制を強化するなど、適宜、柔軟に見直しを行い、対応した。

また、職員の配置管理に当たっては、直前の変更にも的確かつ迅速に対応できるよう、ポスト管理や勤務シフト管理、サービス管理などのデータを一元管理することで、開催都市業務が確実に運営できる仕組みを構築した。

- RWCL は、各開催都市の試合会場を組織委員会とともに視察・調査し、各試合会場の課題などをまとめた視察報告書を作成した。
- RWCL の視察報告書を踏まえ、都は、組織委員会をはじめとする関係者と調整を重ね、試合会場における施設及び諸室の配置等について定める会場運営計画を策定した。
- 会場運営計画に基づき、大会に向け、東京スタジアムの改修や仮設、芝フィールドの整備等を行った。

1 RWCL による会場視察

試合会場のスペースの活用を検討するため、RWCL は、2016（平成 28）年 4 月、東京スタジアムを含む各開催都市の試合会場を、組織委員会とともに視察・調査した。同年 6 月には、試合会場の課題を組織委員会と開催都市が共有するための視察報告書が、RWCL から提出された。

この視察報告書では、各試合会場に共通する主な事項として、

- ・ 芝フィールドについて、国際的にはハイブリッド芝（天然芝と人工芝を組み合わせることで耐久性を向上させた芝）が耐久性等の面で好ましいと RWCL が認識しており、日本の天然芝の質について RWCL と組織委員会の主導による更なる調査が必要とされたこと
- ・ 照明について、2019 年の放送に関する要件を満たすには、照明の大幅な改良が必要であり、組織委員会は、RWC2015 での照明基準を修正すべきとされたこと
- ・ ホスピタリティ・スペースについて、多くの試合会場で不足しており、特に重要な試合を行う試合会場で大会スポンサー等へのホスピタリティを実施可能にすることが必要であること

などが挙げられた。

また、東京スタジアムに関する主な事項としては、

- ・ 上層スタンドに別途必要な数のメディア席を増設すること
- ・ 大型バス又は自動車の利用者向けに、試合会場のすぐ横に適切な乗降車場が必要なこと及び大会スポンサー等向け駐車スペースも必要なこと
- ・ 武蔵野の森総合スポーツプラザは、ホスピタリティ、国際放送センター、スタッフ用施設等に提供することが期待できること

などが挙げられた。

2 会場運営計画の策定

RWCL の視察報告書を踏まえ、都は、組織委員会をはじめとする関係者と試合会場視察や調整を重ね、試合会場のスペースの活用のあり方について、検討を進めた。

2017（平成 29）年 3 月、組織委員会と都は、試合会場における施設及び諸室の配置等について定める会場運営計画を策定した。

この計画では、RWCL による会場視察において課題とされた主な事項について、対応の方向を示した。具体的には、

- ・ メディア席について、メインスタンド上層席に仮設設置

- ・ 芝フィールドについて、組織委員会と連携し、ハイブリッド芝と天然芝との比較実験を実施
- ・ 交通輸送について、北側駐車場に観客用シャトルバス乗降場を設置
- ・ ホスピタリティ・スペースについて、メインスタンド側レセプションホールに加え、武蔵野の森総合スポーツプラザのメインアリーナ棟を利用することとした。

3 会場運営計画の更新

2018（平成 30）年 11 月には、大会開催に向けた準備の進展に伴い、会場運営計画の更新を行った。主な内容としては、

- ・ 芝フィールドについて、ハイブリッド芝と天然芝との比較実験の結果、スクラム等の負荷に対して高い耐久性を有するハイブリッド芝を採用
- ・ 競技用照明について、インゴール周辺の照度不足を補うため、スタジアムの屋根下 4 か所に照明を仮設置
- ・ 放送事業者が各競技会場から集まる試合映像等の編集作業等を行う国際放送センターについて、スタジアム北側駐車場の一部を利用
- ・ ホスピタリティ・スペースについて、武蔵野の森総合スポーツプラザのサブアリーナを新たに利用
- ・ 交通輸送について、大会ゲスト等の関係車両のための駐車スペースとして、スタジアム周辺の既存駐車場等を活用することとした。

4 大会に向けた会場整備等

（1）東京スタジアムの改修整備

東京スタジアムは、2000（平成 12）年にしゅん工し、施設の老朽化が進んでいることに加えて、東京 2020 大会の競技会場でもあることなどから、両大会を見据え、以下の改修工事を実施した。

ア Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドラインへの対応

東京 2020 大会に向けたアクセシビリティ・ガイドラインへの対応として進めていた車椅子対応トイレの増設や和式トイレの洋式化など、RWC2019 に向けて前倒しで整備を実施した。

車椅子対応トイレは、車椅子利用者の利便性向上を図るため、観客用を 15 か所から 26 か所へと 11 か所増設した。一般トイレは、和式トイレの洋式化に加え、手すりやオストメイト設備などを設置し、機能分散による車椅子対応トイレの混雑緩和を図った。

また、トイレ出入口には視覚障害者のための触知サインを設置するとともに、トイレ内部にはフラッシュライトを設置し、聴覚障害者に対して、災害発生などの異常事態を伝達できるようにした。

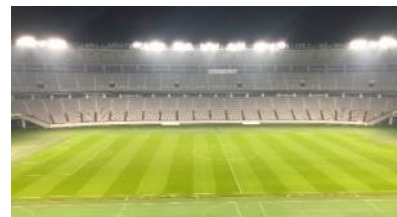


トイレの洋式化完了後の状況

イ 施設老朽化への対応

東京スタジアムは、設備の老朽化が一部進行しており、それら設備の更新を行い、万全の状態で開催を迎えられるようにした。

具体的には、競技用照明、監視カメラ設備、音響設備などの電気設備の更新のほか、特別観覧席及び既存観客席の一部更新を行った。また、競技用照明をLED照明に交換したことで、瞬時の点灯や消灯、調光が可能になったことに加えて、点灯時の消費電力の大幅な削減も可能とした。

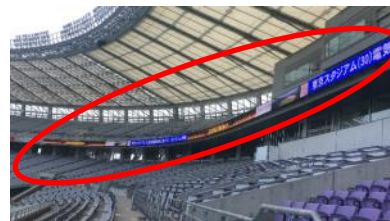


競技用照明のLED化完了後の状況

ウ 施設の機能向上

・ LED リボンビジョン等の設置

施設の機能向上を目的として、スタンドには帯状映像装置であるLEDリボンビジョン、コンコースにはデジタルサイネージを新設した。LEDリボンビジョンは高さ約1mの細長い画面であり、メイン側及びバック側の上層スタンドに合わせて約460m新設し、大型映像装置と一体となった多様な演出や情報提供を可能とした。



リボンビジョンの点灯状況

・ 高さ17mのゴールポストの設置

大会要件を満たすため、ラグビー用のゴールポストについて、高さ13mから17mへと新調した。

(2) 仮設による整備

RWC2019 固有で必要となる設備等については、会場運営計画に基づき、仮設により整備を行った。



スタンド改造後の状況

ア スタンドの改造

・ 上層スタンドへのメディア席の移設（増設）

メイン側上層スタンドの一般席（約1,400席）を撤去し、メディア席（約500席）を

移設（増設）した。設置に当たっては、一般席を撤去した階段状の部分にデスク作業等を行うための机を設置する必要があったため、綿密な計測を実施し、試作による検証を行った上で設置した。

- ・ 下層スタンドのメディア席を一般席へ改造

上層スタンドへのメディア席の移設に伴い、下層スタンドの既存メディア席（約 160 席）を撤去し、一般席（約 410 席）に改造した。避難動線などを確保した上で、最大限の席数を確保できるよう配置等を工夫するとともに、座席には上層スタンドで撤去したものを活用した。

- ・ コーチボックスの設置

既存のカメラプラットフォームに、コーチボックスを 2 か所設置した。コーチボックス 1 か所あたり、前列と後列が各 4 席の構造となっており、後列についてサイトライン（座席から競技面までの可視線）を確保するため、座席の床面を 35cm 程度嵩上げした。施設の構造上、非常に狭い空間に設置しなければならなかったが、組織委員会と協議を重ね、使い勝手の確保に努めた。

- ・ 仮設階段の設置

スタンド内に設置したコーチボックスとピッチ間を移動できるよう仮設階段を 2 か所設置した。仮設階段の取り付け部であるスタンド最前部には、観客の転落防止のため手すりが設置されており、手すりをまたぐ計画では、周囲の一般席のサイトラインへの影響が大きくなることが考えられた。そのため、手すりを一部撤去することで、階段の高さを抑えるとともに、階段形状についても組織委員会と協議を重ね、サイトラインへの影響が最小限になるよう設置した。

イ 競技用照明の仮設設置

東京スタジアムにおける大会要件の照明の照度基準は、トライなどのプレーが行われるインゴールを含めた全てのフィールド面で水平面照度が 2,500 ルクス以上であることなど、必要な照度基準が細かく定められていた。

そのため、既存照明では不足するインゴール付近の照度を確保するため、スタジアムの屋根に吊り下げる形で仮設の競技用照明を 4 か所設置した。



競技用照明（仮設）の設置状況

ウ 仮設トイレの設置

スペクテータープラザを訪れる観客向けに、投てき練習場内に仮設トイレを設置した。仮設トイレは、搬入したユニットハウス内にトイレブース及び便器を取り付け、既存の上下水道設備に接続する工法とし、スペクテータープラザの想定来場者数を基に、男性用トイレ 63 穴、女性用トイレ 44 穴、多目的トイレ 6 穴を設置した。

なお、外国人や障害者が円滑に利用できるよう、壁面にピクトグラムを装飾を施すとともに、多目的トイレについては、スロープやオストメイト設備等を備えた。



仮設トイレ設置状況



多目的トイレ利用の様子

(3) 芝フィールドの整備

2019（令和元）年8月中旬から9月上旬にかけて、スクラム等の負荷に対して高い耐久性を有するハイブリッド芝を施工するとともに、大会要件に基づき、インゴール等への芝フィールドの拡張を行った。

東京スタジアムでは、全試合会場で最多の8試合が行われたが、適切な管理の下、試合中のスクラム等でも大きな損傷が発生せず、組織委員会によるフィールド調査においても、状態が非常に良いとの高評価を受けるなど、大会期間を通じて良好な芝フィールドを提供した。



全試合終了後の芝フィールド状況

(4) その他

ア クリーンベニユー等

会場内のクリーンベニユー（大会スポンサー以外の商標等のマスキング）及び大会時に不要となる施設内の備品の搬出入を行った。



クリーンベニユー施工（一例）

イ 観客用 Wi-Fi 環境の提供

多くの外国人観戦者の来場を見込み、観客席、コンコース等において、Wi-Fi のアクセスポイントを高密度に設置（合計 446 か所）し、無料でインターネットに接続することができる Wi-Fi 環境を提供した。

- 都は、観客の誰もが安全・円滑に移動する観客輸送を実施する役割を担っている。
- 東京スタジアムは、周辺に既存の鉄道・バス等の公共交通機関が発達している。一方で、飛田給駅への試合前後の観客の集中、多数の大会関係者等車両の往来、高い外国人比率などが事前に見込まれており、それらに適切に対応することが求められた。
- 都は、組織委員会や警視庁、交通事業者、道路管理者、地元3市などとの綿密な調整の上、ラグビーテストマッチ等での調査・検討に基づき、交通輸送計画を策定し、対応を図った。
- 飛田給駅への集中については、観客に対する多様な来場ルートなどの情報発信や交通事業者による特急・準特急の臨時停車や臨時列車の増発、シャトルバスの運行などにより、観客の来場ルートの分散や入退場時間の分散を図った。
- 多数の大会関係者等車両の往来については、試合会場周辺道路の混雑緩和のため、公共交通機関利用の徹底や警視庁との協議の下、スタジアム通りの一般車両の通行を制限する交通規制を実施した。
- 多数の外国人観戦者については、適切なアクセス方法を案内・周知するため、広報は日英併記や英語版をあわせて作成する等により実施した。
- 公共交通機関で来場する車椅子利用者に対しては、「おもいやりシャトルバス」や「おもいやり送迎車両」により対応した。

1 東京スタジアムの会場周辺及びアクセス検討 PT

交通輸送において、都は、観客の誰もが安全・円滑に移動する観客輸送等を実施する役割を担っており、組織委員会は、選手・大会関係者の輸送等を担っている。

東京スタジアムは、周辺に既存の鉄道・バス等の公共交通機関が発達している。一方で、飛田給駅への試合前後の観客の集中、多数の大会関係者等車両の往来、高い外国人比率などが事前に見込まれており、それらに適切に対応することが求められた。

大会の成功に向け、東京スタジアムの会場周辺及びアクセスについて、都、組織委員会、警視庁、交通事業者、道路管理者、地元3市などで構成する「東京スタジアムの会場周辺及びアクセス検討プロジェクトチーム（PT）」を2016（平成28）年6月に設置し、課題の整理及び解決に向けた調査検討を行った。

<PTの構成>

東京都〔オリンピック・パラリンピック準備局、総務局、都市整備局、建設局、警視庁〕、国土交通省、三鷹市、府中市、調布市、
（公財）東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、RWC2019組織委員会、
（一社）東京バス協会、（株）東京スタジアム、京王電鉄（株）、西武鉄道（株）、
小田急バス（株）、京王電鉄バス（株）、中日本高速道路（株）

※ PTの下に、詳細事項を検討するため、ワーキンググループ（WG）を設置（構成団体はPTと同一）

<開催日及び主な内容>

	開催日	主な内容
第1回	2016（平成28）年 6月17日（金）	・大会概要 ・東京スタジアムの交通輸送・会場周辺土地活用に係る課題及び調査内容等
第2回	2016（平成28）年 11月21日（月）	・交通輸送調査結果（2016（平成28）年6月ラグビーテストマッチ等） ・東京スタジアム周辺における交通輸送の課題及び対策の方向性等
第3回	2017（平成29）年 3月10日（金）	・交通輸送需要推計等に基づく交通アクセスの課題及び対策の方向性 ・会場周辺の土地活用等
第4回	2017（平成29）年 6月14日（水）	・交通輸送に係る計画策定に向けたスケジュール及び2017（平成29）年度 の取組の方向性 ・2017（平成29）年6月ラグビーテストマッチにおける交通輸送対策等
第5回	2018（平成30）年 2月7日（水）	・交通輸送調査結果（2017（平成29）年6月ラグビーテストマッチ等） ・東京都交通輸送基本計画案等
第6回	2018（平成30）年 10月17日（水）	・東京都交通輸送実施計画（素案） ・2018（平成30）年11月ラグビーテストマッチにおける都の取組等
第7回	2019（平成31）年 2月18日（月）	・2018（平成30）年11月ラグビーテストマッチ報告 ・東京都交通輸送実施計画案 ・東京都セキュリティ・医療計画案等

2 東京都交通輸送基本計画

本計画は、RWC2019 開催基本契約に基づき、組織委員会が策定するガイドラインを踏まえて、開催都市が策定する交通輸送の計画であり、都は、PT における議論を経て、2018（平成30）年3月に策定した。

計画の前提として、来場者は一試合当たり約 50,000 人、関係者等の車両台数は、開幕戦で約 1,650 台、その他の試合で約 1,200～1,500 台を想定した。本計画では、この前提に基づき、鉄道、シャトルバス、歩行者誘導、自動車誘導、交通広報などの基本方針を定めている。

3 東京都交通輸送実施計画

基本計画を踏まえつつ、基本計画策定以降に組織委員会から提供されたチケットの国内外申込比率等の情報や、ラグビーテストマッチにおける調査結果等を基に PT で議論を深め、2019（平成31）年3月に策定した。

実施計画では、観客の来場ルート分散（交通分担率）や入退場時間分布を推計するとともに、試合前後の飛田給駅への観客の集中、多数の大会関係者等による車両来場、約3割と見込まれる外国人への対応などについて、取りまとめた。

また、その後、組織委員会から提供された情報に基づき、同年8月には、公共交通機関で来場する車椅子利用者への更なる対応を追記するなど、計画を更新した。

<来場者数と外国人比率（推計値）>

来場者数：50,000 人
（うち公共交通機関利用者 45,000 人）
外国人比率：約 30%



大会時の様子（メインゲート付近）

<交通分担率（推計値）>

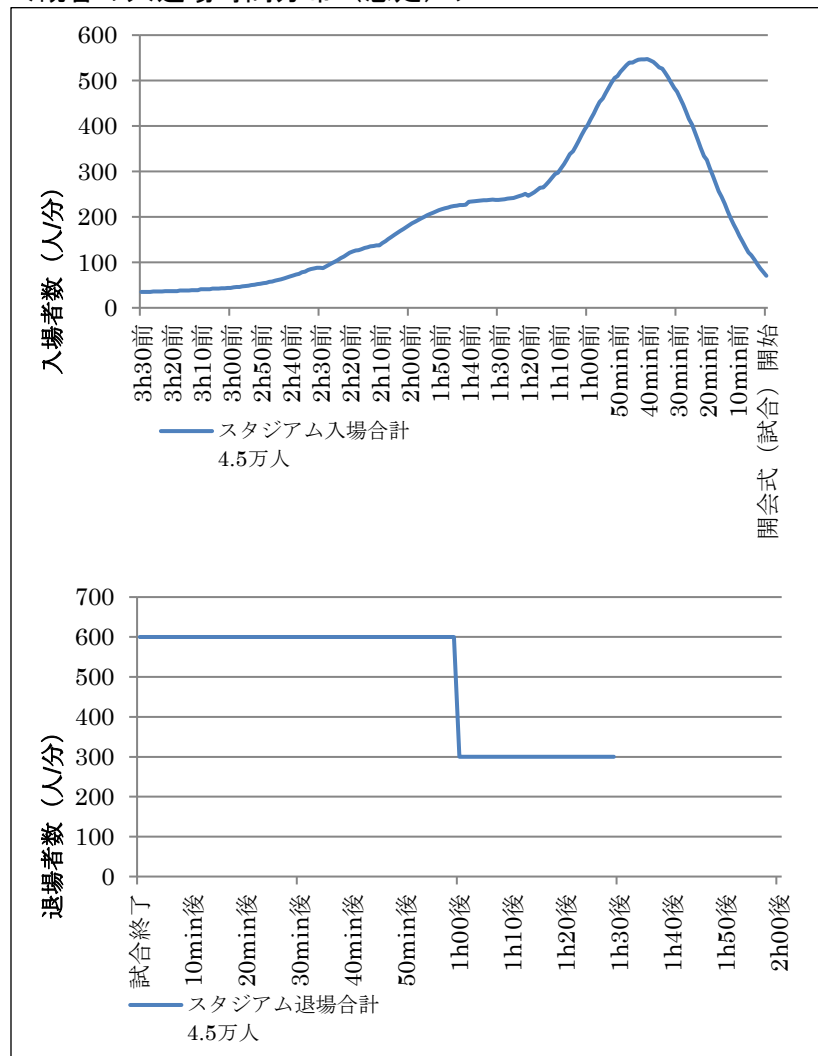
【入場時】 新宿方面と八王子方面の方面比→ 80% 20%

交通手段	起点	交通分担率		推計時の観客数（人）			
				新宿 方面から	八王子 方面から	計	
鉄道	飛田給駅	86.7%	90.4%	31,200	7,800	39,000	41,700
	西調布駅	1.5%		600	100	700	
	多磨駅	2.2%		1,000		1,000	
二輪車・自転車		2.2%	2.2%	1,000			1,000
タクシー		0.2%	0.2%	100			100
シャトルバス	調布駅	1.8%	6.3%	800			2,800
	多磨駅	0.7%		300			
	武蔵境駅	2.7%		1,200			
	狛江駅	1.1%		500			
その他		0.9%	0.9%	400			400
合計			100.0%	45,000		45,000	

【退場時】 新宿方面と八王子方面の方面比→ 80% 20%

交通手段	終点	交通分担率		推計時の観客数（人）			
				新宿 方面へ	八王子 方面へ	計	
鉄道	飛田給駅	69.8%	84.0%	25,100	6,300	31,400	37,800
	西調布駅	8.4%		3,100	700	3,800	
	多磨駅	5.8%		2,600		2,600	
二輪車・自転車		2.2%	2.2%	1,000			1,000
タクシー		0.7%	0.7%	300			300
シャトルバス	調布駅	4.6%	12.2%	2,100			5,500
	多磨駅	0.7%		300			
	武蔵境駅	3.8%		1,700			
	武蔵小金井駅	1.3%		600			
	狛江駅	1.8%		800			
その他		0.9%	0.9%	400			400
合計			100.0%	45,000		45,000	

<観客の入退場時間分布（想定）>



4 観客向け広報

試合前後の飛田給駅への観客の集中を緩和するため、早期来場の促進やシャトルバス利用等の積極的な案内による観客の来場ルートの分散等を図り、試合会場に円滑にアクセスできるよう、観客向け広報を行った。

具体的には、組織委員会のチケットホルダー向けメールマガジンへの情報の掲載や、HPやSNSによる情報発信を行った。また、主要交通アクセス拠点（東京駅、品川駅、新宿駅等）や最寄駅（飛田給駅、多磨駅、西調布駅）の案内ブース等において、試合会場へのアクセス方法を周知するパンフレットを配布した。さらに、周辺道路の混雑も予想されたため、公共交通機関による来場を強く呼び掛けた。加えて、スタジアム来場の際に、退場時のシャトルバス利用等の案内チラシを配布した。



組織委員会の HP（日本語、英語）

なお、多数の外国人観戦者の来場が見込まれたため、広報媒体・広報物を日本語及び英語で作成した。



アクセス情報パンフレット
(日本語版／英語版)



シャトルバス周知チラシ (日英両面)

5 一般向け広報

道路や公共交通機関の一般利用者に対して、周辺道路の混雑を緩和するため、交通規制やう回路を案内するとともに、既存の駐車場利用に制約が生じることなど、大会による周辺道路や鉄道等への影響の事前周知を行った。

具体的には、HP や SNS、広報紙による情報発信や、チラシの配布、横断幕・道路交通情報板の掲出、ラジオスポット広告、ポスター掲載等を行った。また、観客の集中が想定される京王線の各駅や車内においては、混乱を回避するため混雑の注意喚起を主としたアナウンスを行った。



広報東京都による交通規制・混雑周知



HP による交通規制・混雑周知



チラシによる交通規制・混雑周知（表／裏）

チラシによる駐車場利用制約周知（表／裏）



横断幕による道路混雑注意喚起



ポスターによる鉄道混雑注意喚起（駅貼り／中吊り）

6 鉄道の運行

試合会場の最寄駅として、飛田給駅、多磨駅、西調布駅を設定し、交通事業者とともに各種対応を実施した。

飛田給駅では、多数の観客が利用し、混雑することが見込まれたため、大会前に、京王電鉄（株）が、飛田給駅の上り線におけるホームドア設置及び構内エレベーター増設等の整備を行った。

また、京王線においては、通常は各駅停車しか停車しない飛田給駅への特急・準特急の臨時停車及び飛田給駅発の臨時列車の増発を実施した。試合前は、試合（開幕戦は開会式）開始約4時間半前から試合開始頃まで、試合終了後は、試合終了から3時間程度、臨時停車を実施した。

観客の退場状況について、都、京王電鉄（株）、組織委員会の3者で情報を共有したことにより、状況に応じた対応が可能となり、予定よりも多く、臨時停車や臨時列車の増発を実施することができた。

また、都は、京王線の臨時ダイヤについて、主要な路線検索サイトに掲載されるよう調整し、試合当日、観客を的確に乗換案内できるように取り組んだ。

なお、西武多摩川線においても、試合終了が遅い時間となる日（9月20日（金）、10月19日（土）及び20日（日））について、臨時列車の増発を実施した。

鉄道輸送の遅延や運休は、観客輸送に大きな影響が生じることから、試合日には、京王電鉄（株）、西武鉄道（株）など試合会場周辺の鉄道事業者に加え、東日本旅客鉄道（株）及び小田急電鉄（株）に対しても、定時及び随時の連絡を行い、最新の観客動向及び電車運行情報を共有した。

特に、京王電鉄（株）では、試合日に駅をはじめとした鉄道施設で警備など増員を行い、異常時へ備えることで、8試合全てにおいて、大幅な遅延や事故は発生しなかった。また、人身事故等が発生した場合の早期運転再開に向け、警視庁との連携を強化した。

試合会場の最寄駅周辺では、鉄道事業者が中心となって観客の誘導や乗車券の案内等を行うとともに、都の警備員・警備スタッフや外国人補助員・障害者補助員及びボランティアが補助した。試合終了後の飛田給駅では、観客が集中した場合には、乗客の安全に配慮し、京王電鉄（株）の判断により、状況に応じて駅階段下における観客流入の制御が行われた。



退場時の飛田給駅での誘導



飛田給駅ホームドア

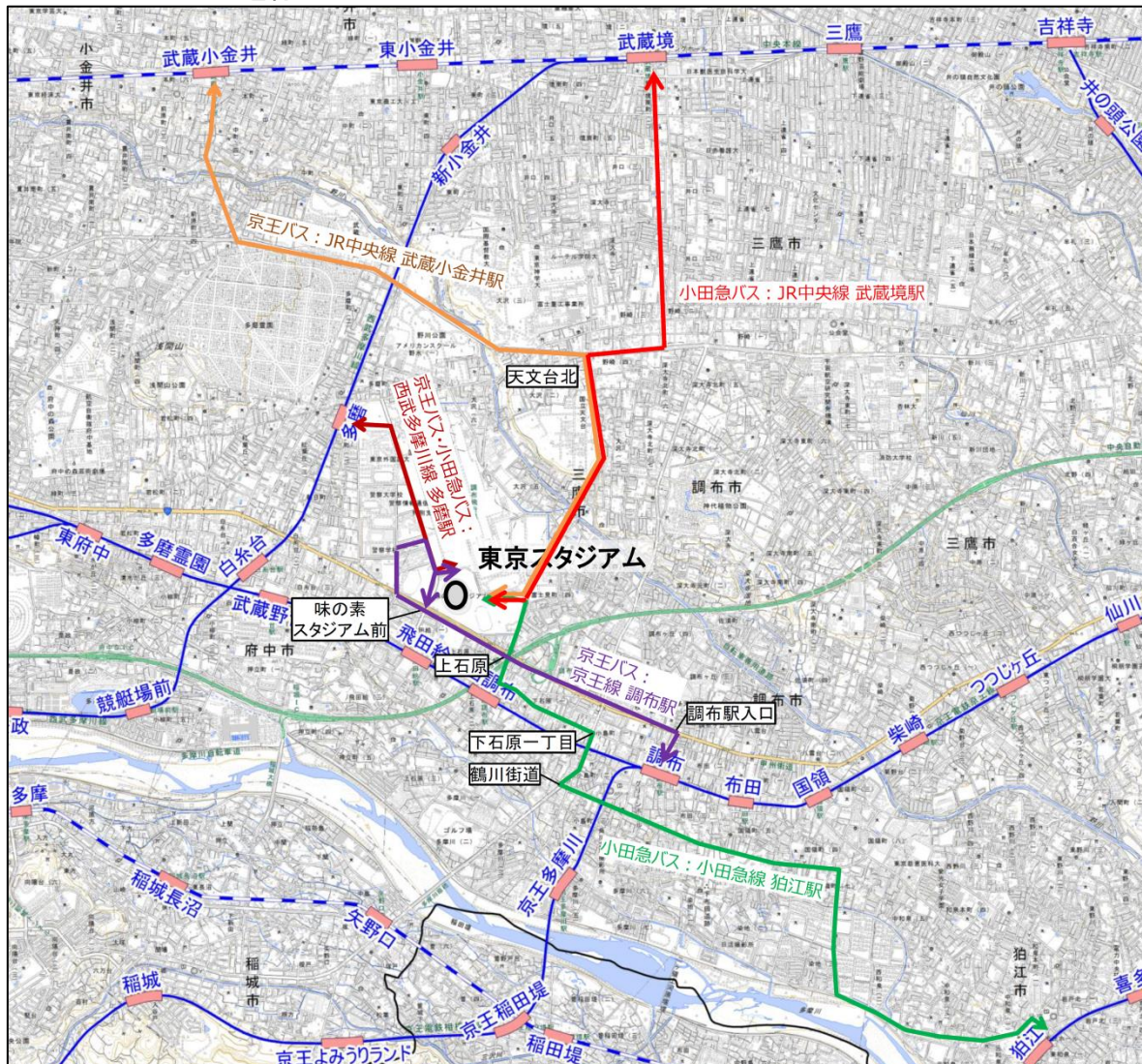
7 シャトルバスの運行

各鉄道路線から試合会場へのアクセスを容易にし、試合前後の飛田給駅の混雑を緩和するため、大会時のシャトルバスを運行した。運行に当たっては、東京スタジアムにおけるJリーグ等開催時の観客の輸送実績を踏まえ、会場周辺において路線バスを運行している小田急バス（株）及び京王電鉄バス（株）が運行主体となり、実施した。

大会時においても通常の路線バスの運行を維持しつつ、より多くの観客を効率的に輸送できるよう、発着駅については、ラグビーテストマッチ等での運行実績を踏まえ、調布駅、多磨駅、武蔵境駅、狛江駅及び武蔵小金井駅（復路のみ）の5駅とした。

なお、運賃については、各バス事業者において、既存の路線バスと同額としている。

＜シャトルバスの運行ルート＞



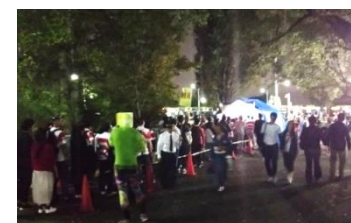
運行実績としては、試合前は、試合（開幕戦は開会式）開始約3時間前から試合（開会式）開始頃まで、60～70便程度運行し、試合終了後は、試合終了から40分～1時間程度、70～100便程度運行した。また、利用者は、往路で2,000～3,000人程度で観客数の5～7%程度、復路で4,000～5,000人程度で観客数の9～11%程度となり、概ね、計画どおりの利用となった。

シャトルバス乗降場周辺の運営は、バス事業者が車両の誘導、待機列整理、応援車両の要請等を行い、都の警備員等や外国人補助員・障害者補助員及びボランティアは、待機列整理を補助した。

特に、試合終了後は、スタジアム北側広場のバス乗車場に多数の観客が集中することから、都、バス事業者、組織委員会が連携して円滑な案内・誘導を行った。



スタジアム北側広場での誘導
(小田急バス)



スタジアム北側広場での誘導
(京王電鉄バス)

また、シャトルバスの利用を促進するため、試合終了後、試合会場内の大型ビジョンにより案内を実施した。

＜各試合のシャトルバス利用者数（概数）＞

日付		入場時	退場時
9月20日（金） （入場者数 45,745人）	便数（便）	59	85
	利用者数（人）	2,200	4,600
9月21日（土） （入場者数 44,004人）	便数（便）	63	74
	利用者数（人）	2,800	4,000
9月29日（日） （入場者数 47,885人）	便数（便）	69	90
	利用者数（人）	2,900	4,300
10月5日（土） （入場者数 48,185人）	便数（便）	66	91
	利用者数（人）	2,900	4,300
10月6日（日） （入場者数 48,354人）	便数（便）	68	90
	利用者数（人）	3,200	4,700
10月19日（土） （入場者数 48,656人）	便数（便）	66	101
	利用者数（人）	2,700	4,900
10月20日（日） （入場者数 48,831人）	便数（便）	65	104
	利用者数（人）	2,700	5,300
11月1日（金） （入場者数 48,842人）	便数（便）	64	96
	利用者数（人）	2,700	5,100



試合会場内のビジョンによる案内

8 おもてなしイベント

来場者の入退場時間の分散を図るため、組織委員会が飲食ブースやスポンサーブースを展開するスペクテータープラザにおいて、試合開始前から試合終了後までの間、「おもてなしイベント」として、日本刀実演や箸体験等の和体験を提供するとともに、都内観光案内等を実施した（詳細は第6章第1部を参照）。

9 大会時の観客流動

観客数が最も多く、東京会場での最終戦であった2019（令和元）年11月1日（金）の3位決定戦を主なサンプルとして、観客の交通分担率及び入退場時間分布等を調査した。

交通分担率については、次のとおりとなった。

- ・ 鉄道利用は、計画よりも飛田給駅の利用率が高く、多磨駅の利用が少なかった。
- ・ シャトルバスの利用は、おおむね計画どおりであったが、武蔵境駅行きの利用者が計画より多く、ルート分散に一定の成果を上げている。
- ・ 二輪車・自転車利用は、海外や遠方からの観客が過去イベントより多かったことから、計画より少なかった。

次に、入退場時間分布については、計画では、試合前後 1 時間以内に観客の入退場が集中することが想定されていたが、早期来場の呼び掛けやスペクテータープラザへの集客効果等もあり、前後の時間帯への分散がなされ、混雑の緩和が図られた。

これらの結果から、観客の入退場については、全体として混乱なく行われた。

<11 月 1 日（金）の観客の交通分担率（推計）>

【入場時：39,600 人（推計）】

交通手段	起点	交通分担率			
		計画		調査結果（推計）	
鉄道	飛田給駅	86.7%	90.4%	88.9%	91.9%
	西調布駅	1.5%		2.5%	
	多磨駅	2.2%		0.5%	
二輪車・自転車		2.2%	2.2%	1.3%	1.3%
タクシー		0.2%	0.2%	0.0%	0.0%
シャトルバス	調布駅	1.8%	6.3%	2.0%	6.8%
	多磨駅	0.7%		0.8%	
	武蔵境駅	2.7%		3.0%	
	狛江駅	1.1%		1.0%	

【退場時：41,700 人（推計）】

交通手段	起点	交通分担率			
		計画		調査結果（推計）	
鉄道	飛田給駅	69.8%	84.0%	78.4%	86.1%
	西調布駅	8.4%		6.0%	
	多磨駅	5.8%		1.7%	
二輪車・自転車		2.2%	2.2%	1.2%	1.2%
タクシー		0.7%	0.7%	0.5%	0.5%
シャトルバス	調布駅	4.6%	12.2%	3.4%	12.2%
	多磨駅	0.7%		0.7%	
	武蔵境駅	3.8%		5.0%	
	武蔵小金井駅	1.3%		1.4%	
	狛江駅	1.8%		1.7%	

※計画値については、その他の方法による来場も見込んでいるため、合計は 100%にならない。

※調査日時

入場時 11 月 1 日（金） 14 時～19 時

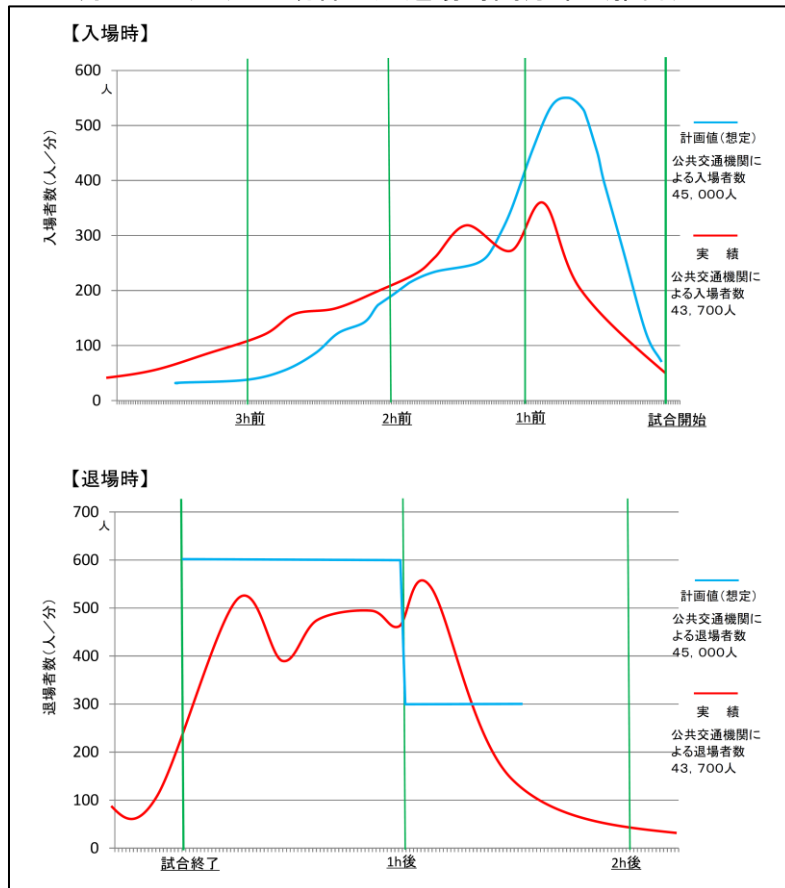
退場時 11 月 1 日（金） 19 時半～22 時

※調査結果については、調査で推計できた観客について率を算出した。

公共交通機関を利用した観客 43,700 人（推計）

うち「調査結果（推計）」に含まれない観客（入場時）4,100 人（推計）
 （退場時）2,000 人（推計）
 【要因】 調査時間外の入退場、調布駅からの徒歩による入退場等

<11月1日（金）の観客の入退場時間分布（推計）>



10 交通規制

試合日には多数の関係者等車両が往来し、試合会場周辺道路の混雑が予想されたため、組織委員会が特別に許可する者（車椅子利用者等）以外は、公共交通機関の利用を徹底するとともに、警視庁との協議の下、スタジアム通りへの一般車両の通行を制限する交通規制を実施した。

規制時間は、計画では、試合（開幕戦は開会式）開始4時間前から試合終了3時間後までとしていたが、道路の混雑状況を踏まえ、実際の規制終了時間は、試合終了1時間～1時間30分後であった。

規制の実施に当たっては、通行証を所持する車両のみ通行可能と

<スタジアム周辺における交通規制図>



なることから、HP や SNS、広報紙、チラシ配布等により周辺道路利用者等に事前に広報するとともに、周辺道路上に事前告知の看板や横断幕、道路交通情報板を掲出し、広く事前告知を図った。

また、交通規制は、周辺住民や事業者に対して、多大な影響が及ぶことから、地元 3 市と調整の上、周辺自治会への説明及び規制エリア内の施設への個別説明を行った。特に規制エリア内の施設に対しては、「地域住民および事業者様向け通行許可証」を事前に交付し、規制時間内でも円滑に通行できるようにすることで、通常の活動を阻害しないよう対応した。

大会当日は、警視庁と連携し、警備員による通行証の確認や適切な車両誘導を行った。

こうした事前及び大会当日の対応により、交通規制に伴う試合会場周辺道路への混乱は生じなかった。



事前告知看板及び迂回路案内看板



事前告知横断幕

11 多言語対応

チケット販売動向から、事前に観客の約 3 割が外国人と見込まれていたことから、適切な試合会場へのアクセス方法を案内、周知するため、広報は、日英併記や英語版をあわせて作成する等により実施した。

また、組織委員会が策定した誘導サインガイドラインに従い、最寄駅（飛田給駅、多磨駅、西調布駅）から試合会場までの動線（ラストマイル）上には、日・英・ピクトグラムで表記した大会仕様の案内サインを配置した。さらに、交通事業者の協力の下、駅やシャトルバス乗降場で、運行内容や料金を明示するサインを掲出するとともに、駅や車内での英語によるアナウンスを実施した。

その他、外国人補助員や外国語対応可能なボランティアを、駅やシャトルバス乗降場周辺に配置し、外国人観戦者の案内・誘導をサポートした。



外国人補助員による案内



メインゲート付近の様子



観客動線上のサイン



駅及びシャトルバス乗降場のサイン

また、外国人観戦者が円滑に交通機関を利用できるよう、SNS 等の各種広報において、IC 乗車券の利用の呼び掛けも英語で行った。

12 障害者対応

組織委員会からチケット販売状況に基づき提供された情報により、多くの車椅子利用者が公共交通機関で来場することが想定されたため、車椅子利用者に対する輸送手段を強化した。

飛田給駅から来場する車椅子利用者用に、飛田給駅南口とスタジアム西門付近の間を、車椅子で乗車可能なリフト付きマイクロバスで往復輸送する「おもいやりシャトルバス」を事前予約制（無料）により実施した。

試合前は、試合（開幕戦は開会式）開始 3 時間 30 分から 1 時間 30 分前頃まで、試合終了後は、試合終了から 1 時間 30 分後頃まで運行し、8 試合で延べ 104 人（予約延べ 153 人）が利用した。

また、退場時の混雑を回避できるよう、タクシー事業者の協力の下、車椅子利用者が乗車可能な車両をスタジアム西門付近に待機させ、利用者の指定先へ輸送する「おもいやり送迎車両」を事前予約制（有料）により実施し、8 試合で延べ 11 人（予約延べ 23 人）が利用した。

なお、海外からの利用者を中心に、申込後の当日キャンセルが一部発生した。



おもいやりシャトルバスの
利用状況



おもいやり送迎車両の利用状況

＜おもいやりシャトルバス及びおもいやり送迎車両の利用実績（車椅子利用者）＞（単位：人）

		9月20日 （金）	9月21日 （土）	9月29日 （日）	10月5日 （土）	10月6日 （日）	10月19日 （土）	10月20日 （日）	11月1日 （金）
おもいやり シャトルバス	往	11（17）	4（5）	7（9）	8（9）	9（12）	6（12）	4（9）	4（4）
	復	9（17）	5（5）	9（9）	7（9）	6（11）	6（12）	5（9）	4（4）
おもいやり 送迎車両	復	3（6）	1（4）	1（2）	1（3）	2（3）	0（2）	0（0）	3（3）

（ ）は予約人数

多磨駅については、西武鉄道（株）及び府中市の協力の下、駅構内とロータリーをバリアフリールートとして結ぶ臨時的な通路を設置することにより、車椅子利用者等が円滑に移動できる動線を確保し、8 試合で延べ 5 人が利用した。

その他、最寄駅及びシャトルバス乗降場周辺には障害者補助員を配置し、障害者の交通機関への乗降のサポートや動線案内を行った。



多磨駅臨時通路の利用状況

第4部 試合会場周辺、ラストマイル等の安全・安心の確保

- 都は、試合会場周辺やラストマイル等の安全・安心を確保するため、組織委員会、警視庁、東京消防庁、地元自治体等関係機関との協議を重ね、警備計画を策定した。
- 警備員の配置等による安全かつ円滑な観客誘導やウェアラブルカメラ等の配備による現地状況の的確な把握など、自主警備を行った。
- 武蔵野の森総合スポーツプラザ内に救護スペースを設置し、傷病者への対応を行った。
- 組織委員会と連携し、アンブッシュ・マーケティング防止等に対応した。
- その他、受動喫煙の防止の取組、仮設トイレの設置、清掃などを実施し、試合会場周辺やラストマイル等の安全・安心の確保に努めた。

1 警備計画の策定

大会時のセキュリティ・医療対策については、組織委員会が試合会場内を、都が試合会場周辺及びラストマイル等をそれぞれ役割分担し、両者が連携・協力して取り組んだ。

都は、試合会場周辺やラストマイル等の安全・安心を確保するため、ラグビーテストマッチを含む大規模スポーツイベントの検証や実地調査を行うとともに、組織委員会、警視庁、東京消防庁、地元自治体等関係機関との協議を重ね、自主警備、医療救護及び危機管理を主な内容とする警備計画を策定した。

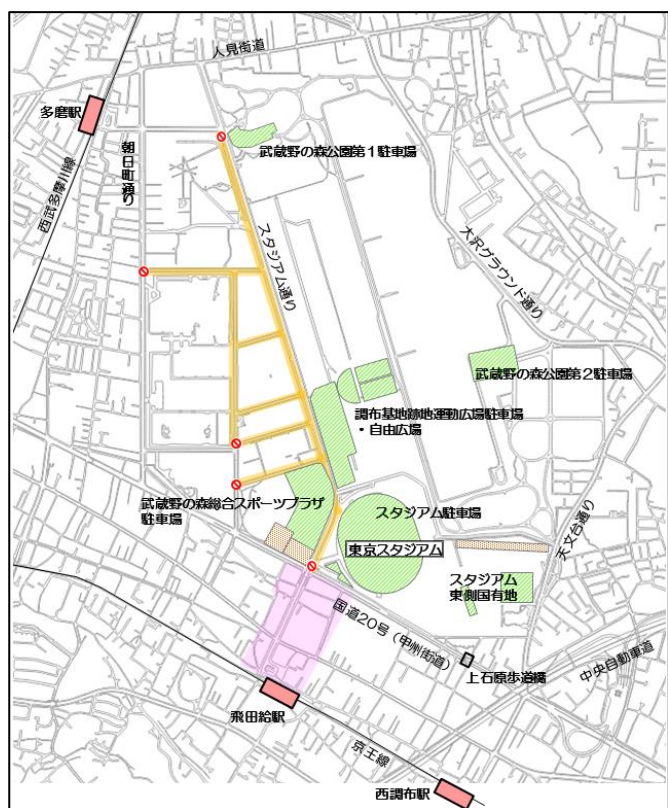
2 自主警備

(1) 安全かつ円滑な誘導の実施

地点ごとの混雑の見込みや当日の状況を踏まえ、警備員等を効果的に配置するとともに、混雑箇所や分岐点等では、外国語翻訳機能が搭載されたトランジスタメガホンや日英併記の案内サインを活用することなどにより、外国人観戦者を含めた観客の安全かつ円滑な移動を確保した。

また、入退場時において、飛田給駅前ロータリーやスタジアム通りの脇道等に長時間滞留し、飲酒する外国人観戦者等がおり、一部、私有地内への進入、路上喫煙、ゴミの放置等も見られたため、警備員等による巡回を強化したほか、警視庁現地警備本部と協議の上、一時的なロードコーンの設

＜試合会場周辺図＞



トランジスタメガホンを使用する警備員
(ペDESTリアンデッキ)

置、警備員の追加配置による脇道への進入抑制を実施した。



日英併記の案内サインを持つ警備スタッフ
(東京スタジアム西門付近)



ロードコーンによる進入抑制
(スタジアム付近スポーツショップ前)

(2) 現地情報の的確な把握

主要箇所配置している警備員や突発対応を行う警備員にウェアラブルカメラを配備するなど、混雑エリアの滞留状況や事案発生時の現地状況をリアルタイムで的確に把握できるようにした。ウェアラブルカメラの映像を東京都運営本部内のモニターで確認し、運営本部から現場警備員に個別具体的な指示や、警備員の追加配置等の判断を迅速に行うことで、各現場で発生した様々な事案への確実な対応と警備員等の効果的な配置を行った。



ウェアラブルカメラを装着した警備員



東京都運営本部モニター

(3) 警備資機材の効果的な活用

警備員等による案内誘導に加え、パイプ柵やロードコーン、コーンバー等を活用し、観客の乱横断防止、迷惑駐車防止、動線分離の徹底を図った。

スタジアム南側の甲州街道については、スタジアム前交差点付近から上石原歩道橋の区間の北側歩道上にパイプ柵等を設置した(総設置距離約 500m)ほか、警備員等を配置し、観客の乱横断を抑制するとともに、タクシー、自家用車による送迎に伴う路上での乗降(一時停車)を制限することで、事故・渋滞の防止に努めた。

また、スタジアム前交差点の西側においても、甲州街道を横断する観客が見られたため、警視庁と連携の下、パイプ柵の再配置等により適切に対応した。



歩道に設置したパイプ柵
(甲州街道)



パイプ柵設置箇所

主要な観客動線となる飛田給駅前ロータリーからスタジアム前歩道橋までの通りについては、迷惑駐車防止のため、車道側にロードコーンを設置し、車の滞留抑制を図った。

また、反対動線や生活動線を確保するため、歩道上に、ロードコーン及びコーンバーを設置し、動線の錯綜の回避に努めた。



ロードコーン設置状況（飛田給駅付近）

（４）警視庁との連携

開催都市連携会議や警備会議等の各会議での調整と平行して、警備計画策定段階から、警備員の配置位置や警備資機材の設置をはじめとする自主警備の体制について、警視庁と打合せを重ね、助言・支援を受けるとともに、交通規制や大会時の連携方法等について協議を行った。

試合日には、スタジアム内の警視庁現地警備本部と緊密に連携し、観客の入退場状況を踏まえ、案内誘導の人員配置、現場広報を協力して迅速に実施するなど、事故を未然に防止した。

また、大会直前期から大会開催期間を通じて、各試合日の個別地点ごとの滞留状況や課題を共有し、誘導方法、連携体制の具体的な運用の改善に努めた。

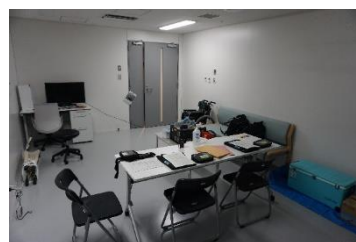
3 医療救護

試合会場周辺での傷病者の発生に備え、試合会場及びラストマイルに近接する武蔵野の森総合スポーツプラザ内に救護スペースを設置し、スタジアムの開場１時間前から閉場後まで、病院経営本部の協力を得て、都立病院の医師、看護師を配置した。

医師等による経過観察、医療機関への移送の判断、応急手当等の実施、安静にできる場所の提供を行い、傷病者の救護を迅速・的確に行うとともに、軽症者の安易な救急受診や救急搬送を回避することで、医療機関、救急搬送体制への負荷軽減を図った。

なお、救急搬送に当たっては、119 番通報に加え、スタジアム内の東京消防庁現地警戒本部と直接、情報共有を行うことにより、迅速な搬送に努めた。

また、体調回復のための椅子、飲料水等を提供する一時休憩所を、飛田給駅をはじめとした試合会場の最寄駅周辺に設置した。



救護スペースの設置状況



救護対応の様子
（飛田給駅付近飲食店前）

<救護対応実績>

救護対応件数	15 件
救急搬送件数	5 件
一時休憩所利用件数	0 件

4 危機管理

警備計画では、試合会場及びラストマイルにおいて、自然災害やテロ行為などの危機が発生した場合に警備員がとるべき対応について定めた。具体的には、巡回による警戒、車両突入防止資機材の設置等によるテロの防止、会場が被災した場合における施設北側の広域避難場所等への円滑な誘導、電車遅延等の発生時における迅速な情報収集、発信による混乱の抑制などについて対応方法を取りまとめ、有事に備えた準備を行った。

5 アンブッシュ・マーケティングの防止

組織委員会と連携し、ダフ屋行為、無許可の販売行為、無許可の広告の掲示等を把握するため、試合日等に会場周辺の巡回を実施した。販売行為等が観客動線を阻害している場合の自粛要請、法令に反した広告に対する地元自治体への迅速な連絡などにより、アンブッシュ・マーケティングを防止又は中止させる組織委員会の活動に積極的に協力した。

6 その他個別事象への対応

(1) 受動喫煙防止の取組

調布市では、2019（令和元）年7月に「調布市受動喫煙防止条例」が施行され、駅周辺は「路上等喫煙禁止区域」に指定された。

都は、市及び駅周辺店舗の協力も得て、禁止区域に関するポスターやピクトグラムの貼付による周知を行った。また、警備員等が巡回し、喫煙禁止区域内での喫煙を行わないよう呼び掛けを行うとともに、路上喫煙を行っている観客に対しては、試合会場内に設置してある喫煙スペースを案内した。

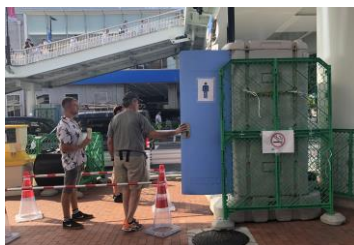


禁止区域に関するポスター
（飛田給駅前）

(2) 仮設トイレ等の設置及び周知

RWC では、観客によるビールの消費量が多いと言われていることから、通常の東京スタジアムでのイベント以上にトイレの需要を見込み、飛田給駅及び多磨駅からのラストマイル上に仮設トイレを12基設置した。

歩行者動線やペデストリアンデッキに日英併記の仮設トイレの案内サインを設置するとともに、飛田給駅前や近隣の西町公園等の既存の公衆トイレの周知に努めた。



仮設トイレの利用状況



ペデストリアンデッキの下にある
仮設トイレの場所を示すサイン

(3) 清掃

施設管理者や地元自治体等と調整し、最寄駅である飛田給駅、多磨駅、西調布駅から会場までの歩行者動線を中心に、ラストマイルの清掃を行った。

入退場時に路上で飲食し、滞留する観客が多く、特に試合開始前におけるビン・缶の路上投棄が目立ったことから、当初予定していた試合終了後の清掃に加え、2試合目以降は試合開始前及び試合中にも清掃を行った。また、試合日の翌朝についても、歩行者動線の清掃実施状況を点検し、ごみの回収を行うなど、良好な環境の維持に努めた。

また、環境との共生に配慮した大会の実現に向けた取組として、シャトルバス乗降場周辺でのごみ回収において、ごみの分別促進のためのスタッフを配置した。



ラストマイル清掃の様子
(飛田給駅周辺)



ごみ分別促進スタッフの活動 (シャトルバス乗降場付近)



(4) 託児サービス、授乳・おむつ交換スペースの設置

武蔵野の森総合スポーツプラザ内に観客向けの託児所（事前予約制）及び授乳・おむつ交換スペースを設置した。

＜利用者数＞

日付	託児サービス	授乳・おむつ交換スペース
9月20日(金)	14	6
9月21日(土)	7	13
9月29日(日)	8	11
10月5日(土)	4	6
10月6日(日)	12	21
10月19日(土)	6	3
10月20日(日)	9	4
11月1日(金)	6	3
合 計	66	67



託児サービスの様子

7 持込禁止物の周知

飲食物や長傘など試合会場への持込禁止物を周知するため、「広報東京都」に掲載するとともに、試合会場の最寄駅周辺に立て看板を設置した。大会開始後（9月23日（月・祝））、組織委員会により、食品について持込禁止物の規制緩和がされたが、看板を修正するなど速やかに対応し、大きな混乱は生じなかった。



飛田給駅前に設置した看板

- 大会期間中に出場チームが練習及び調整を行うために滞在する公認チームキャンプ地に、都内では、立候補した3市（武蔵野市、府中市、町田市）に加え、組織委員会が独自に追加確保した3か所（東京都A、B、C）が決定した。
- 各出場チームが今大会で最初に滞在する公認チームキャンプ地では、代表チームを招待し、チームウェルカムセレモニーが行われた。都内では、日本代表とニュージーランド代表のセレモニーが行われた。
- 大会期間中、各公認チームキャンプ地では、滞在チームと地域住民が交流する機会が設けられた。

1 公認チームキャンプ地の誘致

大会期間中に出場チームが練習及び調整を行うために滞在する公認チームキャンプ地は、組織委員会が選定プロセスの一元管理を行い、2016（平成28）年8月から12月まで、国内の自治体からの応募を受け付けた。

都は、都内区市町村に対して適宜適切に情報提供するなど、きめ細かく対応し、都内からは、武蔵野市、府中市、町田市が立候補した。

公認チームキャンプ地自治体は、提供する施設について、RWCLや組織委員会が定める水準を確保する必要があることから、立候補した3市は必要な施設整備を実施した。なお、都は各区市町村による誘致の促進を目的に、補助金による支援を実施した。

<都内公認チームキャンプ地自治体による主な施設整備>

区市町村名	整備内容
武蔵野市	諸室改修、ラグビーゴール基礎設置、芝生改良
府中市	芝生改良、フェンス設置、夜間照明設置
町田市	ラグビーゴール基礎設置

2 公認チームキャンプ地の決定等

2019（平成31）年3月、組織委員会が全国で55件61自治体の公認チームキャンプ地を決定し、公表した。

都内では、立候補した3市に加え、組織委員会が独自に試合会場周辺で追加確保した3か所（東京都A、B、C）が決定し、大会期間中は、次表のとおり出場チームが滞在した。

※セキュリティの関係から、大会終了まで各施設名は公表されず、自治体名のみ公表された。

＜都内の公認チームキャンプ地＞

		立候補した自治体			組織委員会が追加確保したキャンプ地		
		武蔵野市	府中市	町田市	東京都 A	東京都 B	東京都 C
トレーニング施設	グラウンド	武蔵野陸上競技場	府中朝日フットボールパーク	キャノンスポーツパーク	アークス浦安パーク	秩父宮ラグビー場	辰巳の森海浜公園ラグビー練習場
	屋内練習場	武蔵野総合体育館	府中市生涯学習センター体育室	サン町田旭体育館	キャノン下丸子体育館	秩父宮ラグビー場（仮設）	港区スポーツセンター
	ジム	武蔵野総合体育館	府中朝日フットボールパーク	キャノンスポーツパーク	AP 品川アネックス	秩父宮ラグビー場	辰巳の森海浜公園ラグビー練習場（仮設）
	プール	武蔵野温水プール	府中市生涯学習センタープール	町田市立鶴川中学校	品川プリンスホテル/グランドプリンスホテル新高輪	上智大学プール/ホテルニューオータニ	港区スポーツセンター/コンラッド東京
宿泊施設		ヒルトン東京	京王プラザホテル	京王プラザホテル多摩	ザ・プリンスさくらタワー東京	ホテルニューオータニ	コンラッド東京
滞在チーム		ロシア (9/17-9/22)	フランス (9/18-9/23) イングランド (9/29-10/9) ①10/29-11/1 南アフリカ (①10/14-10/26)	ナミビア (9/29-10/6)	スコットランド (9/17-9/23)	日本 (9/16-9/22) ①10/6-10/21) ウェールズ (9/24-9/30) ①10/21-11/2) アルゼンチン (9/30-10/6)	ニュージーランド (9/14-9/24) ①10/11-11/2) 日本 (9/29-10/3) オーストラリア (10/6-10/9)

①：決勝トーナメント

なお、東京都 C として内定した辰巳の森海浜公園ラグビー練習場は、都が所管する施設であり、港湾局の協力の下、RWC2019 の公認チームキャンプ地としてふさわしい水準を確保することを目的に、芝生の張替えなどグラウンド整備を行った。

また、公認チームキャンプ地においては、滞在するチームを支援する「公認チームキャンプ地コーディネーター」を選任し、トレーニング施設の使用等について支援することとなっている。都は、(公財) 東京都スポーツ文化事業団の協力の下、東京都 C のコーディネーターを選任し、トレーニング施設の使用に伴う施設との連絡調整や練習時の立会いなど、チームに良好な練習環境等を提供した。



練習風景



辰巳の森海浜公園ラグビー練習場

3 チームウェルカムセレモニー

RWC2019 出場チームを招待し、日々の努力や出場の栄誉を称え、大会での活躍を祈念するチームウェルカムセレモニーが、組織委員会の主催、各公認チームキャンプ地自治体の運営協力の下、開催された。

セレモニーは、各出場チームが国内で最初に滞在する公認チームキャンプ地自治体で実施することとなっており、都内では、日本代表とニュージーランド代表のセレモニーが行われた。参加メダルやキャップの贈呈、だるま目入れ式等を行い、各チームとキャンプ地を結ぶ機会となった。

- ・ 日本代表
日程：2019（令和元）年 9 月 13 日（金）
場所：都庁第一本庁舎南展望室



日本代表

- ・ ニュージーランド代表
日程：2019（令和元）年 9 月 14 日（土）
場所：増上寺（港区）



ニュージーランド代表

4 地域交流イベント

大会期間中、各公認チームキャンプ地では、滞在チームと地域住民が交流する機会が設けられた。

- ・ 東京都
日 程：2019（令和元）年 9 月 21 日（土）
場 所：秩父宮ラグビー場（港区）
協 力：港区、江東区
参加者：日本代表選手、港区・江東区内小中学生 100 人
内 容：公開練習の見学、質問コーナー、写真撮影等



サインに応じる日本代表選手

- ・ 武蔵野市
日 程：2019（令和元）年 9 月 22 日（日）
場 所：武蔵野陸上競技場
参加者：ロシア代表選手、ラグビースクール児童約 60 人
内 容：公開練習の見学、ヘッドコーチからのレクチャー、
応援寄せ書き国旗等記念品贈呈、写真撮影



集合写真

- ・ 府中市

日程①：2019（令和元）年 9 月 22 日（日）

場 所：けやき並木通り

協 力：府中市芸術文化協会

参加者：フランス代表選手、市民約 2,000 人等

内 容：府中市主催イベント「フランスウィーク」における伝統文化（太鼓・生け花等）体験を通じた交流等



伝統文化体験

日程②：2019（令和元）年 10 月 1 日（火）

場 所：府中朝日フットボールパーク

参加者：イングランド代表選手、市民約 600 人等

内 容：公開練習の見学、交流会（写真撮影・サイン等）



交流会

日程③：2019（令和元）年 11 月 1 日（金）

場 所：府中朝日フットボールパーク

協 力：サントリーサンゴリアス

参加者：イングランド代表ヘッドコーチ、
都立府中西高校ラグビー部約 30 人等

内 容：ラグビークリニックの実施



ラグビークリニック

- ・ 町田市

日程①：2019（令和元）年 10 月 1 日（火）

場 所：キャノンスポーツパーク

参加者：ナミビア代表選手、市民約 500 人

内 容：公開練習の見学



公開練習

日程②：2019（令和元）年 10 月 1 日（火）

場 所：キャノンスポーツパーク

参加者：ナミビア代表選手、小学生・中学生約 130 人

内 容：ラグビー体験



ラグビー体験

日程③：2019（令和元）年 10 月 2 日（水）
場 所：小野路宿里山交流館
参加者：ナミビア代表選手、市民約 50 人
内 容：日本文化体験（茶道体験、小野路うどん試食等）



茶道体験

日程④：2019（令和元）年 10 月 4 日（金）
場 所：町田リス園
参加者：ナミビア代表選手、リス園来訪者等約 200 人
内 容：リスへの餌やり、巣箱への絵付け等



リスへの餌やり

- ファンゾーンとは、RWC2019 の開催期間中に開催都市に設置され、パブリックビューイングや、ケータリングによる飲食の提供、ラグビーの普及活動、大会スポンサーによるプロモーション活動等が行われ、試合チケットの有無に関わらず、無料で誰もが気軽に訪れることができる場である。
- 都は、全ての人が、国籍や性別、応援するチーム等の垣根を越え、打ち解けあい、その輪を広げていく場となるものとして、多摩会場及び区部会場の2か所で、ファンゾーンの企画・運営を行った。
- 両会場では、それぞれの特性を活かし、パブリックビューイング、ステージイベント、ラグビーアクティビティ、ケータリング、大会スポンサー活動、他自治体 PR などを展開した。
- また、両会場とも、アクセシビリティ対応、多言語対応、環境配慮の取組を行った。
- 多摩会場では、ファンゾーン会場に隣接する調布市のイベントと連携し、区部会場では、丸の内エリアで大会スポンサーが行うイベントや銀座エリアの地元商店街と連携し、相互に PR を行うなど、周辺エリアと連携した。
- 台風 19 号の影響により、多摩会場は2日間、区部会場は1日中止し、両会場とも1日は開始時間を遅らせて開催した。
- 来場者数は、計画上、両会場合わせて 185,000 人と想定していた。台風の影響により中止になった日もあったが、両会場合計で想定を大きく上回る 310,500 人となった。

1 ファンゾーン会場の決定

ファンゾーンとは、RWC2019 の開催期間中に開催都市に設置され、パブリックビューイングや、ケータリングによる飲食の提供、ラグビーの普及活動、大会スポンサーによるプロモーション活動等が行われ、試合チケットの有無に関わらず、無料で誰もが気軽に訪れることができる場である。

都は、ファンゾーン会場の選定に当たり、

- ・ 立地（開催都市の中心部など人通りが多く、アクセスしやすい場所とし、交通負荷軽減のためスタジアムやその最寄駅周辺は回避）
- ・ 開催日（原則として、東京会場での試合日、日本代表の試合日、準決勝及び決勝の日に開催が可能であること）
- ・ 雨天・寒さ対策（特にパブリックビューイングについて対策が可能であること）
- ・ 夜間（～22 時）の照明・音出し対策（夕方以降の試合に合わせた照明設置や近隣への騒音対策が可能であること）
- ・ 実施経費（費用対効果の観点から、コスト削減が図られること）

の観点から検討を行った。

さらに、ファンゾーン会場を、東京スタジアムが所在する多摩地域と、全都的な盛り上げを図るために区部の計2か所に設置することとした。

2018（平成 30）年7月、次の施設を会場候補に選定し、組織委員会の承認を得て、2019（平成 31）年1月に正式にファンゾーン会場として決定した。

【多摩会場】

場所：調布駅前広場・調布市グリーンホール等

住所：調布市小島町2-47-1 ほか

(調布駅より徒歩1分)



調布駅前広場・調布市グリーンホール等

【区部会場】

場所：東京スポーツスクエア

住所：千代田区丸の内3-8-3

(有楽町駅より徒歩1分)



東京スポーツスクエア

2 運営計画の策定

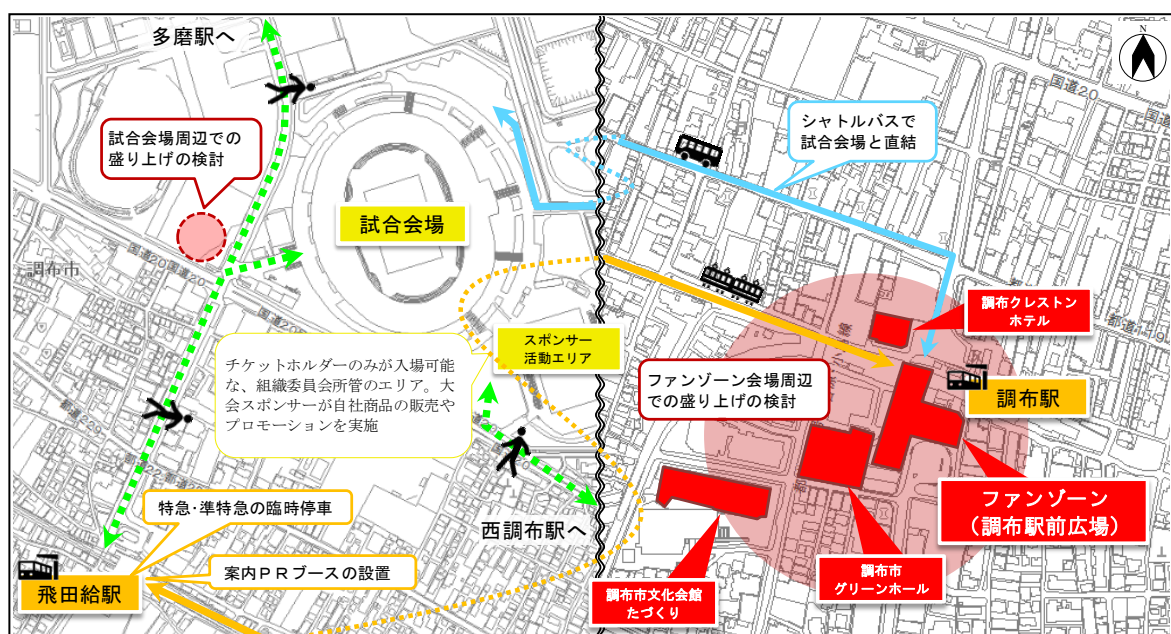
RWC2019 ファンゾーン運営計画（素案）を2019（平成31）年1月に策定し、開催日程やコンセプト等を明らかにした。

同年4月には、素案をより具体化し、開催時間を含む開催スケジュールや実施コンテンツの基本的な考え方、会場レイアウトのイメージ等を明らかにしたRWC2019 ファンゾーン運営計画（案）を策定し、組織委員会に提出した。同年7月に組織委員会の承認を得て、正式に決定した。

（1）多摩会場基本コンセプト

試合会場との一体性を確保し、スタジアムの玄関として、試合への期待と試合後の余韻を創出

<多摩会場周辺図>



(2) 区部会場基本コンセプト

丸の内・銀座エリアへの広がりを持たせ、東京・日本の玄関として、国内外の来場者をおもてなし

<区部会場周辺図>



(3) 開催日

東京スタジアムの試合日及び大会期間中の土・日曜日（15日間）に開催する。その他試合日（多摩3日間、区部11日間）には、パブリックビューイングを中心として開催する。

<開催日程>

開催日程		開催日程	
9/20(金)	● 調布 ● 有楽町 12:00-22:30	10/6(日)	● 調布 ● 有楽町 12:00-20:00
9/21(土)	● 調布 ● 有楽町 12:00-22:00	10/8(火)	● 有楽町 17:30-22:00
9/22(日)	● 調布 ● 有楽町 12:00-22:00	10/9(水)	● 有楽町 12:00-21:30
9/23(月祝)	● 調布 ● 有楽町 17:30-22:00	10/11(金)	● 調布 ● 有楽町 17:30-22:00
9/24(火)	● 有楽町 17:30-22:00	10/12(土)	● 調布 ● 有楽町 12:00-22:00
9/25(水)	● 有楽町 12:30-20:00	10/13(日)	● 調布 ● 有楽町 12:00-22:00
9/26(木)	● 有楽町 15:00-22:00	10/19(土)	● 調布 ● 有楽町 14:00-22:00
9/28(土)	● 調布 ● 有楽町 12:00-22:00	10/20(日)	● 調布 ● 有楽町 14:00-22:00
9/29(日)	● 調布 ● 有楽町 12:00-20:00	10/26(土)	● 調布 ● 有楽町 14:00-21:00
9/30(月)	● 有楽町 17:30-22:00	10/27(日)	● 調布 ● 有楽町 14:00-22:00
10/2(水)	● 有楽町 15:00-22:00	11/1(金)	● 調布 ● 有楽町 14:00-22:00
10/3(木)	● 有楽町 12:30-22:00	11/2(土)	● 調布 ● 有楽町 14:00-22:00
10/4(金)	● 調布 ● 有楽町 17:00-21:30		
10/5(土)	● 調布 ● 有楽町 12:00-22:00		

多摩会場 18 日間

区部会場 26 日間

(4) 想定来場者数

東京での試合日及び土日：各会場平均 5,000 人（1 日当たり）

その他の開催日：各会場平均 2,500 人（1 日当たり）

(5) コンテンツ

パブリックビューイング、ステージイベント、ラグビー体験、ケータリング、公式グッズ販売、交流エリア等

3 内覧会の実施

ファンゾーンの開催に先立ち、メディア向けに区部会場の内覧会を実施した。

日時：2019（令和元）年 9 月 19 日（木）

16 時 40 分～18 時 40 分

内容：ブリーフィング、会場内自由撮影等

参加メディア数：28 社、46 名

〔別途、都議会議員、開催都市首長及び議長向けの内覧会〕
を 15 時 10 分～16 時に実施

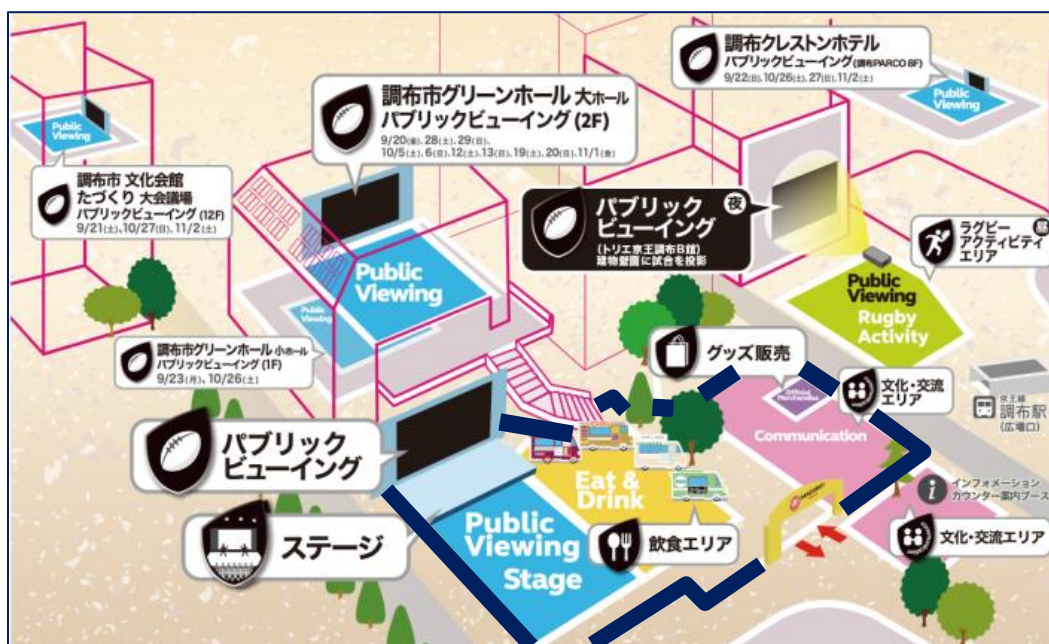


注目スポット紹介コーナー

4 多摩会場のコンテンツと特色

<会場図>

調布駅前広場・調布市グリーンホール等



：フェンス

(1) パブリックビューイング

会場内の 3 か所でそれぞれコンセプトの異なるパブリックビューイングを実施した。

ア ステージビジョン

フェンス内エリアのステージ上に 250 インチのビジョンを設置し、「飲食しながらゲストと一緒に盛り上がって試合観戦」をコンセプトに実施した。

日本代表戦など注目度の高いカードでは、ステージビジョン前に約 900 人の来場者が観戦した。



ステージビジョンの様子

イ 屋内会場

調布市グリーンホール（大ホール）を使用した。なお、大ホールが使用できない日は、小ホールや文化会館たづくり大会議場、同会館 2 階くすのきホール、調布クレストンホテル宴会場を使用した。

音楽ホールのステージに、プロジェクターで 400 インチ相当の映像を投映し、「落ち着いた快適な環境で試合観戦」をコンセプトに実施した。

日本代表戦など注目度の高いカードでは、大ホールに 1,200 人以上の来場者が訪れ、満席となった。



グリーンホール（大ホール）の様子

ウ 壁面スクリーン

日没後、調布駅前広場に隣接するトリエ京王調布 B 館の壁面に、プロジェクターで 500 インチ相当の映像を投映した。

客席は、日中にラグビーアクティビティで使用した人工芝を活用し、「開放的な環境で芝生に座って試合観戦」をコンセプトに実施した。

注目度の高いカードでは、人工芝エリアに約 600 人の来場者が観戦をするとともに、周辺エリアや路上にも多くの人々が集まり、推定 2,200 人の観戦者で調布駅周辺は大いに盛り上がった。

なお、特に、日本代表戦の際には来場者が多く、通路にも多数の滞留者が発生した。そのため、警備員の増強や資器材の投入等により誘導・整理を行うとともに、ステージビジョンや屋内会場の空き状況を把握し、来場者に案内することなどにより、混乱を防止した。



壁面スクリーンの様子

(2) ステージイベント

ステージゲストは、ラグビー選手（元選手を含む）、お笑いタレント、俳優・歌手等による構成を基本とし、試合前後やハーフタイム中に、試合解説を行うとともに、お笑いステージやミニライブ、トークショー等を開催した。その他、アルゼンチンタンゴや時代劇ショー等も開催した。



ステージイベント（トークショー）

＜主なステージゲスト＞

ラグビー選手 (元選手を含む)	鶴ヶ崎好昭、元木由記雄、畠山健介、田沼広之、菊谷崇、小倉順平、浅原拓真、梶原宏之、高橋真弓、大八木淳史、小野澤宏時、松田努、箕内拓郎、松尾雄治、斉藤祐也
お笑いタレント	ブルゾンちえみ with B、まんぷくフーディー、おばたのお兄さん、ケンドーコバヤシ、ジャルジャル、いぬ、パッケンマクソン、ビスケットィ、かぎしっぽ、中川家、しんや、なにわブラッチック、ドドン、ANZEN 漫才
俳優・歌手等	Beverly、佳久創、カルナバケーション、山崎紘菜、結子、田中美里、林家たま平、KAGAJ0☆7、DJ K00、大原櫻子
オリンピック等 スポーツ関係者	ヨーコ ゼッターランド (元バレーボール選手)、新谷賢太郎 (アナウンサー)、蝶野正洋 (プロレスラー)、村上晃一 (ラグビー解説者)、矢野武 (アナウンサー)

(出演順、敬称略)

(3) ラグビーアクティビティ

会場内に人工芝を敷き詰めたラグビー体験コーナーを設置した。

都内ラグビースクールの指導者やスクール生、首都大学東京ラグビー部、さらに多摩地域に練習拠点を有しているラグビートップチーム等に協力を依頼し、日替わりでトップ選手と一緒にトライやリフトアップ、タッチフット(タックルをタッチに代えた簡易型フットボール)等の体験を実施した。

また、東京都ラグビーフットボール協会と連携し、ラグビーに関する相談等を受けるラグビー普及コーナーも設置した。



選手によるリフトアップ

＜参加トップチーム等＞

リコーブラックラムズ (世田谷区)、日野レッドドルフィンズ (日野市)、東芝ブレイブルーパス (府中市)、栗田工業ウォーターガッシュ (昭島市)、キャノンイーグルス (町田市)、サントリーサンゴリアス (府中市)、ラグビー女子日本代表 (横河武蔵野アルテミ・スターズ (武蔵野市) 所属選手)

(出演順)

(4) ケータリング

フードについては、出場国にちなんだ料理を1品以上提供することを要件に、日替わりでキッチンカー4～6台を手配した。

ドリンクについては、ドリンク専用のカウンターを設け、ビール、シードル、ソフトドリンクを販売するとともに、各キッチンカーでも販売を行った。



キッチンカーによるケータリング

＜フードメニュー＞

ローストビーフ丼 (オーストラリア)、フィッシュアンドチップス、ギネスシチュー (アイルランド)、ラザニア、アラビータ、ピザ (イタリア)、ビーフストロガノフ、ボルシチ (ロシア)、BBQ チキンプレート (フィジー)、ペリペリチキン (南アフリカ)、コンフィ (フランス)、うなぎ、焼きそば、うどん (日本)

（５）公式グッズ販売

フェンス内エリアに公式グッズ販売コーナーを設置した。レプリカユニフォームやレンジャーのぬいぐるみ等、様々なグッズを取り扱った。

（６）文化・交流エリア等

自治体・大使館 PR エリアには、都の呼び掛けに対し、出展協力の申出のあった 17 市町が出展するとともに、2 か国の大使館が出展した。また、産業労働局による観光ブースや東京産食材試食コーナーを設置した。さらに多摩地域の魅力を発信するため、足湯体験など、様々な体験コーナーを設けた。



自治体・大使館 PR エリア



足湯体験



時代劇体験

＜自治体・大使館 PR エリアの出展者＞

自治体	八王子市、立川市、武蔵野市、三鷹市、青梅市、府中市、調布市、町田市、小金井市、小平市、日野市、東村山市、福生市、羽村市、あきる野市、瑞穂町、日の出町
大使館	フランス、アルゼンチン

＜多摩地域の魅力発信＞

足湯体験	・日替わりで4つの温泉から直送（秋川溪谷瀬音の湯、生涯青春の湯つるつる温泉、奥多摩温泉もえぎの湯、檜原温泉センター数馬の湯） ・大多摩観光連盟協力
新選組 なりきり体験	新選組のふるさと歴史館協力
祭囃子体験	調布市郷土芸能祭ばやし保存会協力
時代劇体験	高津装飾美術（株）協力（着付け、まち駕籠搭乗等）

また、大会スポンサーエリアには、ランドローバー社、キヤノン（株）、（株）NTT ドコモ、大正製薬（株）、読売新聞社が出展した。また、生活文化局と連携し、ヘブンアーティストによるパフォーマンスを実施した。

（７）試合会場との連携

多摩会場は、試合会場である東京スタジアムと近接しており、東京会場で試合がある日は、より多くの来場者があり、チケットホルダーを含む多くの来場者で試合前後も賑わった。

調布駅から試合会場までのシャトルバスの案内や試合会場への持込禁止物をアナウンスするなど、東京スタジアムへの円滑な入場を促した。また、試合会場周辺の警備員やボラ

ンティアにファンゾーンの混雑状況を共有し、観客誘導に活用するなど、ファンゾーン会場と試合会場で連携した運営を行った。

5 区部会場のコンテンツと特色

<会場図>

東京スポーツスクエア



(1) パブリックビューイング

東京スポーツスクエア 1 階に 3 台、2 階に 1 台の大型ビジョンを設置し、パブリックビューイングを実施した。

ア 1 階

横幅約 10m のマルチビジョン (500 インチ) を中央ステージにメインとして設置するとともに、左右に 200 インチのサブビジョンを設置し、「飲食しながらゲストと一緒に盛り上がり試合観戦」をコンセプトに実施した。マルチビジョンでは画面を分割し、試合映像とともに、得点経過やルール解説、スターティングメンバー等を投映した。

各試合とも、多くの来場者が 3 台のビジョン前に集まり試合を観戦した。



1 階メインビジョン

イ 2 階

「家族揃ってのんびり試合観戦」をコンセプトに、2 階全体をノンアルコールエリアに設定し、200 インチのビジョンの前にカーペットを敷き詰め、靴を脱いで座って観戦できるようにした。

日本代表戦など注目度の高い試合では、カーペット後方



2 階ビジョン

の通路に立ち見が出るほど、大いに盛り上がった。

(2) ステージイベント

ステージゲストは、ラグビー選手（元選手を含む）、お笑いタレント、俳優・歌手等による構成を基本とし、試合前後やハーフタイム中に、試合解説等を行うとともに、お笑いステージやミニライブ、トークショー、DJ パフォーマンス等を開催した。その他、モデルによるファッションショーやアイリッシュダンス、ハカパフォーマンス等も開催した。

11月1日（金）には、特別ゲストとして、今大会に日本代表として出場した田中史朗選手と松田力也選手が出演した。



ステージイベント
(ハカパフォーマンス)

＜主なステージゲスト＞

ラグビー選手 (元選手を含む)	立川理道、伊藤剛臣、大西一平、元木由記雄、村田互、梶原宏之、田沼広之、浅原拓真、畠山健介、大八木淳史、小倉順平、斉藤祐也、松尾雄治、ロス・アイザック、大西将太郎、田中史朗、松田力也
お笑いタレント	キャイ〜ン、オテンキ、セバスチャン、なにわブラッチック、松村邦洋、ブルースタンバリン大誠、小島よしお、あがすけ、ティモンディ、カミナリ、烏龍パーク加藤、ねこじゃらし、ケンドーコバヤシ、しんや、ジャルジャル
俳優・歌手等	SUPER☆GiRLS、結子、坂本奨悟、80min girls、前田誠二、りゅうちえる、ドーキンズ英里奈、ホワイトアウトトーキョー、山下真司、麻倉未稀、DJ K00、田中美里、輝&輝、夢みるアドレセンス、岡本真夜
オリンピック等 スポーツ関係者	土居壮（アナウンサー）、伊藤華英（元水泳選手）、矢野武（アナウンサー）、ヨーコ ゼッターランド（元バレーボール選手）、武藤敬司（プロレスラー）、村上晃一（ラグビー解説者）、萩原次晴（元スキー選手）

（出演順、敬称略）

(3) ラグビーアクティビティ

屋内会場のため、限られたスペースを活用し、1階にはタックル測定器を設置するとともに、リフトアップ体験を実施した。

また、2階にはラグビーボールを使用したストラックアウト、キック体験ができる器具を設置した。

さらに、東京都ラグビーフットボール協会と連携し、ラグビーに関する相談等を受けるラグビー普及コーナーも設置した。

3階は、「学ぶラグビーアクティビティ」をコンセプトとし、ラグビーの聖地「トゥイッケナムスタジアム」に併設のラグビーミュージアムから借り受けた日本代表のユニフォーム等を展示した特別展「日本のラグビー史」を開催した。



タックル測定器



特別展「日本のラグビー史」

＜特別展「日本のラグビー史」＞

テーマ	主な展示品
ヨークシャーから横浜へ	1874 ハーパーズウィークリーマガジン 1904 慶応大学ジャージ
勇敢な桜の戦士	1932 カナダ 対 日本 チケット 1934 日本代表ジャージ
ミラクル・イヤーズ	1968 日本代表ジャージ 1968 日本代表 対 U-23 ニュージーランド チケット
グローバル・ジャパン	1973 ウェールズ 対 日本 チケット・プログラム 1986 日本代表ジャージ
2019 年への道	1989 日本 対 スコットランド チケット・プログラム 2003/2011 日本代表サイン入りジャージ

（４）ケータリング

フードについては、２階に厨房を設置し、その場で料理したものを１階及び２階で提供した。

ドリンクについては、ドリンク専用のレーンを設け、ビール、シードル、ソフトドリンクを販売するとともに、フードの注文口でも販売を行った。



ケータリング（２階フードコート）

＜フードメニュー＞

ラムチョップ（オーストラリア）、チョリパン（アルゼンチン）、ホットドック（アメリカ）、フレンチチーズポテト（フランス）、カナディアンメープルチュロス（カナダ）、フィッシュアンドチップス（イングランド）、ミニガルブツィ（ロシア）

（５）公式グッズ販売

会場入口付近に公式グッズ販売コーナーを設置し、レプリカユニフォームやレンジーのぬいぐるみ等、様々なグッズを取り扱った。なお、公式グッズ販売コーナーについては、大会期間を通じて営業（非試合日を含む）を行った。



公式グッズ販売コーナー

（６）文化・交流エリア等

大会スポンサーエリア（東京スポーツスクエア２階）には、キヤノン（株）、三菱地所（株）、（株）NTT ドコモ、日本電気（株）、大正製薬（株）が出展した。

開催都市 PR エリア（同３階）には、全ての開催都市の PR コーナーを設置するとともに、５都市（岩手県・釜石市、埼玉県・熊谷市、大阪府・東大阪市、神戸市、熊本県・熊本市）については、物産販売も行った。



開催都市 PR エリア

また、浴衣着付け体験コーナーや、ハカレクチャーコーナー、ネイル・フェイスペイントコーナーも設置するとともに、生活文化局と連携し、ヘブンアーティストによるパフォーマンスを実施した。

加えて、産業労働局と連携し、観光ブースを設置した（同1階）。

同別館1階には、ハイネケン社がビアバーを設置し、大会期間を通じて営業（非試合日を含む）を行った。



浴衣着付け体験コーナー



ビアバー

自治体・大使館 PR エリア（有楽町駅前広場）には、出展協力の申し出のあった7区が出展するとともに、3か国の大使館が出展した。

<出展者>

自治体	中央区、台東区、墨田区、江東区、練馬区、足立区、江戸川区
大使館	ジョージア、アイルランド、オーストラリア



ジョージア大使館



アイルランド大使館



オーストラリア大使館

（7）大会写真展

東京スタジアムで行われた試合や日本代表の試合を中心に、今大会における代表選手たちの躍動感あふれるプレーやシーンを、読売新聞社の協力により、写真パネルにして展示した。

【展示日】

10月13日（日）、19日（土）、20日（日）、26日（土）、
27日（日）、11月1日（金）、2日（土）



写真展の様子

また、大会終了後も、大会のレガシーとして都内各所で展示した（詳細は、第8章を参照）。

6 警備・医療

事故を未然に防ぎ、また、万が一事故が発生した場合には、迅速に適切な対応ができるよう、会場内外に警備員を配置した。巡回警備を行うとともに、入場ゲートにおいては、警備員とスタッフが手荷物検査を実施し、危険物又はそれに類する物品の持込みを未然に防止した。

会場に多くの人々が来場し、混雑が生じた場合には、入場を制限した。両会場ともに想定以上の来場者があったため、随時、会場内ブース等のレイアウトの見直しを行うなど、より多くの来場者が入場できるよう努めた。入場規制時には、待機列を設け、退場者の状況を踏まえ、可能な範囲で入場させるなど、柔軟な対応を行った。

開催期間中、入場規制は、多摩会場では6日間、区部会場では6日間実施した。

また、会場内には救護所を設置し、看護師を配置した。開催期間中の救護所の利用は、多摩会場で11件、区部会場で22件あり、いずれも転倒による擦過傷の手当てや泥酔者の対応等、軽微なものがほとんどであった。



手荷物検査の様子（多摩会場）

7 アクセシビリティ対応

高齢者や体の不自由な方、小さな子供連れの方等も安心して来場でき、楽しむことができるよう、多目的トイレの設置、車椅子が通れる通行幅の確保、車椅子用パブリックビューイングスペースの確保等の対応を行った。



車椅子用パブリックビューイングスペース（多摩会場）

8 多言語対応

組織委員会が試合会場周辺における誘導サインの基準として策定した「誘導サインガイドライン」に準じ、ファンゾーンにおいては、日本語と英語の二か国語を使用したサインを掲示した。また、表記にはピクトグラムも使用した。

さらに、イベントスケジュールや会場マップ等の配布物も二か国語で作成し、配布するとともに、ファンゾーンのHPも二か国語で作成した。



会場マップ（多摩会場）【日本語】



会場マップ（多摩会場）【英語】

9 環境配慮等の取組

受動喫煙対策として、ファンゾーン会場は完全禁煙とし、会場内に喫煙所は設置しなかった。来場者等から大きな苦情等はなく、円滑に運用することができた。

また、ワンウェイプラスチック対策として、ケータリングでプラスチック製品は取り扱いしないこととし、飲料は原則として缶製品のみとした。食事も、紙食器や木製スプーン等で提供した。



持ち込み禁止物の案内サイン 会場で使用した木製フォーク、箸、木製スプーン

排出されたゴミについては、会場ごとの地域の区分に従い、燃えるゴミ、燃えないゴミ、プラスチック、ビン、缶、ペットボトル、飲み残し・食べ残しの別に回収した。

区部会場においては、環境局事業で配置した「分別ナビゲーター」が来場者にごみの分別を案内した。リサイクル可能なゴミは、リサイクル業者に収集を依頼した。



「分別ナビゲーター」の活動

10 周辺エリアとの連携

多摩会場においては、会場周辺において、調布市が「調布スクラムフェスティバル vol. 6」を実施した。地元事業者のキッチンカーによる飲食販売や、市内文化団体による生け花体験、けん玉やベーゴマ等の昭和遊び体験等が行われた。



調布スクラムフェスティバル vol.6 の様子

区部会場においては、丸の内エリアにおいて、大会スポンサーである三菱地所(株)が「丸の内 15 丁目プロジェクト」を展開した。また、大会期間中には、丸ビル1階の「MARUNOUCHI RUGBY PARK」において、パブリックビューイングを実施した。都は、これらと連携し、相互に PR を行うことで来場者の周遊を促すとともに、三菱地所(株)との共催で、東京駅前の行幸通りに出場国の国旗をモチーフにしたサインオブジェを設置した。



サインオブジェ（行幸通り）

また、銀座エリアでは、地元商店街等と連携を図り、会場内で周辺地図を配布し、飲食店等の紹介を行うとともに、ボランティアが商店街でファンゾーンのチラシを配布するなど、相互に PR を行った。

11 広報

広報東京都、チラシ、ポスターなどの紙媒体だけでなく、公式 HP の作成、SNS によるリアルタイム配信、さらに、HP と連動した SNS 広告などを実施し、幅広い層に PR した。



ファンゾーン in 東京チラシ



ファンゾーン in 東京公式 HP

12 台風 19 号への対応

2019 (令和元) 年 10 月 12 日 (土)、台風 19 号が関東甲信越・東北地方を直撃し、各地に甚大な被害をもたらした。

組織委員会は、台風上陸の前々日の 10 日 (木) には、12 日 (土) の横浜国際総合競技場及び豊田スタジアムの試合中止を発表した。また、鉄道事業者が計画運休実施の可能性を発表したことなどもあり、都は、区部会場については 12 日 (土) の開催を、多摩会場については、屋外仮設物の安全確保が困難なことから、11 日 (金) 及び 12 日 (土) の開催を、それぞれ中止することとした。

また、台風が接近する 11 日 (金) には、区部会場の看板等に転倒防止用のベルトやウエイトの設置などの対策を行い、台風の上陸に備えた。なお、調布市では、台風が伊豆半島に上陸した 12 日 (土) 夜、多摩会場のパブリックビューイング会場となっていた調布市グリーンホールを市民の避難所として開放した。

台風は、激しい暴風雨を伴いながら関東地方を縦断し、13 日 (日) 未明には東北地方から海上へと通過した。これに伴い、同日朝には都内の天候は回復し、調布市グリーンホールに開設されていた避難所も閉所された。

組織委員会は、13 日 (日) 午前、横浜会場の状況を確認のうえ、同日予定されていた日本対スコットランドの試合の開催を決定した。都においても、ファンゾーン両会場について、施設に大きな被害が生じていないことや、気象情報、公共交通機関の状況などから、開場時間を当初予定の 12 時から 18 時に変更して開催することとした。



区部会場における台風対策の様子



区部会場における 10 月 13 日 (日) の開場前の様子

両会場ともに、台風通過直後にもかかわらず、日本対スコットランドのパブリックビューイング観戦に、早い時間から多くの来場者があった。そのため、予定より早く開場し（16時半過ぎ）、開場後約1時間後には、入場規制を実施するほどの賑わいだった。

なお、多摩会場についてはグリーンホールのみで開催とし、当初、屋外ステージで予定していたトークショーをグリーンホールに移し、実施した。

また、10月19日（土）から最終日までの6日間にわたり、台風19号により被害を受けた被災地支援の義援金募集を行い、外国人を含む多くの来場者からの寄付を受けた。



多摩会場におけるトークショーの様子

13 ファンゾーンへの来場者数

計画では、東京スタジアムでの試合日及び土日（15日間）の来場者数は、両会場1日当たり平均5,000人、その他の開催日は平均2,500人を想定し、大会期間中の総来場者数は、多摩会場の18日間と、区部会場の26日間の合計で185,000人と想定した。

9月20日（金）より開催されたファンゾーンは、台風19号の影響により、多摩会場で2日間、区部会場で1日が中止となったが、大会期間を通じて大いに盛り上がり、両会場合計で想定を大きく上回る延べ310,500人が来場した。また、報道機関等による取材も延べ278回行われ、テレビや新聞等にも大きく取り上げられた。

多摩会場では、東京スタジアムでの試合日には、チケットホルダーが多く立ち寄り、10月19日（土）の準々決勝（ニュージーランド対アイルランド）の試合前には、来場者の半数以上を外国人が占めた。

その他の日は、日本人が中心で、性別を問わず、子供からお年寄りまで幅広い年齢層の来場があった。パブリックビューイングのほか、ラグビートップチーム等と連携したラグビーアクティビティや、多摩地域の温泉を直送した足湯体験、調布市内の映画製作会社と連携した時代劇体験等の人気が高かった。総来場者数は16日間で延べ131,900人であった。



10月19日（土）の様子

区部会場では、全ての日程において外国人の来場者が多く、特に準決勝以降は、外国人が半数に迫る状況となった。

日本人の来場者は、平日には特に仕事帰りの社会人が多く、土日には家族連れも来場した。パブリックビューイングのほか、特別展「日本のラグビー史」、ビアバー、公式グッズ販売コーナーの人気が高かった。総来場者数は25日間で延べ178,600人であった。



平日の様子（9月26日（木））

両会場とも大会期間を通じて、国内外から訪れた大勢の来場者が、応援チームの好プレーに感動・興奮し、相手チームの好プレーを称賛しながら応援していた。試合終了後は、敵味方の隔てなく、互いの健闘をたたえ合い交流するなど大いに盛り上がっていた。

RWCを直接試合会場で観戦する楽しみ方とは別に、会場に行かずともRWCの感動・興奮を

同様に体験し、楽しめる場となるなど都民・国民に対し、新たな観戦の楽しみ方を提供した。

<ファンゾーン開催日数・来場者数（延べ人数）>

	開催日数	来場者数	（参考）平均来場者数	
			東京での試合日 及び土日（14日間）	その他の 開催日
多摩会場	16日間	131,900人	9,104人/日	2,225人/日
区部会場	25日間	178,600人	9,800人/日	3,764人/日
計	—	310,500人	—	—

※台風19号の影響により、多摩会場では10月11日（金）、12日（土）は中止、13日（日）は開場時間を遅らせ、屋内会場のみを実施。区部会場では10月12日（土）は中止、13日（日）は開場時間を遅らせて実施。

<日別・会場別内訳>

日程	天候	試合内容	多摩会場	区部会場
9月20日（金）		開会式 <u>日本 対 ロシア</u>	11,500人	10,000人
9月21日（土）		オーストラリア 対 フィジー <u>フランス 対 アルゼンチン</u> ニュージーランド 対 南アフリカ	11,500人	11,000人
9月22日（日）		イタリア 対 ナミビア アイルランド 対 スコットランド イングランド 対 トンガ	6,500人	8,500人
9月23日（祝）		ウェールズ 対 ジョージア	2,100人	2,500人
9月24日（火）		ロシア 対 サモア	—	2,100人
9月25日（水）		フィジー 対 ウルグアイ	—	2,600人
9月26日（木）		イタリア 対 カナダ イングランド 対 アメリカ	—	4,600人
9月28日（土）		アルゼンチン 対 トンガ <u>日本 対 アイルランド</u> 南アフリカ 対 ナミビア	9,500人	11,300人
9月29日（日）		ジョージア 対 ウルグアイ <u>オーストラリア 対 ウェールズ</u>	11,000人	8,500人
9月30日（月）		スコットランド 対 サモア	—	3,400人
10月2日（水）		フランス 対 アメリカ ニュージーランド 対 カナダ	—	6,300人

10月3日(木)		ジョージア 対 フィジー アイルランド 対 ロシア	—	4,900 人
10月4日(金)		南アフリカ 対 イタリア	2,350 人	4,200 人
10月5日(土)		オーストラリア 対 ウルグアイ <u>イングランド 対 アルゼンチン</u> 日本 対 サモア	17,000 人	15,000 人
10月6日(日)		<u>ニュージーランド 対 ナミビア</u> フランス 対 トンガ	7,500 人	7,500 人
10月8日(火)		南アフリカ 対 カナダ	—	2,700 人
10月9日(水)		アルゼンチン 対 アメリカ スコットランド 対 ロシア ウェールズ 対 フィジー	—	6,300 人
10月11日(金)		オーストラリア 対 ジョージア	中止	1,800 人
10月12日(土)		ニュージーランド 対 イタリア イングランド 対 フランス アイルランド 対 サモア ナミビア 対 カナダ	中止	中止
10月13日(日)		アメリカ 対 トンガ ウェールズ 対 ウルグアイ 日本 対 スコットランド	1,250 人	4,900 人
10月19日(土)		イングランド 対 オーストラリア <u>ニュージーランド 対 アイルランド</u>	9,500 人	13,200 人
10月20日(日)		ウェールズ 対 フランス 日本 対 南アフリカ	12,000 人	11,000 人
10月26日(土)		イングランド 対 ニュージーランド	6,200 人	8,000 人
10月27日(日)		ウェールズ 対 南アフリカ	6,000 人	7,100 人
11月1日(金)		<u>ニュージーランド 対 ウェールズ</u>	8,000 人	8,900 人
11月2日(土)		イングランド 対 南アフリカ	10,000 人	12,300 人

各会場合計

131,900 人

178,600 人

両会場合計

310,500 人

※下線太字 : 東京スタジアム開催

赤 字 : 日本代表戦

 : 東京スタジアム試合日及び土日 (15日間)

14 区市町村との連携

大会の一層の盛り上げを図るため、都内各区市町村においても、パブリックビューイングを実施した。なお、各区市町村による取組の促進を目的に、都は補助金による支援を実施した。

＜区市町村によるパブリックビューイング＞

区市町村名	開催日数	開催場所
港区	4	品川インターシティ、トレードピア、DECKS 東京ビーチ、区立芝公園
新宿区	14	伊勢丹新宿店本館屋上、歌舞伎町シネシティ広場
文京区	1	東京ドームシティアクアガーデン
台東区	2	御徒町南口駅前広場
墨田区	6	東京スカイツリータウン®スカイアリーナ
中野区	1	中野体育館
杉並区	1	セノンスポーツゼロ
北区	5	赤羽体育館
練馬区	3	石神井区民交流センター、ココネリホール、練馬文化センター
足立区	1	足立区役所
武蔵野市	4	境南ふれあい広場公園、武蔵野陸上競技場、武蔵野総合体育館
三鷹市	2	三鷹駅前コミュニティ・センター
青梅市	1	青梅市文化交流センター
府中市	11	けやき並木通り、府中市市民活動センター
昭島市	1	栗田工業昭島グラウンド
町田市	3	町田ターミナルプラザ市民広場、町田市生涯学習センターホール、和光大学ポブリホール鶴川
日野市	2	ひの煉瓦ホール小ホール（日野市民会館）、イオンモール多摩平の森
国分寺市	1	cocobunji プラザリオンホール
狛江市	3	狛江エコルマホール、狛江市えきまえ広場
西東京市	1	ASTA 西東京



区立芝公園（港区）



cocobunji プラザリオンホール
(国分寺市)



狛江エコルマホール（狛江市）

- 国内外から訪れる観客を温かいホスピタリティで迎え、おもてなしするボランティアは、大会を大いに盛り上げるとともに、ラグビーの価値と東京、そして日本の魅力を伝える「大会の顔」として活躍した。
- ボランティアは、大会期間中、試合会場内での会場運営サポートや試合会場周辺における観客案内、空港・主要駅での観光・交通案内、ファンゾーンの運営サポートなどを行った。

1 公式ボランティア「TEAM NO-SIDE」

組織委員会は、2018（平成30）年3月、公式ボランティアプログラムの概要を発表した。公式ボランティアのチーム名称は、日本ラグビーが育んだ「ノーサイドの精神」を体現し、世界はひとつであるという想いを込め、「TEAM NO-SIDE」に決定した。

ボランティアは、国内外から訪れる観客を温かいホスピタリティで迎え、もてなし、大会を大いに盛り上げるとともに、ラグビーの価値と東京、そして日本の魅力を伝える「大会の顔」として活躍した。

2 ボランティアの運営主体

開催都市である都は、主に試合会場周辺、空港・主要駅、ファンゾーンで活動するボランティアを運営し、組織委員会は、主に試合会場内で活動するボランティアを運営した。

＜ボランティア概要＞

事項	東京都	組織委員会
主な活動場所	試合会場周辺 空港・主要駅 ファンゾーン	試合会場内
主な活動内容	観客案内 観光・交通案内 ファンゾーン運営サポート	会場運営サポート等
人数	東京会場：約 2,400 人 12 開催都市合計：約 13,000 人	

3 ボランティアの募集

組織委員会は、2018（平成30）年4月から7月にかけて、東京会場で活動するボランティア約 2,000～3,000 人、全 12 開催都市合計では約 10,000 人以上のボランティアを募集した。

都は、東京都観光ボランティア及び（一財）東京マラソン財団オフィシャルボランティアクラブ VOLUNTAINER（ボランテイナー）から 1,060 人を組織委員会へ推薦した。

全 12 開催都市で予定人数を上回り、大会史上最多となる 38,000 人を超える応募があった。

＜主な応募要件＞

年齢要件	2019（平成 31）年 3 月 31 日までに満 18 歳に達している方
語学要件	日本語でのコミュニケーションが可能な方
活動日数	開催都市ごとの最低活動日数以上ご参加いただける方 ※東京会場は 5 日間以上
活動時間	1 日当たり最長で 8 時間程度の活動にご参加いただける方

4 インタビュー・ロードショー（面接）

応募者のうち、組織委員会による抽選を通過した方々と都の推薦者を対象に、インタビュー・ロードショー（面接）を 2018（平成 30）年 12 月 14 日（金）から 18 日（火）まで実施し、大会概要やボランティアの役割の説明、活動内容の希望調査、グループワーク等を行った。



大会概要等の説明



グループワーク

インタビュー・ロードショーの結果、ボランティアは全国で約 13,000 人、東京会場では約 2,400 人が活動することとなった。

＜各開催都市の人数＞

開催都市	人数（概数）
札幌市	700 人
岩手県・釜石市	700 人
埼玉県・熊谷市	1,400 人
東京都	2,400 人
神奈川県・横浜市	1,500 人
静岡県	1,000 人
愛知県・豊田市	900 人
大阪府・東大阪市	900 人
神戸市	800 人
福岡県・福岡市	700 人
熊本県・熊本市	500 人
大分県	1,500 人

5 オリエンテーション

ボランティアに採用された方々を対象としたオリエンテーションを 2019（平成 31）年 3 月 10 日（日）に開催した。

【主な内容】

- ・ 開催都市挨拶
- ・ 参加者同士のアイスブレイク
- ・ TEAM NO-SIDE Principles（行動理念）の説明



会場の様子



参加者同士のアイスブレイク

6 リーダートレーニング

都は、採用者のうち東京マラソン等でのボランティアリーダー経験者や東京都観光ボランティアで、リーダーとしての活動希望がある方々を対象に、2019（令和元）年6月7日（金）から9日（日）までの3日間にわたり、リーダートレーニングを開催した。

【主な講義内容】

- ・ スポーツボランティアの意義
- ・ コミュニケーションスキル
- ・ リーダーに求められる行動等
- ・ 普通救命救急講習（心肺蘇生や AED の操作方法などを学習）



講師による講義



普通救命救急講習

7 ロールトレーニング

役割ごとの活動内容を学ぶロールトレーニングを、2019（令和元）年7月5日（金）から8日（月）までの4日間にわたり開催した。

【主な講義内容】

- ・ 大会概要や参加時のルール
- ・ 障害者や外国人などへの対応方法

また、ロールトレーニング終了後、東京の交通網や観光地の情報、観客への対応方法を学ぶことができる E ラーニングを実施した。



共通パートの講義



車椅子利用者の対応方法実演

8 ベニユートレーニング

大会本番前最後の研修となるベニユートレーニングを、2019（令和元）年8月29日（木）から9月1日（日）まで東京スタジアムで開催した。

【主な講義内容】

- ・ 試合及びファンゾーンの開催日程
- ・ 活動当日のスケジュール
- ・ 活動場所ごとの具体的な活動内容
- ・ トラブル発生時の対応方法
- ・ 携行品の紹介
- ・ 想定される問合せの共有（活動場所周辺の地図や観光・交通情報等）

当日は、会場内の誘導など、運営の一部をボランティアの協力を得て、実施した。

また、ベニユートレーニング終了後、各活動場所における施設情報や観客の盛り上げ方法等を学ぶことができるEラーニングを実施した。

9 テストマッチでのボランティア活動

2019（令和元）年7月下旬から9月上旬にかけ、ラグビーテストマッチが国内で3試合開催された。

これに合わせて、都が主催したパブリックビューイングイベントにおいて、大会本番時に活動するボランティアにイベント会場の運営サポートボランティアとして参加してもらい、本番に向けたボランティア運営（集合、配置、活動、休憩、解散、連絡系統）の試行、検証を実施した。



町田シバヒロ



歌舞伎町シネシティ広場



調布駅前広場



日比谷公園にれのき広場

10 配置計画

(1) 活動シフト

活動に当たっては、2人1組を基本とし、配置ポストごとに2組配置することで、交互に休憩を取れる運用とした。活動の前後にはミーティングの時間を設けて、留意事項の伝達や、活動後の気付きの共有を行った。

1日の活動時間は原則5～7時間程度とし、このうち休憩は2～3時間程度とした。また、休憩場所を、概ね徒歩15分以内の場所に確保した。

(2) 活動場所・活動期間

活動場所・活動期間については、次のとおりとした。

主な活動場所		活動期間
試合会場 周辺	最寄駅（飛田給駅、多磨駅、西調布駅）及び 試合会場周辺	東京スタジアムでの試合日 計8日間
	シャトルバス乗降駅（調布駅、多磨駅、武蔵境駅、狛江駅、武蔵小金井駅）	
空港・主要駅	主要アクセス拠点（新宿駅・東京駅・品川駅、 羽田空港（国際線及び国内線ターミナル））	大会期間中（9月20日～11月2日） 計44日間 ※羽田空港は、9月19日から活動
ファンゾーン	ファンゾーン（多摩会場、区部会場）	各ファンゾーン開催日 ・多摩会場：計18日間 ・区部会場：計26日間

※台風19号の影響により、10月12日（土）については全活動を中止。その前後の日については、一部を除く活動を中止。

(3) 配置の考え方

ボランティア経験や語学スキル、配慮を要する事項等を踏まえ、ボランティアを配置し、2019（令和元）年7月30日（火）にポジションオファー（配置通知）を実施した。

【主な考慮事項】

- ・ 東京都観光ボランティアからの推薦者の方は、主に空港・主要駅に配置
- ・ 英語のレベルが日常会話レベル以上の方は、全配置ポストに1名以上配置
- ・ 英語以外（ロシア語、フランス語、スペイン語）のレベルが日常会話レベル以上の方は、対戦チームの公用語を踏まえ配置
- ・ 配慮を要する方は、本人の希望を伺い、活動場所や役割を調整
(例)・車椅子利用の方は、休憩場所が近接しているファンゾーンの受付や案内のポストで活動
- ・ 人混みを避ける必要がある方は、広いスペースを有する空港で活動

11 ユニフォーム

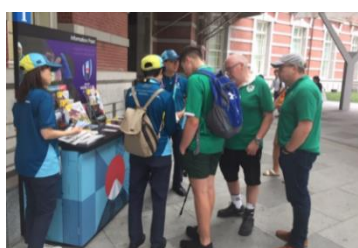
2019(平成 31)年 3 月 4 日(月)、組織委員会は「TEAM NO-SIDE」のユニフォーム（ウォーターボトル、バックパック等を含む 8 アイテム）を発表した。「一体感（絆）」「笑顔（快適性）」「思い出（一生に一度）」の 3 つのキーワードを基に、ユニフォームデザインが決定された。



ユニフォーム姿のボランティア

12 案内ブース

試合会場の最寄駅、シャトルバス発着駅、空港・主要駅に、ボランティアによる観客案内の拠点となる案内ブースを設置し、大会ガイドや試合会場までのアクセスマップ、東京の観光ガイドなどを配架した。また、案内ブース上に筆談対応が可能である旨の表示を行ったほか、筆談アプリ等を搭載した情報検索用のタブレットを配備し、案内に活用した。



案内ブースでの案内



案内ブース配架物

13 多言語対応

言語スキルを有するボランティアは、対応可能言語を表示した腕章を着用した（組織委員会で作成した英語に加え、都は独自にフランス語、ロシア語、スペイン語、イタリア語、手話も作成）。また、各ポストに 1 台ずつ連絡用スマートフォンを貸与し、搭載した翻訳アプリ（対応可能言語：12 言語）等を活用した多言語対応も実施した。



多言語バンド（腕章）



音声翻訳アプリ

14 保険

ボランティアが安心して活動に参加できるよう、スポーツ安全保険（補償対象：文化、ボランティア、地域活動）を、全ボランティアに提供した。

15 飲食

試合会場周辺で活動するボランティアには、休憩時間中に食事（弁当等）を提供した。弁当はワンウェイプラスチック対策として、リサイクル可能な再生プラスチックを用いた容器を採用した。なお、食事の提供が困難な活動場所で活動するボランティアに対しては、食費相当分として1,000円分の金額がチャージされたプリペイドカードの配布を行った。

また、全ての休憩場所にはウォーターサーバーを設置し、配布しているウォーターボトルへの水の補充をできるようにした。



リサイクル可能な容器の採用



ウォーターサーバーの設置

16 大会本番時の活動状況

2019（令和元）年9月19日（木）から11月2日（土）までの活動期間中、都が運営するボランティアは、延べ6,552人が活動した。

（1）試合会場周辺

東京スタジアム外周、ラストマイル上及びシャトルバス発着駅で、観客に入場ゲートやシャトルバス乗降場などを案内するとともに、大会情報・試合会場に関する問い合わせにも対応した。試合開始前には、フラッグやハンドサイン等を用いて、試合会場に向かう観客を明るく迎えた。試合終了後にハイタッチで観客を見送った際には、「ありがとう」と声をかけられる光景が見られた。



東京スタジアム外周での案内



シャトルバス乗降場（調布駅）での活動



試合開始前の観客の盛り上げ

（2）空港・主要駅

羽田空港や新宿駅等では、国内外からの観客を中心に、各交通機関への案内や大会情報・観光情報の提供を行うとともに、フォトフレームを用いて、記念撮影に積極的に対応した。また、ボランティアからの意見を踏まえ、各案内ブースにスケッチブックを用意し、観客に大会や選手への応援メッセージを記入してもらうなどの取組も実施した。



空港での乗り換え案内



フォトフレームを使った記念撮影（品川駅）



スケッチブックへの応援メッセージ（新宿駅）

（３）ファンゾーン

ファンゾーン内の案内やチラシの配布、来場者アンケートの回答者への記念品のお渡しなど、運営サポートを実施した。また、来場者が帰る際には、ハイタッチで見送り、試合会場と同様の盛り上がりを感じてもらえるよう取り組んだ。



チラシの配布（有楽町）



来場者アンケートの実施（調布）



ハイタッチでの観客の見送り（有楽町）

（４）その他の取組

各活動場所の状況に応じ、次の取組を実施した。

ア ミーティング等における対応

集合時は、ボランティアの体調確認を行い、体調不良の方には早退を勧めるとともに、後日、希望に応じて別の日での活動を案内した。

活動前のミーティングでは、当日のシフト表を基に、一日の流れや活動場所の確認を行ったほか、リーダーを中心としたボランティア同士の自己紹介を通じて、活動しやすい雰囲気づくりを行った。

活動後のミーティングでは、活動中に気付いた点を共有し、連絡ノートに意見を記載してもらうことで、翌日以降の活動の改善につなげた。



活動前のミーティング



連絡ノートを使用した情報共有

イ 柔軟な配置換え

観客の来場状況等に加え、ボランティアからの意見も踏まえて、適宜、柔軟な配置変更（シャトルバス乗降場の混雑状況に応じた活動ポストの増など）を実施した。

ウ 台風時の対応

台風 19 号接近時には、気象情報や公共交通機関の状況、ファンゾーンの実施状況等を踏まえ、台風の上陸当日（10 月 12 日（土））は全ての活動を、上陸前日と通過後は一部を除く活動を中止した。

ボランティアには、実施又は中止を判断する日時を事前に伝え、活動前日の 17 時までに決定内容を通知した。

17 サンキューパーティー

大会を支えたボランティアに感謝の意を表すとともに、大会後のボランティア活動継続に向けた気運醸成を目的とし、2019（令和元）年 12 月 7 日（土）及び 8 日（日）に都と組織委員会の共催によるサンキューパーティーを開催した。



受付の様子



参加者全員での写真撮影

18 東京 2020 大会への継承

RWC2019 のボランティアに参加した方々の経験・ノウハウを東京 2020 大会に活かしていくため、都市ボランティア（シティキャスト）への参加を呼び掛けてきた。結果、1,069 人の方が東京 2020 大会のシティキャストとして活動する予定である。

第1部 おもてなし

- 大会を盛り上げるため、スペクテータープラザにおいて、観客に対し、和体験などを提供する（おもてなしイベント）とともに、スタジアム内において、地元3市による演目を実施した（ホストシティパフォーマンス）。
- メディア向けに、都の観光案内や魅力紹介等、開催都市情報を発信した。

1 おもてなしイベント

スペクテータープラザにおいて、観客に対し、試合観戦前後に日本刀実演や箸体験等、和体験を提供するとともに、都内観光案内等を実施した。

来場者数：約 6,500 人（8 試合合計）

<おもてなしイベント一覧>

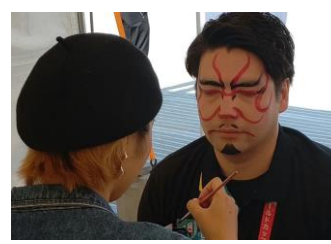
日程	実施内容
9月20日（金）	日本刀体験、箸体験、和メイク体験、東京都 PR
9月21日（土）	日本刀体験、箸体験、東京都 PR
9月29日（日）	折り紙体験、和フォト体験（忍者等との記念撮影）、東京都 PR
10月5日（土）	食品サンプル作り体験、けん玉体験、東京都 PR
10月6日（日）	食品サンプル作り体験、けん玉体験、東京都 PR
10月19日（土）	和柄アクセサリ作り体験、縁日体験、東京都 PR
10月20日（日）	和柄アクセサリ作り体験、縁日体験、東京都 PR
11月1日（金）	書道体験、ハングライダーVR体験、東京都 PR



日本刀体験



箸体験



和メイク体験



折り紙体験



和フォト体験



食品サンプル作り体験



縁日体験



書道体験

2 ホストシティパフォーマンス

地元3市と連携し、スタジアム内において、各試合開始前（開幕戦を除く）に、地元団体による和太鼓や囃子等の演目を約20分間実施し、地域の魅力を発信した。

<出演団体等一覧>

日程・実施時間 ＜試合＞	出演団体	市
9月21日（土） ＜フランス 対 アルゼンチン＞	井の頭「鼓響」	三鷹市
9月29日（日） ＜オーストラリア 対 ウェールズ＞	三鷹阿波踊り振興会	三鷹市
10月5日（土） ＜イングランド 対 アルゼンチン＞	武蔵国府太鼓 響会	府中市
10月6日（日） ＜ニュージーランド 対 ナミビア＞	府中囃子保存会	府中市
10月19日（土） ＜ニュージーランド 対 アイルランド＞	調布よさこい実行委員会	調布市
10月20日（日） ＜日本 対 南アフリカ＞	和太鼓集団 風聚	調布市
11月1日（金） ＜ニュージーランド 対 ウェールズ＞	國府よさこい	府中市



井の頭「鼓響」（三鷹市）



府中囃子保存会（府中市）



調布よさこい実行委員会（調布市）

3 メディア向けの開催都市情報の発信

大会期間中、産業労働局と連携し、ベニューメディアセンター及びメディアカンファレンスセンターにおいて、観光情報等提供デスクを設置し、観光パンフレットやグッズを配布するなど、メディア向けに都の観光案内や魅力紹介等、開催都市情報を発信した。

【設置概要】

- ・ ベニューメディアセンター

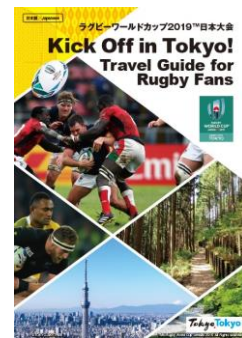
場所：東京スタジアム

日時：東京スタジアムでの試合日及びその前日（計 13 日間）

- ・ メディアカンファレンスセンター

場所：日本青年館（新宿区）

日時：記者会見の実施日（計 3 日間）



RWC2019 向け
観光ガイドブック



観光情報等提供デスクの様子
(メディアカンファレンスセンター)

第2部 観戦招待・交流事業

- RWC2019 開催を契機としたラグビーの振興と、子供たちの競技力向上を目的として、都は、都内及び試合会場のない被災2県（宮城県及び福島県）の子供たちを観戦招待するとともに、交流事業を実施した。
- 事業の対象は、都県ラグビーフットボール協会登録の子供とし、幅広い普及を図るため、競技団体やラグビースクールなど多様な関係者の協力の下、実施した。

1 大会観戦招待

RWC2019 開催を契機としたラグビーの振興と、子供たちの競技力向上を目的として、都は、RWC2019 の試合に、都内及び試合会場のない被災2県（宮城県及び福島県）のラグビーに取り組んでいる子供たちを観戦招待した。

観戦招待に参加した子供たちからは、「一生忘れられない思い出になった」「国を背負ってプレーできる選手になりたい」「外国の人たちと交流できる点が素晴らしい」などの感想が寄せられた。

（1）都民観戦招待

対象：東京都ラグビーフットボール協会登録の中学生及び引率者

参加：1,016人

試合：東京スタジアムで実施するプール戦のうち1試合
（内訳）

9月21日（土）フランス 対 アルゼンチン 151人

9月29日（日）オーストラリア 対 ウェールズ 640人

10月5日（土）イングランド 対 アルゼンチン 225人

（2）被災地観戦招待

対象：宮城県及び福島県ラグビーフットボール協会登録の小学校高学年、中学生、保護者及び引率者

参加：124人

試合：9月21日（土）フランス 対 アルゼンチン

2 被災地交流事業

被災地観戦招待で訪れた宮城県及び福島県の子供たちと、都内でラグビーに取り組んでいる子供たちとが交流する事業を、競技団体やラグビースクールなど多様な関係者の協力の下、実施した。

日時：9月22日（日）

場所：東京スタジアム西競技場（調布市）

対象：被災2県の子供 60人

都内の子供 82人

ゲスト：東芝ブレイブルーパス所属選手 6人



ラグビークリニック

内 容：ラグビークリニック（パスやキック等のトレーニング）、タッチフット（タックルをタッチに代えた簡易型フットボール）、記念撮影



タッチフット



記念撮影

- RWC2019 の成功は、他の開催都市や都内区市町村、民間事業者など多様な主体が様々な取組を行い、「ONE TEAM」となって連携することで成し遂げられた。
- 各開催都市については、開催自治体協議会等を通じた連携・協力をを行い、大会成功に向けて活動した。また、テストマッチの機会等を捉え、ともに大会気運の醸成を図った。大会期間中は、ファンゾーン区部会場への各開催都市の PR コーナーの設置など、国内外からの来場者に各都市の魅力を発信するとともに、大会の盛り上げを全国に波及できるよう取り組んだ。
- 都内区市町村については、首長会等を通じて大会準備に関する協力依頼や情報提供などを行った。各区市町村による大会関連イベントや都市装飾等、大会に向けた準備や気運醸成など様々な取組が行われた。
- 多くの民間事業者とも連携し、大会の気運醸成や大会準備・運営など、様々な取組を行った。

※本章内で記載している各事業は、各章に記載しているものを再掲

1 大会の成功につなぐ様々な取組

RWC2019 は、日本代表の活躍もあり、日本中が大いに盛り上がった。都内においても、スタジアムやファンゾーンをはじめ、様々な場所が連日多くの国内外の観客等で賑わった。

こうした大会の成功は、組織委員会や都による取組だけではなく、他の開催都市や都内区市町村、民間事業者など多様な主体が様々な取組を行い、「ONE TEAM」となって連携することで、相乗効果を生み、成し遂げられたものである。

2 各開催都市との連携

(1) 開催自治体協議会

12 開催都市を構成する 19 自治体が相互に連携・協力し、大会の準備を円滑に進め、大会を成功させることを目的に、2015（平成 27）年 7 月に RWC2019 開催自治体協議会が設立され、東京都知事が会長に就任した。その後、2017（平成 29）年 5 月には、横浜市長が同会長に就任した。

協議会では、大会の気運醸成やラグビーの普及啓発・競技力向上に向けた取組などについて、国等に要望を行った。また、全国自治宝くじ事務協議会への資金協賛の要望を実施し、2016（平成 28）年度から 2019（令和元）年度までの 4 年間で、組織委員会に対し、計 100 億円の資金協賛を得るなど、大会成功に向けた活動を行った。

(2) 気運醸成等

都民・国民の関心が高まるラグビーテストマッチの機会を活用し、各開催都市と連携した取組を行った。

東京スタジアムで開催されたテストマッチでは、各開催都市の PR ブースを設置し、観客に全国の試合会場を広く紹介するとともに、他開催都市からの視察を受け入れ、実施イベントや交通輸送の取組状況を説明するなど、大会に向けた準備状況の共有を行った。

- ・ 2016（平成 28）年 6 月 25 日（土） 日本代表 対 スコットランド代表
- ・ 2017（平成 29）年 6 月 24 日（土） 日本代表 対 アイルランド代表
- ・ 2018（平成 30）年 11 月 3 日（土・祝） 日本代表 対 ニュージーランド代表

また、他の開催都市で開催されたテストマッチでは、都内でパブリックビューイングイベントを開催し、当該都市と一体となって RWC2019 の気運醸成を図った。

＜都内パブリックビューイングイベント（他開催都市が会場のテストマッチ）＞

日程	都内パブリックビューイング会場	試合会場（開催都市）
2016（平成 28）年 6 月 18 日（土）	汐留シオサイト地下歩道（港区）	豊田スタジアム（愛知県・豊田市）
2017（平成 29）年 10 月 28 日（土）	町田ターミナルプラザ 2 階（町田市）	東平尾公園博多の森球技場（福岡県・福岡市）
2017（平成 29）年 11 月 4 日（土）	日比谷公園にれの木広場（千代田区）	横浜国際総合競技場（神奈川県・横浜市）
2018（平成 30）年 6 月 16 日（土）	ベルサール秋葉原（千代田区）	神戸市御崎公園球技場（神戸市）
2018（平成 30）年 6 月 23 日（土）	調布駅前広場、イオンシネマシアタス 調布（調布市）	豊田スタジアム（愛知県・豊田市）
2019（令和元）年 7 月 27 日（土）	町田シバヒロ（町田市）	釜石鶴住居復興スタジアム（岩手県・釜石市）
2019（令和元）年 8 月 3 日（土）	歌舞伎町シネシティ広場（新宿区）	東大阪市花園ラグビー場（大阪府・東大阪市）
2019（令和元）年 9 月 6 日（金）	調布駅前広場（調布市）、 日比谷公園にれのき広場（千代田区）	熊谷ラグビー場（埼玉県・熊谷市）

さらに、大会期間中は、ファンゾーン区部会場に各開催都市の PR コーナーを設置し、物産販売も行うなど、国内外から訪れた来場者に各都市の魅力を発信し、大会の盛り上げを全国に波及できるよう取り組んだ。

（３）他開催都市の取組

大会期間中に、東京以外の 11 会場のうち 7 会場について、試合会場、ファンゾーン等の視察を実施した（台風 19 号の影響等により 4 会場は未実施）。それぞれの会場において、交通輸送やファンゾーン等、各開催都市の状況に応じた様々な取組が行われていた。

ア 札幌市（札幌ドーム）

（ア）視察対象試合

試合日時：2019（令和元）年 9 月 22 日（日）19 時 15 分キックオフ
（イングランド 対 トンガ）

入場者数：35,923 人

(イ) 取組例

- ・ 通常のイベント時には有料で運行している試合会場と市内4駅を結ぶシャトルバスを無料にするとともに、大会用に試合会場とファンゾーンを結ぶ便を特別に用意することで、交通分散を促進
- ・ ファンゾーンの札幌大通公園の会場周辺では、札幌市と札幌観光協会による「さっぽろオータムフェスト」を開催し、面的な盛り上がりを創出
- ・ 「街中コンシェルジュ」としてボランティアを札幌駅中心に配置し、街中案内やフォトフレームによるおもてなしを実施



シャトルバス乗降場



街中コンシェルジュ

イ 埼玉県・熊谷市（熊谷ラグビー場）

(ア) 視察対象試合

試合日時：2019（令和元）年9月24日（火）19時15分キックオフ
（ロシア 対 サモア）

入場者数：22,564人

(イ) 取組例

- ・ 熊谷駅前やラストマイル、ファンゾーン等各所において、市内各地域の山車が来場者を歓迎
- ・ 試合会場の最寄りである熊谷駅から試合会場までは徒歩で約50分かかるため、ラストマイル周辺の店舗等を掲載した「ラグビーロードマップ」を配布し、散策しながらの徒歩での来場を促進
- ・ 熊谷駅から徒歩8分のファンゾーン会場脇に試合会場への直行シャトルバス乗降場を設け、入場時観客を円滑に輸送。また、退場時についても、シャトルバス乗降場に熊谷駅行きの複数のレーンを作り、十分な台数のシャトルバスで多くの観客をシステムチックに輸送



市内各地域の山車



ラグビーロードマップ

ウ 静岡県（小笠山総合運動公園エコパスタジアム）

（ア）視察対象試合

試合日時：2019（令和元）年10月11日（金）19時15分キックオフ

（オーストラリア 対 ジョージア）

※台風19号接近に伴う暴風雨により、駿府城公園のファンゾーンは中止し、視察はハーフタイムまでとした。

入場者数：39,802人

（イ）取組例

- ・ シャトルバスの待機列周辺に、地元産品であるお茶の紹介コーナーを設けて来場者にお茶を振る舞うなど、おもてなしとPRを組み合わせる効果的に実施
- ・ ファンゾーンのほかに、独自でスタジアム周辺に観客向けのおもてなしエリアを設け、地元自治体等による賑わいを創出



地元自治体PR



おもてなしエリア

エ 大阪府・東大阪市（東大阪市花園ラグビー場）

（ア）視察対象試合

試合日時：2019（令和元）年9月28日（土）13時45分キックオフ

（アルゼンチン 対 トンガ）

入場者数：21,917人

（イ）取組例

- ・ 試合会場の最寄りである東花園駅前のロータリーにおいて、退場時は臨時の迂回路を設定して駅構内への入場者数をコントロールすることで、円滑に誘導
- ・ ファンゾーンの大阪天王寺公園エントランスエリア（てんしば）の会場では、ステージ上部にモニターが設置されており、会場後方まで視界を確保



退場時の駅前ロータリー



ファンゾーンの大型モニター

オ 神戸市（神戸市御崎公園球技場）

（ア）視察対象試合

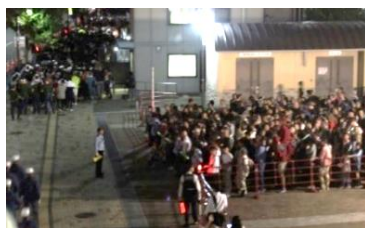
試合日時：2019（令和元）年10月8日（火）19時15分キックオフ

（南アフリカ 対 カナダ）

入場者数：28,014人

（イ）取組例

- ・ 試合会場の最寄駅である御崎公園駅からスタジアムまでの動線において、片側の歩道のみに観客を誘導し、車道との境界にはロードコーン等を設置して乱横断を防止することにより、円滑に移動
- ・ 退場時は、試合会場がある御崎公園の敷地から外に出る際に退場規制を実施
- ・ ファンゾーンでは、平尾誠二氏の足跡をパネル、映像等で伝える展示が実施されており、多くの観客に同氏の功績とラグビーの魅力を発信



規制退場



平尾誠二氏に関する展示

カ 福岡県・福岡市（東平尾公園博多の森球技場）

（ア）視察対象試合

試合日時：2019（令和元）年9月26日（木）16時45分キックオフ

（イタリア 対 カナダ）

入場者数：16,984人

（イ）取組例

- ・ 試合会場の最寄駅である福岡空港駅から試合会場まで徒歩で約25分かかるが、案内スタッフやサインを多数配置し、丁寧に誘導
- ・ 退場時は、福岡空港駅へ向かう徒歩動線と反対方向にシャトルバスの乗降場を設定することで人の流れを分割し、円滑な移動を確保



ラストマイルの案内サイン



退場時の誘導

キ 大分県（大分スポーツ公園総合競技場）

（ア）視察対象試合

試合日時：2019（令和元）年10月2日（水）19時15分キックオフ
（ニュージーランド 対 カナダ）

入場者数：34,411人

（イ）取組例

- ・ 試合会場から徒歩圏内に鉄道駅がなく、シャトルバスがメインのアクセス手段となるため、大分駅において、十分なシャトルバスの台数と待機列スペースを確保
- ・ 大分駅から徒歩すぐの場所にファンゾーンがあり、シャトルバス乗り場と隣接しているため、「ファンゾーンに寄ってからスタジアムへ」という観客の流れを形成
- ・ ファンゾーンにおいては、屋内の大型ビジョンによるパブリックビューイングだけではなく、屋外のレストエリアにもテレビサイズのモニターを設置して観戦できるようにするなど、多様な観戦スタイルを提供



シャトルバスの待機列スペース



屋外レストエリア

3 都内区市町村との連携

都内区市町村に対して、区長会、市長会、町村会等を通じて、東京スタジアムで行われるテストマッチ開催に合わせた気運醸成など、大会準備に関する協力依頼や情報提供などを行った。

各区区市町村は、都と連携・協力した取組を実施するとともに、独自に大会の気運を醸成するなど、都内における大会の盛り上げを図った。

（1）区市町村との連携による都の取組

- ・ ラグビーテストマッチに合わせて開催したイベントにおける地元3市によるブース出展など、連携したイベント運営
- ・ 街灯フラッグの掲出や庁舎への懸垂幕の掲出など、都市装飾による大会気運の醸成
- ・ ファンゾーン会場におけるPRエリアでの都内区市町村の魅力発信
- ・ 地元3市を含む「東京スタジアムの会場周辺及びアクセス検討プロジェクトチーム」での交通輸送の検討や公認チームキャンプ地誘致等、連携した準備・対応

ラグビーワールドカップ2019™ 日本大会 開催にかかる東京スタジアム 近隣の皆様へのお知らせ				
2019（令和元）年9月20日（金）～11月2日（土）の間、ラグビーワールドカップ2019™日本大会が開催され、東京スタジアムでは開会式及び閉会式をはじめ多くの試合が行われます。				
大会の開催及びその準備に伴い、東京スタジアムの近隣の道路には会場内における演出やイベント等による混雑、大会関係者車両や観客による混雑、交通規制などをご迷惑をお掛けします。何卒ご理解いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。				
東京スタジアムの試合日程（8試合）				
試合日	開会式及び試合開始時間	予定時刻	試合時間	試合
9月20日（金）	18:30	21:20	22:50	開会式
	19:45			日本対スコットランド（準々決勝）
9月21日（土）	16:15	17:50	19:20	フランス対アルゼンチン
			20:50*	
9月29日（日）	16:45	18:20	19:50	オーストラリア対ウェールズ
10月5日（土）	17:00	18:35	20:05	イングランド対サモア
			21:35*	
10月6日（日）	13:45	15:20	16:50	ニュージーランド対サモア
10月10日（土）	19:15	20:50	22:20	日本対韓国
10月20日（日）	19:15	20:50	22:20	日本対韓国
11月1日（金）	19:00	19:35	21:05	全日本対韓国

※開会式は試合開始の3時間前（開会式は開会式の3時間前）を予定
※試合日当日は公式観戦券を所持、スタジアムやメディア関係者等がスタジアムに到着（観戦は無し）
※10月15日（土）、20日（日）の試合が雨天決行により延期となった場合は、10月22日（日）に実施予定
注：9月21日（土）と10月5日（土）は東京スタジアムの周辺道路のみの交通規制を実施予定

※試合は、スタジアム及び会場周辺道路において、開会式から閉会式までの間に1時間以上は実施予定です。
試合当日イベント開催中、観客が会場内に入場し、観戦が完了した後に会場内を退場する必要があります。
9月20日（金）の開会式、閉会式は18時に開会、17時に閉会、17時30分から18時30分までファンゾーンにファンゾーンが設置され、ファンゾーンにはお祭り気分を演出しています。9月21日（土）はファンゾーンにファンゾーンが設置され、ファンゾーンにはお祭り気分を演出しています。
※観客は、会場内にはお祭り気分を演出しています。9月21日（土）はファンゾーンにファンゾーンが設置され、ファンゾーンにはお祭り気分を演出しています。
※交通規制（7日間）の区域については、別紙をご覧ください。
※東京スタジアム周辺道路の交通規制は、ファンゾーンを閉鎖します（観戦は無し）。

お問い合わせ先
（TEL）ラグビーワールドカップ2019™日本大会
事務局（会場内）：03-5320-7774
TEL 03-5320-7774

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
ラグビーワールドカップ2019™日本大会
事務局（会場外）：03-5320-7774
TEL 03-5320-7774

近隣住民への周知チラシ

- 東京スタジアムの近隣住民に対する、地元3市及び組織委員会と連携した大会開催への理解と協力をお願い

- 試合会場内における演出やイベント等による音出し
- 大会関係車両や観客による混雑
- 交通規制 など

(2) 区市町村による取組

- 各区市町村において、大会の気運醸成を図るため、独自に RWC2019 の関連イベントや PR 活動、都市装飾を実施

<区市町村による主なイベントや PR 活動>

※RWC2019 の名称やロゴを活用した事業

区市町村名	取組内容
文京区	カウントダウンイベント、クリアファイルの作成、広報紙への掲載等
墨田区	100 日前イベント、東京スカイツリーライトアップ
目黒区	RWC2019 啓発イベント
練馬区	広報紙への掲載
武蔵野市	武蔵境ラグビーボールモニュメント完成披露セレモニー
府中市	500 日前・100 日前記念フォーラム、「ラグビーのまち府中デー」での PR
昭島市	広報紙への掲載
調布市	ラグビースクラムフェスティバル、広報紙への掲載、カウントダウンボードの制作等
町田市	講演会「RWC2019 に向けて」
狛江市	大畑大介さんの親子ラグビー教室
稲城市	稲城市ラグビー祭り
西東京市	広報紙への掲載
奥多摩町	ウォーキングイベントでの PR

<区市町村による主な都市装飾>

※RWC2019 の名称やロゴを活用した事業

区市町村名	取組内容	装飾場所
港区	のぼり旗等	パブリックビューイング会場
台東区	街灯フラッグ、のぼり旗、横断幕	パブリックビューイング会場
墨田区	のぼり旗	東京スカイツリータウン
中野区	のぼり旗、横断幕等	中野駅東西連絡路、パブリックビューイング会場
北区	のぼり旗	パブリックビューイング会場
練馬区	壁面シート	区役所
武蔵野市	横断幕、地上機器ラッピング	市内駅
青梅市	地上機器ラッピング	市役所、青梅駅前
府中市	ラッピングバス、地上機器の装飾	府中市内、けやき並木通り
昭島市	街灯フラッグ	パブリックビューイング会場、主要幹線道路、市役所
調布市	駅装飾、懸垂幕、横断幕、ウォールギャラリー、調布駅装飾	調布駅、市有施設等

町田市	街灯フラッグ、横断幕	町田駅周辺等
日野市	街灯フラッグ、のぼり旗、横断幕	パブリックビューイング会場、市有施設
狛江市	のぼり旗、ボールモニュメント	パブリックビューイング会場、市役所、狛江駅
西東京市	懸垂幕	パブリックビューイング会場



東京スカイツリータウン（墨田区）



中野駅東西連絡路（中野区）

- ・ 区市町村において、大会期間中、地域の盛り上げを図るため、独自にパブリックビューイングを実施

<区市町村によるパブリックビューイング>

区市町村名	開催日数	開催場所
港区	4	品川インターシティ、トレードピア、DECKS 東京ビーチ、区立芝公園
新宿区	14	伊勢丹新宿店本館屋上、歌舞伎町シネシティ広場
文京区	1	東京ドームシティアクアガーデン
台東区	2	御徒町南口駅前広場
墨田区	6	東京スカイツリータウン®スカイアリーナ
中野区	1	中野体育館
杉並区	1	セノンスポーツゼロ
北区	5	赤羽体育館
練馬区	3	石神井区民交流センター、ココネリホール、練馬文化センター
足立区	1	足立区役所
武蔵野市	4	境南ふれあい広場公園、武蔵野陸上競技場、武蔵野総合体育館
三鷹市	2	三鷹駅前コミュニティ・センター
青梅市	1	青梅市文化交流センター
府中市	11	けやき並木通り、府中市市民活動センター
昭島市	1	栗田工業昭島グラウンド
町田市	3	町田ターミナルプラザ市民広場、町田市生涯学習センターホール、和光大学ボプリホール鶴川
日野市	2	ひの煉瓦ホール小ホール（日野市民会館）、イオンモール多摩平の森
国分寺市	1	cocobunji ブラザリオンホール
狛江市	3	狛江エコルマホール、狛江市えきまえ広場
西東京市	1	ASTA 西東京



区立芝公園（港区）



cocobunji プラザリオンホール
（国分寺市）



狛江エコルマホール（狛江市）

- ・ 公認チームキャンプ地となった武蔵野市、府中市、町田市は、チーム受入に向けた施設整備を実施

<都内公認チームキャンプ地自治体による主な施設整備>

区市町村名	主な整備内容
武蔵野市	諸室改修、芝生改良、ラグビーゴール基礎設置
府中市	芝生改良、フェンス設置、夜間照明設置
町田市	ラグビーゴール基礎設置

なお、都は、スポーツ振興等事業費補助の拡充、東京 2020 大会及び RWC2019 開催関連事業費補助の新設により、公認チームキャンプ地整備やパブリックビューイング、都市装飾など、ハード・ソフト両面において、区市町村による大会に向けた準備や気運醸成の取組を支援した。

4 民間事業者との連携

大会の気運醸成や大会準備・運営等において、多くの民間事業者により様々な取組が行われた。

（１）ファンゾーン区部会場と連携し、丸の内エリア等を盛り上げ

大会スポンサーである三菱地所（株）は、丸の内エリアにおいて、RWC2019 を盛り上げる「丸の内 15 丁目プロジェクト」を展開した。

都が丸ビルで開催した 100 日前イベントでの会場協力のほか、同プロジェクトの一環で「丸の内 15 丁目るるぶ」を発行し、ファンゾーン区部会場を含め、丸の内エリアの様々なラグビー情報を掲載した。

また、丸ビルマルキューブにおけるパブリックビューイングの実施や様々なラグビー関連オブジェの展示などにより、大会を盛り上げた。

さらに、銀座エリアでは、地元商店街等の協力を得て、ファンゾーンのチラシをボランティアが配布するなど、ファンゾーンの PR を行い、ファンゾーン区部会場では、周辺地図を配布し、飲食店等の紹介を行うなど、相互に PR を実施し、面的な盛り上がりを創出した。



丸の内 15 丁目るるぶ

（２）様々な施設等の壁面を装飾し、街中における RWC2019 の雰囲気醸成

大会スポンサーであるキヤノン（株）の協力の下、RWC2019 の気運醸成を目的に、ラグビーの迫力ある大型写真を印刷・掲示するプロジェクト「ラグビーウォールギャラリー」を実施した。都内では、34 か所（うち、都との連携は 13 か所）に掲出し、大会を盛り上げた。



スバルビル解体工事仮囲い
（新宿駅西口）



調布駅前広場

（３）多くの来場者で賑わう施設を装飾し、RWC2019 を PR

日本空港ビルデング（株）の協力を得て、東京の玄関である羽田空港国内線旅客第 1 ・第 2 ターミナルを大会のカラーで装飾し、日本全国から訪れる観戦客を迎え入れた。また、（株）東京国際フォーラムの協力を得て、ファンゾーンのある有楽町と丸の内エリアを結ぶ東京国際フォーラムの地上広場や地下 1 階に装飾を行い、多くの来場者に大会を PR した。



羽田空港国内線第 2 ターミナル



東京国際フォーラム地上広場

（４）商店街に街灯フラッグを掲出し、地域の気運を醸成

東京都商店街振興組合連合会及び東京都商店街連合会等の協力を得て、2018（平成 30）年 11 月に東京スタジアムで開催されたラグビーテストマッチの機会を捉え、都内約 20 エリアの商店街に街灯フラッグ約 4,000 枚を掲出した。

また、大会期間中には、都内全域の約 1,100 の商店街において、街灯フラッグ約 43,000 枚が掲出された。



大会期間中

（５）東京スタジアムへの円滑な観客輸送を実現

東京スタジアムは、周辺に鉄道・バス等の公共交通機関が発達している一方、入退場時には、飛田給駅への観客の集中が見込まれることから、京王電鉄（株）により、特急・準特急の飛田給駅への臨時停車及び飛田給駅発の臨時列車の増発が実施された。

また、多様なルートを確保することで試合会場へのアクセスを容易にするとともに、飛田給駅の混雑を緩和するため、西武鉄道（株）による多磨駅における臨時列車の実施や、小田急バス（株）及び京王電鉄バス（株）によるシャトルバスの運行が行われた。これらの交通事業者の取組により、円滑な観客輸送が図られた。

なお、京王電鉄（株）や西武鉄道（株）、小田急バス（株）、京王電鉄バス（株）をはじめとする様々な交通事業者が、電車・バスへの装飾に協力し、大会の気運醸成に貢献した。



シャトルバスの運行（小田急バス）



電車への装飾（京王線）

（６）RWC2019 を盛り上げ、感動を共有

大会スポンサーである読売新聞社と連携し、RWC2019 特集号を発行し、多くの人々に大会の応援を呼びかけ、大会の盛り上げに取り組んだ。

また、大会期間中の思い出や感動を共有し、魅力を発信できるよう、写真パネルを作成し、写真展を開催したほか、大会を総括し、その熱気や感動を東京 2020 大会につなげるため、大会終了後に RWC2019 記念シンポジウムを開催した。



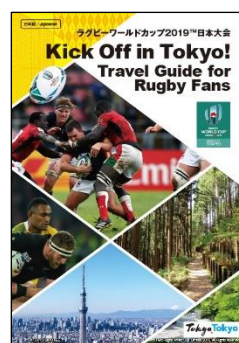
RWC2019 特集号

５ 庁内各局との連携

大会の成功に向け、産業労働局における RWC2019 向け観光ガイドブックの作成や商店街への街灯フラッグ掲出など、各局においても関連事業を実施するとともに、より一層、事業効果を高めるため、

- ・ 交通局における車体ラッピング
- ・ 下水道局における下水道公共汚水ます蓋への装飾
- ・ 生活文化局におけるファンゾーン等でのヘブンアーティスト出演
- ・ 環境局における「分別ナビゲーター」の配置によるごみ分別促進の取組

など、各局が実施する事業と連携し、気運醸成や大会準備に取り組んだ。



RWC2019 向け
観光ガイドブック

また、大会期間中は、ラストマイル上に救護スペースを設置し、病院経営本部の協力を得て、都立病院の医師、看護師を配置したほか、交通輸送、セキュリティ、ファンゾーン等の運営について、東京 2020 大会の都市運営等に関係する各局（総務局、都市整備局、環境局、福祉保健局、病院経営本部、産業労働局、建設局、港湾局、交通局、下水道局）の職員、延べ 90 人の協力を得て、運営体制を整えた。

- 大会終了後、大会の思い出や感動を共有するための大会写真展を、都庁舎や都内自治体で開催するとともに、RWC2019の熱気を東京2020大会につなげる記念シンポジウムを開催した。
- また、大会を通じて盛り上がったラグビー熱を一過性のものとせず、大会後も東京のラグビー文化の定着を図るとともに、RWC2019を通じて得た様々な経験や知見を東京2020大会の成功につなげていく。

1 大会写真展

RWC2019の余韻を味わいつつ、大会期間中の思い出や感動を共有し、ラグビーの魅力を発信できるよう、読売新聞社との連携により写真パネルを作成し、都庁舎及び大会にゆかりのある都内自治体で展示した。

あわせて、東京スタジアムで試合を行った代表チームのサイン入りジャージやラグビーボールも展示した。

- ・ 都庁第一本庁舎1階東京観光情報センター
期 間：2019（令和元）年11月6日（水）～12日（火）
展示物：大会写真パネル、代表チームのサイン入りジャージ・ラグビーボール



都庁舎内写真展

- ・ 都内自治体

<都内自治体における写真展の実施状況>

※実施順

自治体	場所	実施期間
三鷹市	三鷹中央防災公園・中央広場	2019（令和元）年11月3日（日）
港区	みなとパーク芝浦2階アトリウム	2019（令和元）年11月14日（木）～20日（水）
府中市	市庁舎1階市民談話室	2019（令和元）年11月22日（金）～28日（木）
調布市	調布市文化会館たづくり1階エントランス	2019（令和元）年12月17日（火）～22日（日）

2 RWC2019 記念シンポジウム

日本中が熱狂に包まれた本大会を総括し、その熱気と感動を東京2020大会につなげるため、大会終了後にシンポジウムを開催した。

来場者からは、「RWC2019の成功をもとに、さらに東京2020大会も盛り上がると感じた」、「RWC2019の盛り上がり、スポーツ観戦の文化を2020年につなげていくことは非常に大切だ

と思った」などの感想が寄せられ、東京 2020 大会への期待が感じられたシンポジウムとなった。また、このシンポジウムの様子は、後日、採録記事としてまとめられ、読売新聞紙面や同社 HP に掲載された。

- 日 程：2019（令和元）年 12 月 12 日（木）
場 所：JP タワー ホール&カンファレンス（千代田区）
主 催：東京都、読売新聞社
内 容：①トークセッション「国際大会の日本開催成功の鍵」
大畑大介氏（RWC2019 アンバサダー）、
ヨーコ ゼッターランド氏（東京 2020 大会組織委員会理事）
②プレゼンテーション 1「大会運営の舞台裏～ボランティアと共に～」
組織委員会ボランティア担当
③プレゼンテーション 2「参加企業による大会での取組」
大会スポンサー セコム（株）
④アスリートセッション「From 2019 to 2020」
小笹知美氏（ラグビー女子セブンズ日本代表）、横尾千里氏（ラグビー女子セブンズ日本代表）、植草歩氏（全日本空手道連盟ナショナルチーム）、島川慎一氏（車いすラグビー日本代表）

来場者：約 350 人



トークセッション



アスリートセッション



2019（令和元）年 12 月 25 日付 読売新聞朝刊
（一部地域除く）

3 ラグビー文化の定着に向けた取組

大会期間中、東京スタジアムやファンゾーンには多くの観客等が訪れ、応援するチームに関わらず交流するなど、大いに盛り上がり、ラグビーを楽しんでいる光景が見られた。

大会を通じて盛り上がったラグビー熱を一過性のものとせず、大会後も東京のラグビー文化の定着を図る取組を実施していく。

- ・ 競技団体等と連携して、ラグビーに取り組む子供たちが、ラグビーを楽しみながら一層競技力を向上させるような取組を実施する。また、大会を契機としてラグビーに興味を持った人が気軽にラグビーに触れられる機会などを提供することで、東京におけるラグビーの裾野拡大を図っていく。
- ・ 都内の公立スポーツ施設のうち、ラグビーができる施設の情報を集約し、HP 等で分かりやすく情報を提供していく。
- ・ 都立公園の整備の機会等を捉えた、ラグビーができる場の確保など、庁内各局と連携して取り組んでいく。
- ・ RWC2019 の盛り上がりを継続させていくため、JRFU や他の開催都市等と連携し、ラグビーの普及に向けて取り組んでいく。

4 東京 2020 大会につながる知見

RWC2019 で得られた知見を、東京 2020 大会におけるラストマイル運営やライブサイト運営、ボランティア活動などの大会準備に活かしていく。

【主な知見】

- ・ ラストマイル運営
ラストマイル運営では、発生する事案に対して、迅速な状況の把握、適切な意思決定と対応が求められることから、円滑な情報収集・報告ルールを整備するとともに、配置される職員のトレーニングを行うことが重要である。
また、傷病者が発生した場合の報告要領や救護所スタッフ間の連絡方法などについても、検討が必要である。
- ・ ファンゾーン運営
ファンゾーンにおいて、当初、想定を上回る来場者があり、混雑時の誘導や入場規制など、緊急の対応を行う必要が生じた。こうした事態に備え、案内誘導スタッフや警備員の配置、入場時対応等、事前の準備を万全にするとともに、状況に応じた柔軟かつ迅速な対応が必要である。
- ・ ボランティア活動
活動後のミーティングなどで、ボランティアから出された意見を翌日以降の運営の改善につなげていくことは有用であった。ボランティアの声を踏まえ、より視認性に優れた対応可能言語の表示や、翻訳アプリの活用方法に関する丁寧な説明などについて対応していくことが必要である。
なお、都内で活動したボランティアのうち 1,069 人は、RWC2019 の知見・経験を活かして東京 2020 大会のシティキャストとしても活動する予定である。

- ・ 交通輸送

交通輸送については、入退場時の混雑緩和を図るため、京王電鉄（株）など公共交通機関による特急電車の臨時停車や臨時列車の増便、シャトルバスの運行などにより対応した。こうした対応を行うに当たっては、準備段階から交通事業者、警視庁及び地元自治体等との緊密なコミュニケーションを図ることが重要である。

- ・ 都市装飾

台風上陸時の経験から、暴風時における街灯フラッグの破損を避けるため、フラッグを取り付けるバーなどに巻き付け、固定化することで破損を未然に防ぐことなどの対策が有効である。

- ・ 多言語対応

試合会場等に来場した外国人の声を踏まえ、案内表示の整備や翻訳ツールの利用など、一層の多言語対応の推進が必要である。

- ・ 台風対応

台風 19 号上陸時には、ファンゾーンの開催中止、開始時間の変更などを行っており、その際には、気象情報を収集しつつ、組織委員会、地元自治体、公共交通機関と緊密に連絡を取りながら対応した。非常時において、柔軟かつ迅速に対応ができるよう、あらかじめ関係機関との連絡体制を構築していくことが求められる。

- ・ その他

今後、東京 2020 大会の準備の過程を通して明らかになる共通課題については、RWC2019 の運営実績を参考にしながら検討していく。

RWC2019 の成功に向けて、こうした知見のほか、様々な主体と連携・協力して行ってきた大会準備や大会期間中の取組を貴重なレガシーとして、目前に迫る東京 2020 大会に活かし、成功につなげていく。